

理学療法士の福祉用具・義肢・装具支援に関する実態調査
報告書

平成29年3月

日本支援工学理学療法学会

はじめに

日本支援工学理学療法学会
代表運営幹事 大峯 三郎

この度、日本支援工学理学療法学会は、日本理学療法士協会からの要請を受けて、各分野や領域に従事する理学療法士を対象として、標記にある福祉用具・義肢・装具の支援や活用に関する理学療法士の関与状況等の実態について調査する運びとなりました。

理学療法は対象者の機能障害が活動及び参加の制限や制約に至る過程において、科学的根拠に基づく様々な治療介入によってこれらの軽減や改善に努め、できる限り対象者のQOLを高めていくことを本質的概念としています。福祉機器や義肢、装具等は、理学療法を進めるうえでこれらの治療介入時の重要な治療手段として位置付けられており、対象者の急性期から生活期まで深く関与しています。さらに理学療法士の専門分野としても広く受け入れられているのが現状です。しかしながら福祉機器や義肢、装具の導入や活用の関与状況については、理学療法士の臨床経験や考え方によって左右される傾向が強く、理学療法士の間でもかなりの温度差を生じているのも事実です。これによって対象者への不利益が生じてはならないと考えています。さらにリハビリテーション医療に携わる医師やその他の専門職からも福祉機器・義肢・装具に関する専門的知識や技術の未熟さ等についての指摘がなされており、今後、この領域に関する理学療法士の専門性が今まで以上に問われていくことや、他の専門職にとって代わる可能性についても危惧されるところです。

過去、このような背景のもとで理学療法士を対象として、福祉機器・義肢・装具に関する理学療法士の状況、卒前及び卒後教育、課題や展望などを含む全国的規模での実態調査についての報告は見当たらず、その必要性からこの度の調査に至りました。本調査結果が対外的にも対内的にも、これからの理学療法士の専門性をより一層高めるとともにその確立のための一助となることを強く願っています。

目次

第1章 主な調査結果	P5
第2章 本事業の概要	P42
第1節 事業概要	P43
第2節 委員名簿	P43
第3節 スケジュール	P44
第4節 方法	P45
第3章 結果	P46
1. 回収状況	P47
2. 単純集計結果	P48
3. クロス集計結果	P60
第4章 事例報告	P112
第5章 考察	P134
第6章 資料	P137
1. 調査票	P138

第 1 章 主な調査結果

理学療法士の福祉用具・義肢・装具支援に関する 実態調査

調査結果の概要

日本支援工学理学療法学会

目次

1. 基本情報
2. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の関与状況
3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種
4. 福祉用具・義肢・装具の支援に理学療法士が関与できない理由
5. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の教育状況
6. 最新情報の入手状況
7. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士への期待
8. 総括
9. 課題

1. 基本情報

1. 基本情報

1) 回答状況

8,468の医療・介護・福祉施設に回答を依頼し、3,936施設から有効な回答が得られた。
(有効回答率45.4%)

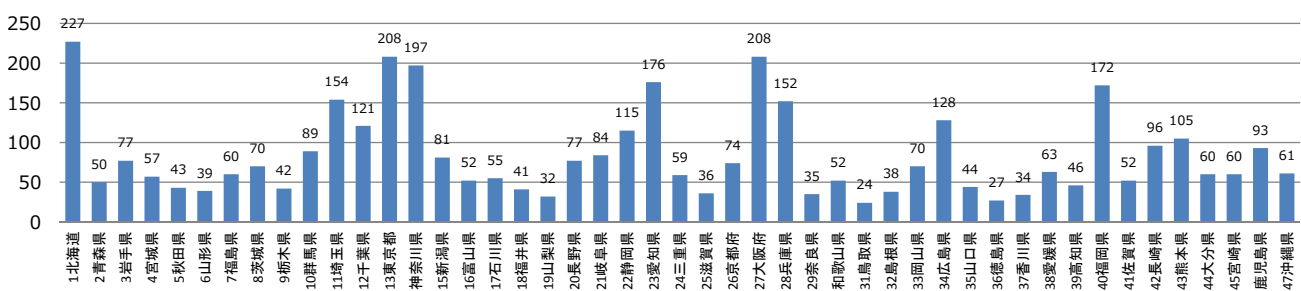
2) 施設の種別別 回答状況

	度数	%
TOTAL	3936	100.0
医療機関	2746	69.8
福祉施設	712	18.1
在宅サービス事業所	365	9.3
その他 具体的に:	113	2.9

3) 都道府県別 回答状況

単位：度数

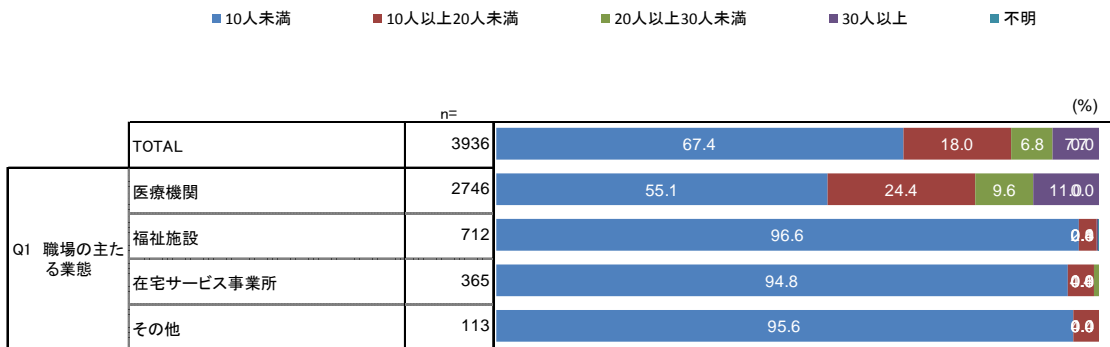
都道府県別 回答状況



1. 基本情報

4) 従事する理学療法士の人数

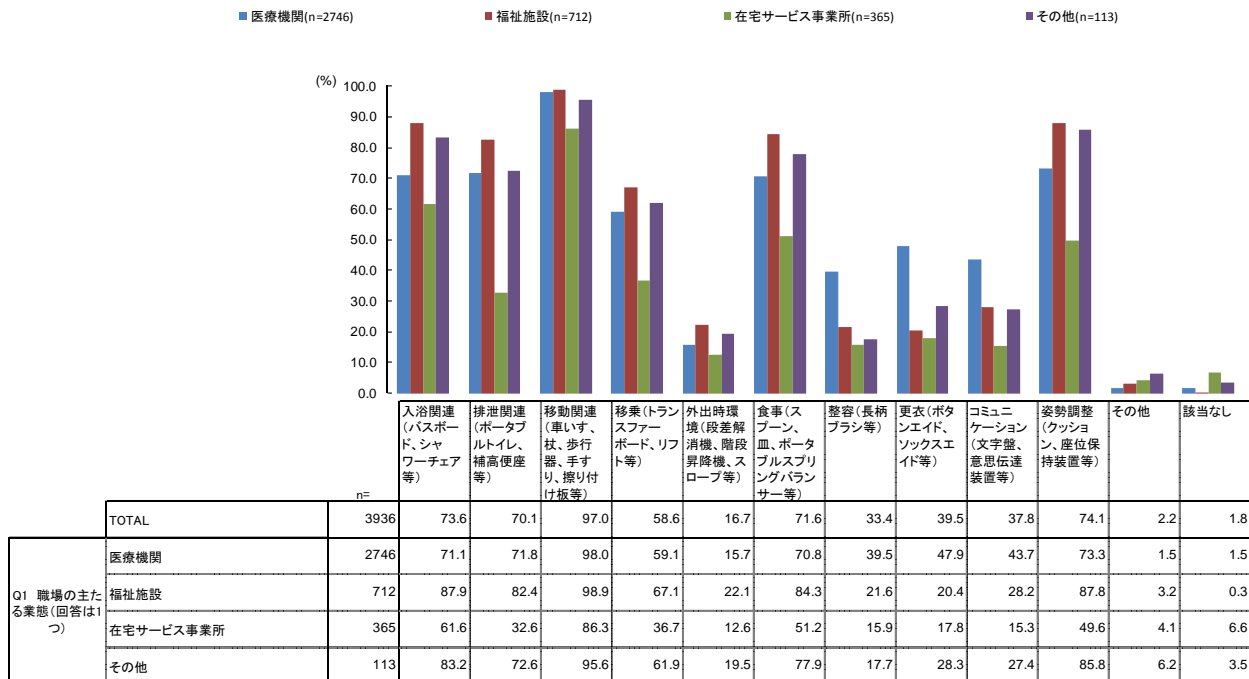
従事する理学療法士の人数が10人未満の割合は、医療機関で55.1%、福祉施設で96.6%、在宅サービス事業所で94.8%であった。



1. 基本情報

5) 備品の設備状況 (福祉用具)

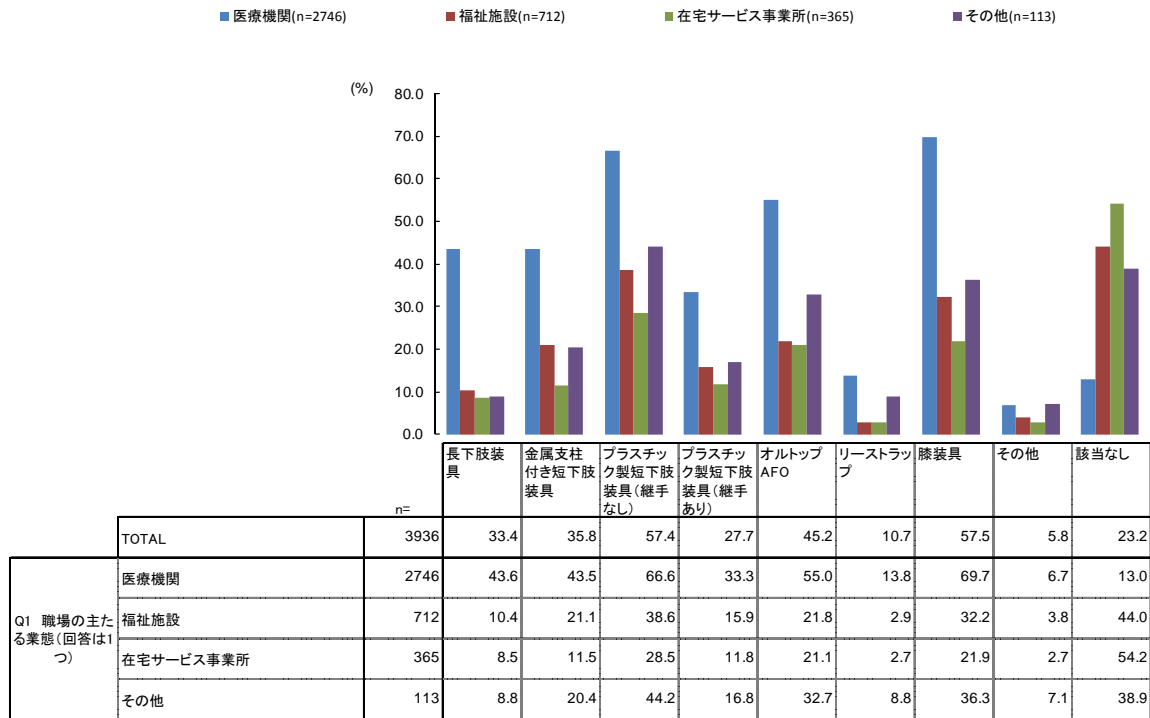
備品 (福祉用具) の設備状況は、医療機関、福祉施設、在宅サービスで異なる。



1. 基本情報

6) 備品の設備状況 (装具)

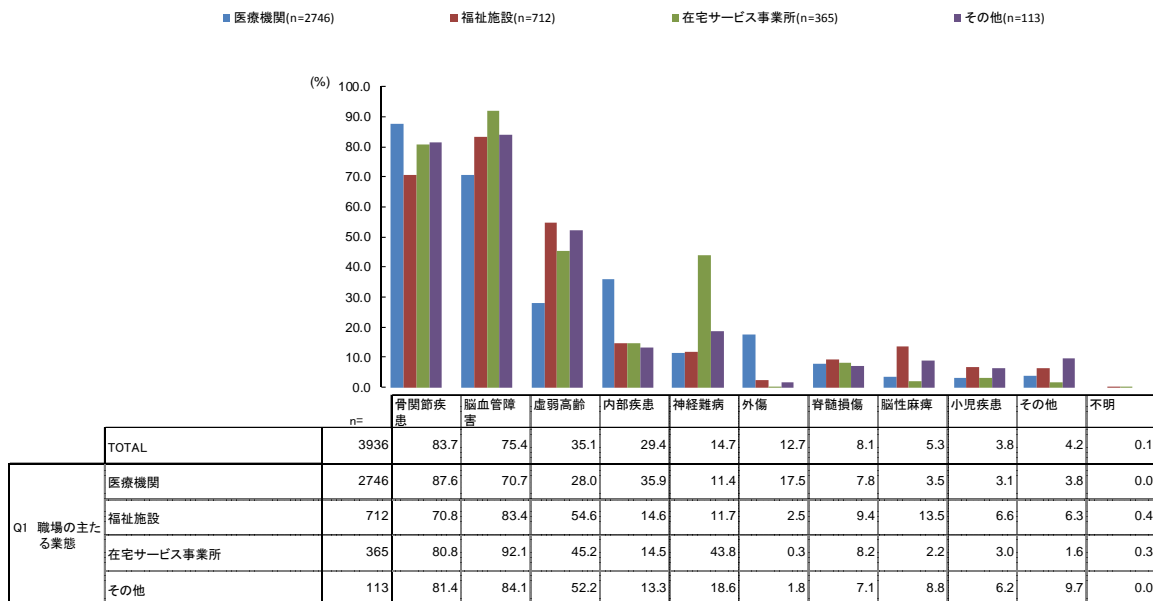
備品 (装具) の設備状況は、医療機関、福祉施設、在宅サービスで異なる。



1. 基本情報

7) 主に携わる疾患

共通して骨関節疾患、脳血管障害を患う患者が多い。



1. 基本情報

8) 理学療法士が福祉用具・義肢・装具支援に関わる患者・利用者の割合

福祉用具・義肢・装具では理学療法士の関わりに差がある。

理学療法士が関わる支援対象者全体のうち
福祉用具の支援を必要とする患者・利用者の割合 (%)

1段目 度数 2段目 横%	0	1	2	3	4	5
	TOTAL	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
0 TOTAL	3936 100.0	52.0	50	30.10	0	100
1 医療機関	2746 100.0	44.0	40	29.90	0	100
2 福祉施設	712 100.0	71.0	80	25.70	0	100
3 在宅サービス事業所	365 100.0	70.0	80	26.50	0	100
4 その他	113 100.0	66.0	80	29.20	0	100

理学療法士が関わる支援対象者全体のうち
義肢の支援を必要とする患者・利用者の割合 (%)

1段目 度数 2段目 横%	0	1	2	3	4	5
	TOTAL	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
0 TOTAL	3936 100.0	4.0	0	10.50	0	100
1 医療機関	2746 100.0	4.0	0	11.30	0	100
2 福祉施設	712 100.0	3.0	0	9.80	0	100
3 在宅サービス事業所	365 100.0	2.0	0	4.90	0	50
4 その他	113 100.0	2.0	0	4.00	0	20

理学療法士が関わる支援対象者全体のうち
装具の支援を必要とする患者・利用者の割合 (%)

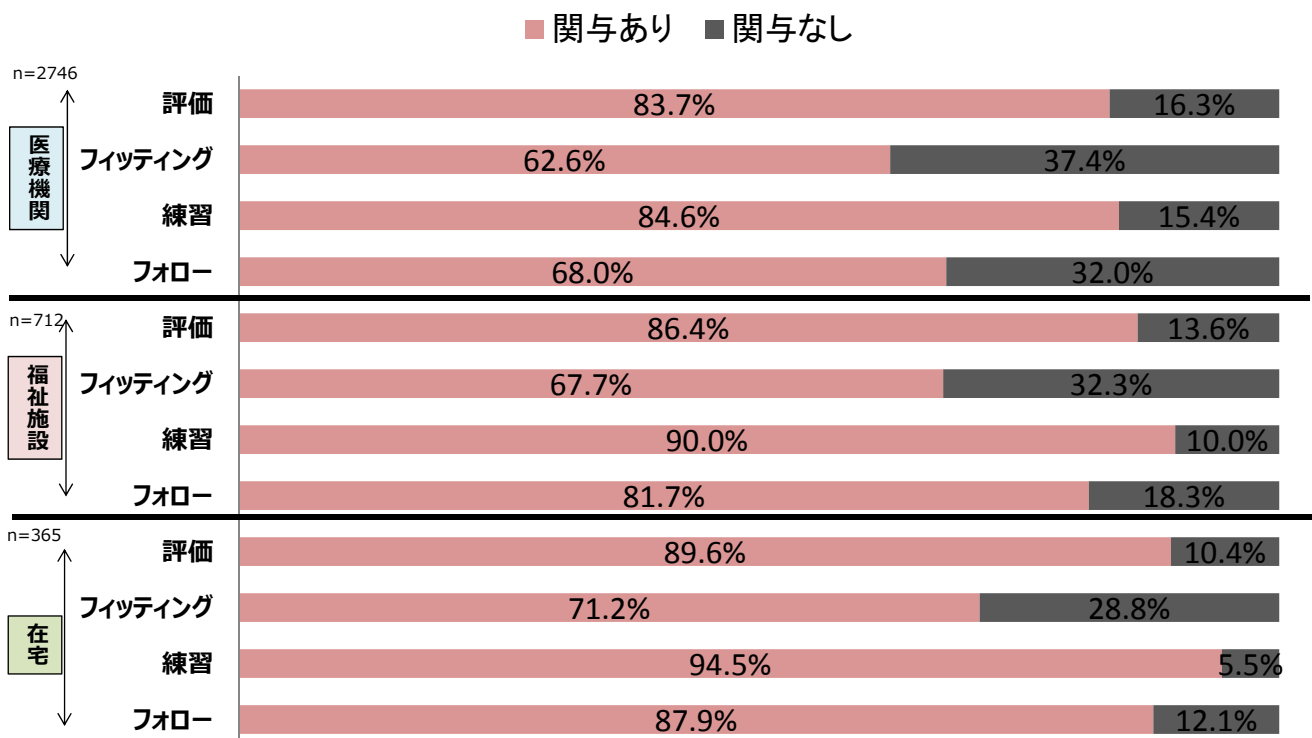
1段目 度数 2段目 横%	0	1	2	3	4	5
	TOTAL	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
0 TOTAL	3936 100.0	21.0	10	19.20	0	100
1 医療機関	2746 100.0	22.0	10	20.00	0	100
2 福祉施設	712 100.0	20.0	10	17.70	0	100
3 在宅サービス事業所	365 100.0	19.0	20	14.30	0	80
4 その他	113 100.0	24.0	20	21.20	0	90

2. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の関与状況

2. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の関与状況

1) 理学療法士の福祉用具への関与状況

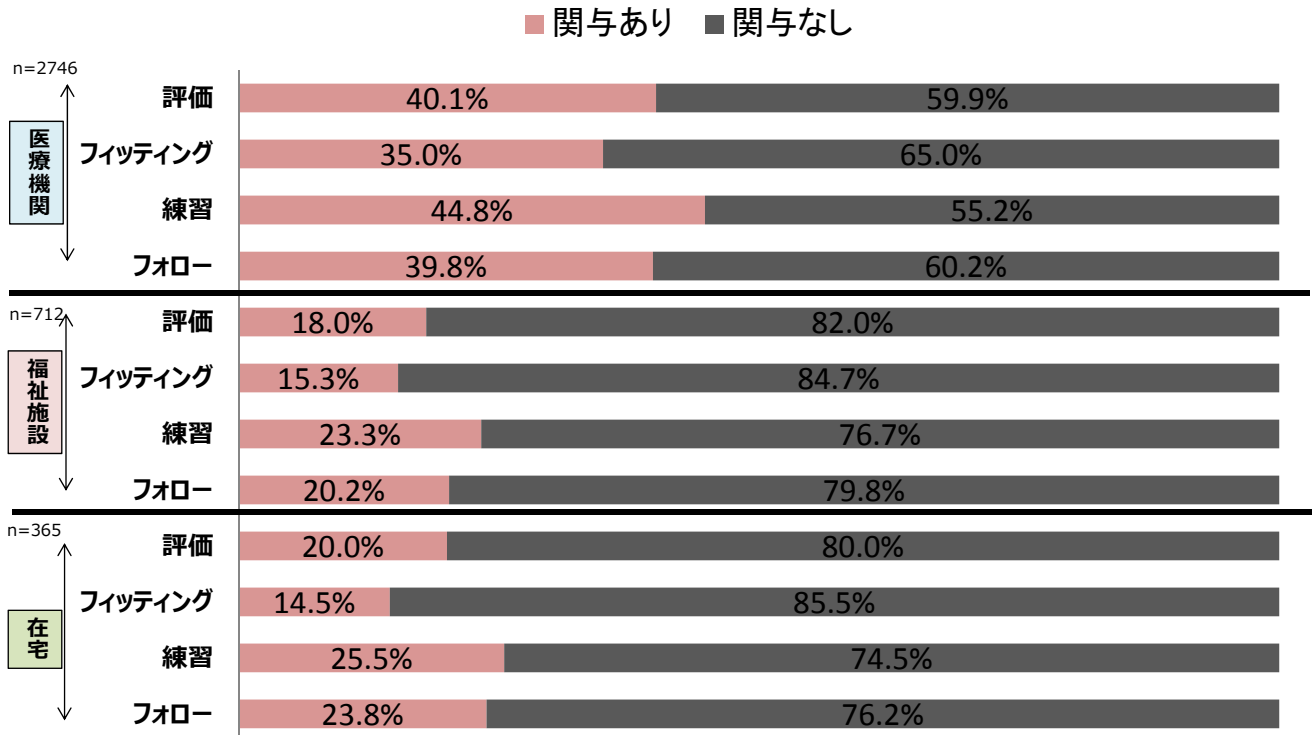
福祉用具を導入する際の評価に、理学療法士が関わっている割合は医療機関で84%、福祉施設で86%、在宅で90%程度である。



2. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の関与状況

2) 理学療法士の義肢への関与状況

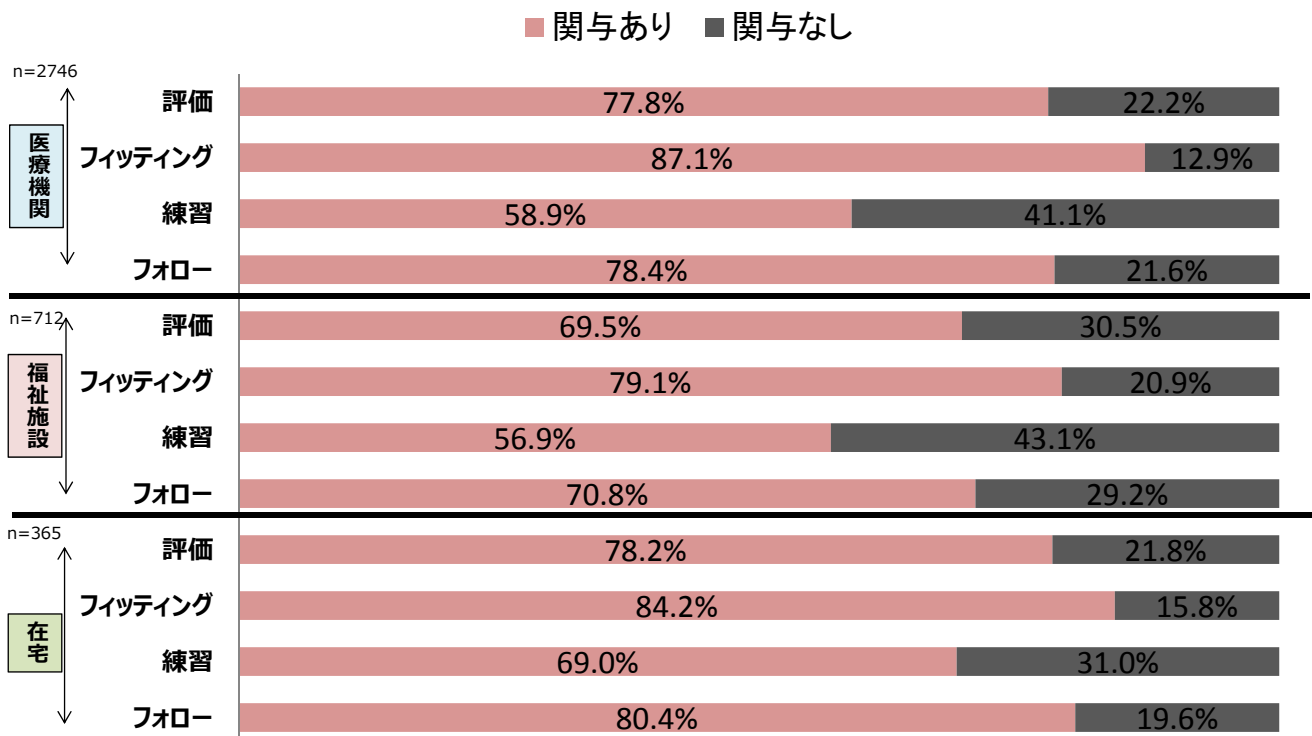
義肢を導入する際の評価に、理学療法士が関わっている割合は医療機関で40%、福祉施設で18%、在宅で20%程度である。



2. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の関与状況

3) 理学療法士の装具への関与状況

装具を導入する際の評価に、理学療法士が関わっている割合は医療機関で78%、福祉施設で70%、在宅で78%程度である。



3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種

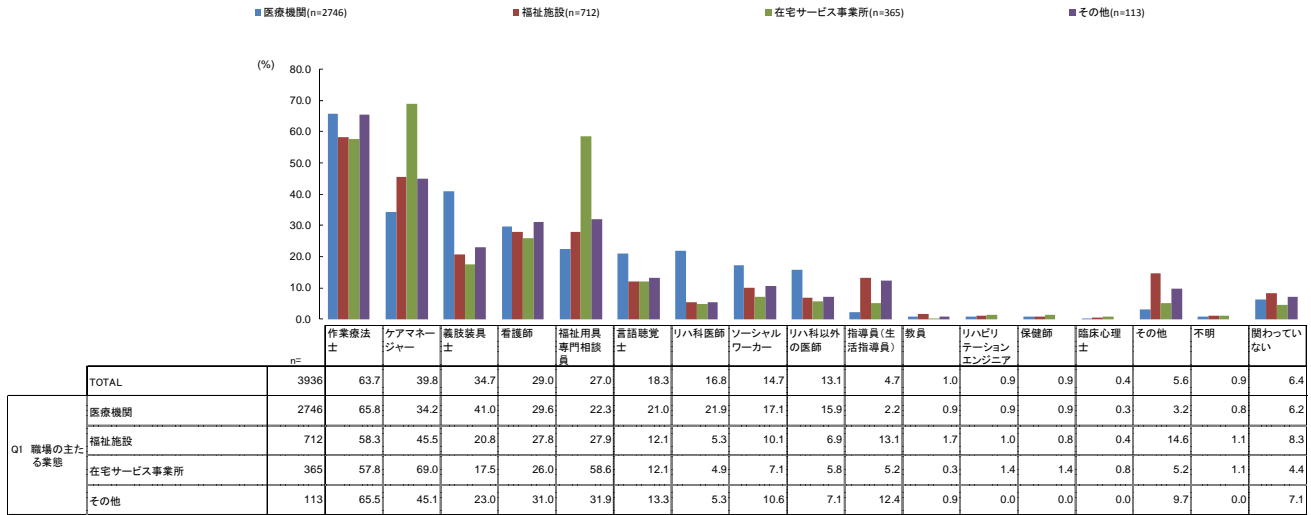
福祉用具について

3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種

1) 福祉用具の評価に関わる、理学療法士以外の職種

理学療法士以外に、作業療法士やケアマネジャー、義肢装具士、看護師、福祉用具相談員等が評価を行っている。

理学療法士以外に評価に関わる職種

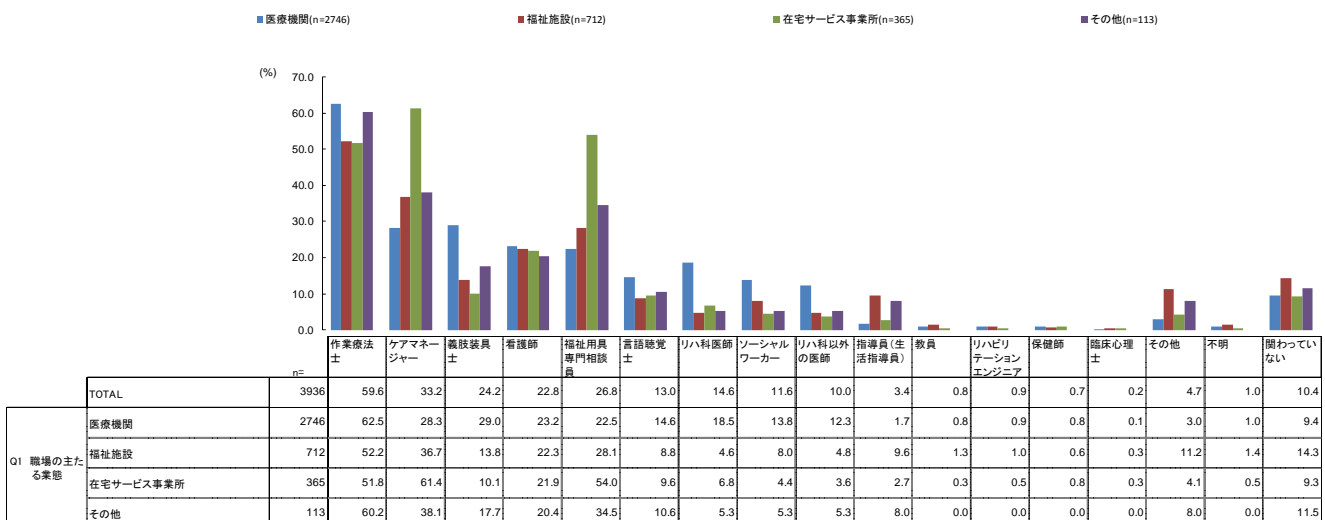


3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種

2) 福祉用具のフィッティングに関わる、理学療法士以外の職種

理学療法士以外に、作業療法士やケアマネジャー、義肢装具士、看護師、福祉用具相談員等がフィッティングを行っている。

理学療法士以外にフィッティングに関わる職種

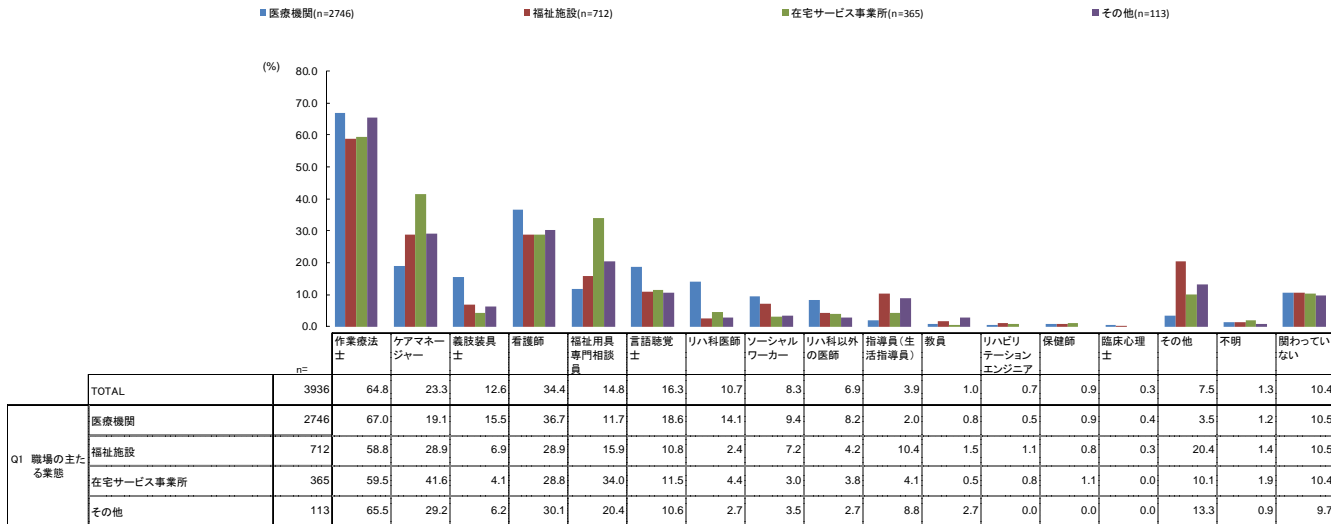


3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種

3) 福祉用具を用いた練習に関わる、理学療法士以外の職種

理学療法士以外に、作業療法士やケアマネジャー、義肢装具士、看護師、福祉用具相談員等が練習を行っている。

理学療法士以外に練習に関わる職種

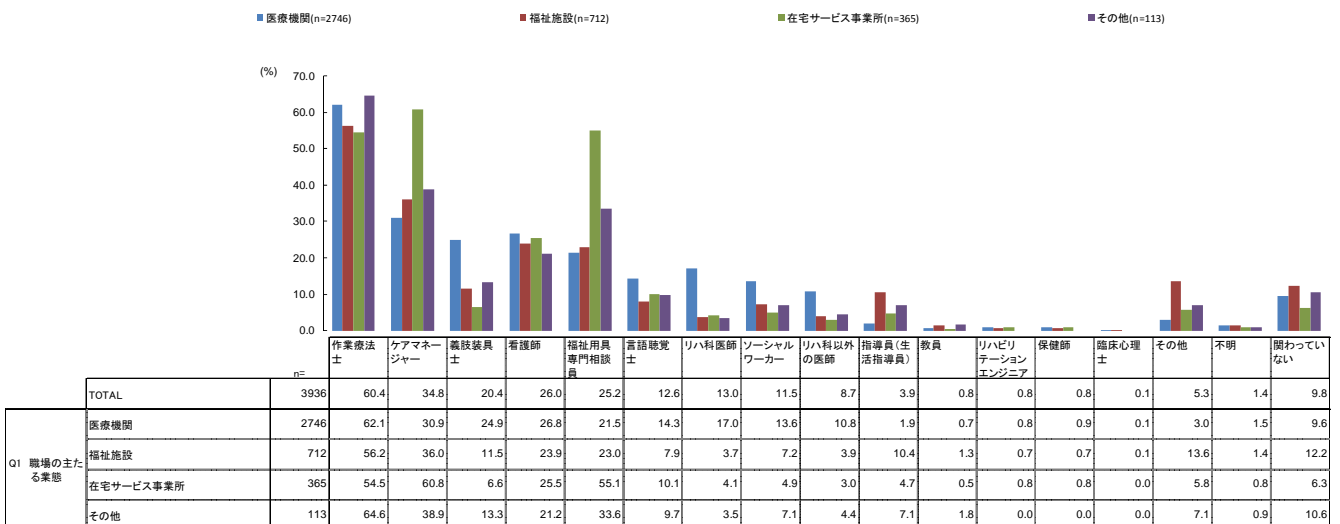


3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種

4) 福祉用具の導入後のフォローに関わる、理学療法士以外の職種

理学療法士以外に、作業療法士やケアマネジャー、義肢装具士、看護師、福祉用具相談員等がフォローを行っている。

理学療法士以外にフォローに関わる職種



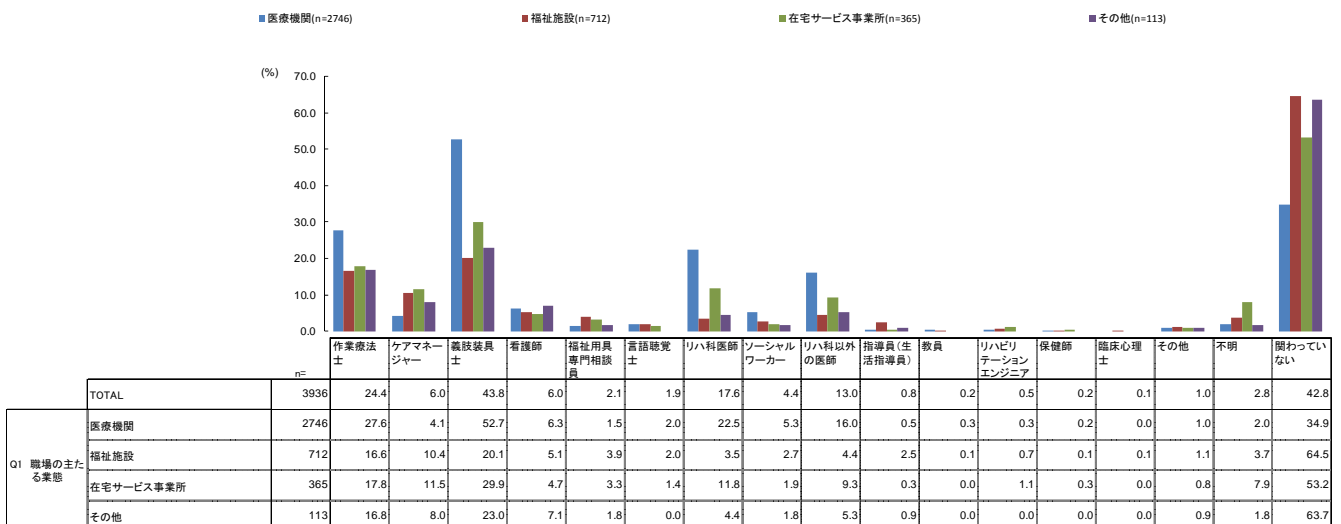
義肢について

3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種

5) 義肢の評価に関わる、理学療法士以外の職種

理学療法士以外に、医療機関では義肢装具士が評価を行っているケースが多い。

理学療法士以外に評価に関わる職種

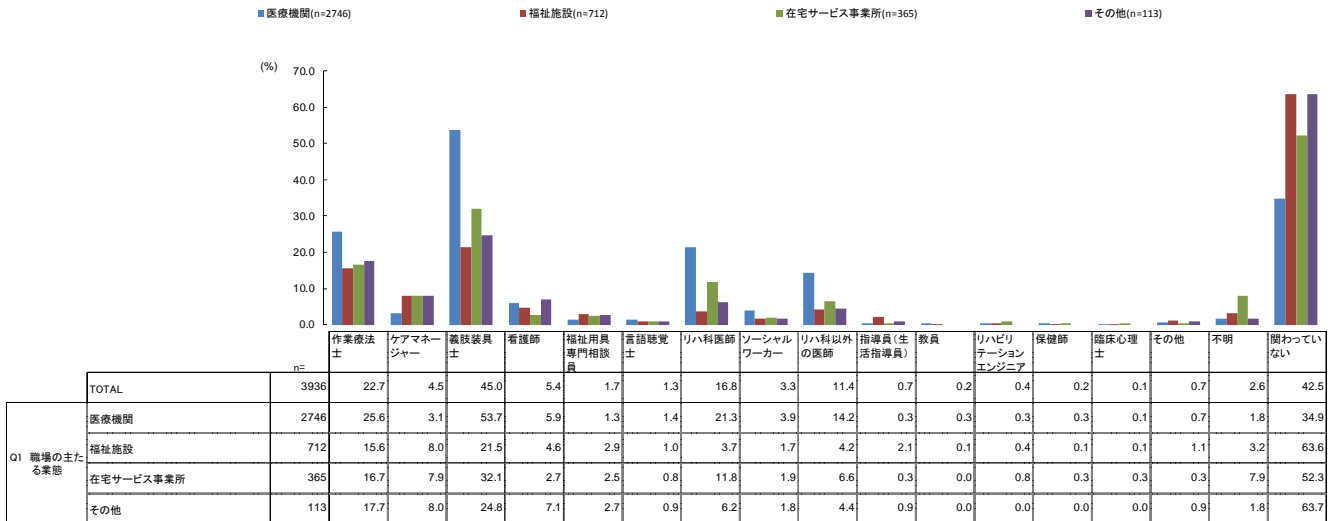


3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種

6) 義肢導入時のフィッティングに関わる、理学療法士以外の職種

理学療法士以外に、医療機関では義肢装具士がフィッティングを行っているケースが多い。

理学療法士以外にフィッティングに関わる職種

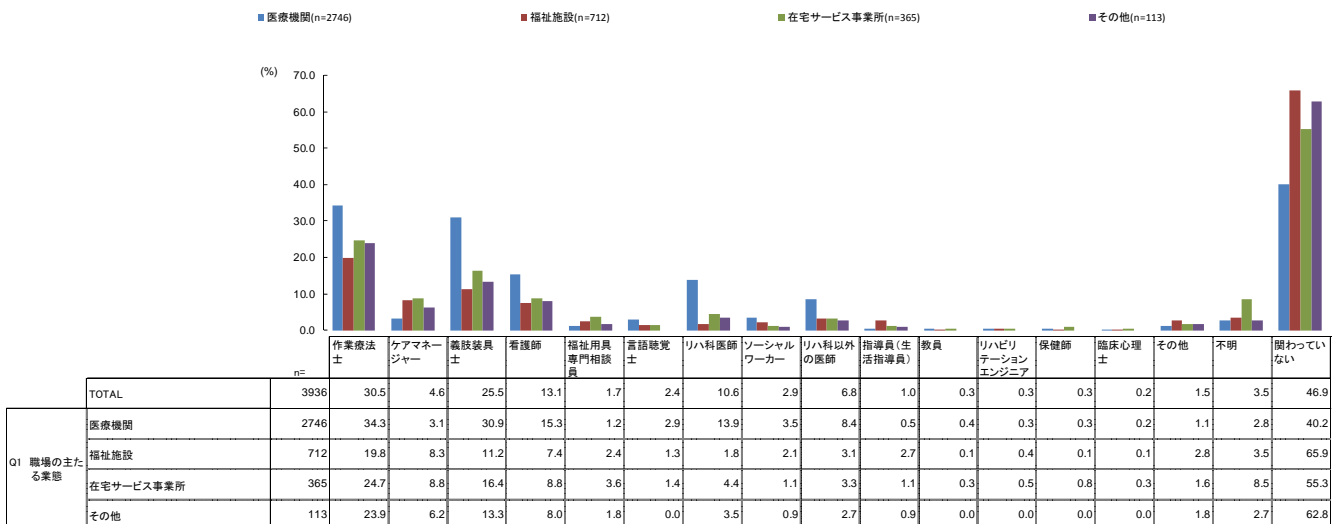


3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種

7) 義肢のADL練習に関わる、理学療法士以外の職種

理学療法士以外に、医療機関では作業療法士がADL練習を行っているケースが多い。

理学療法士以外にADL練習に関わる職種

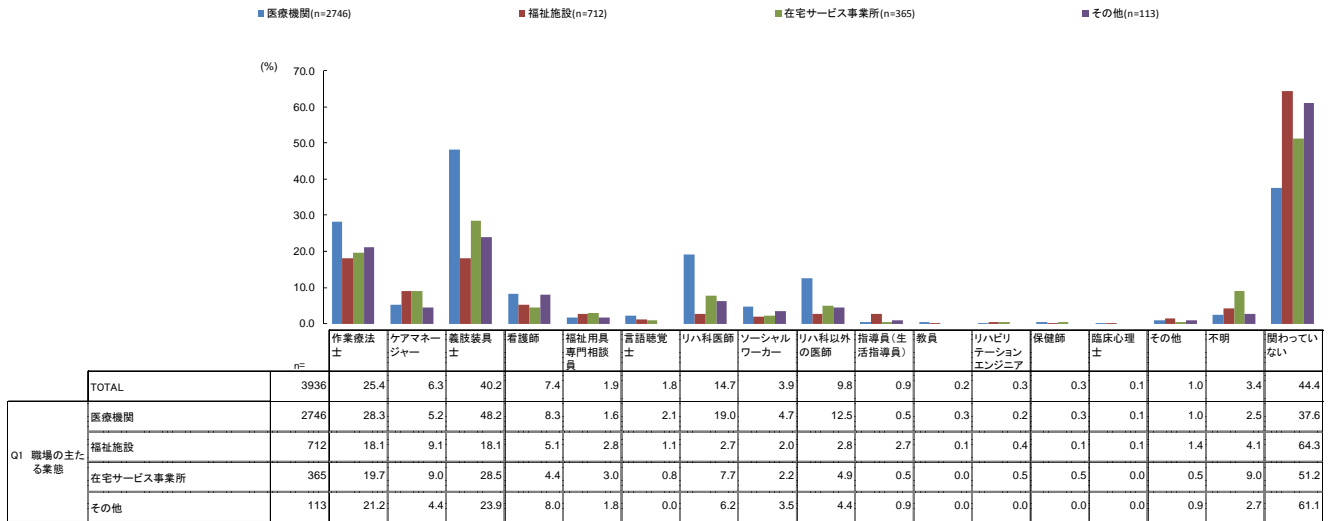


3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種

8) 義肢導入後のフォローに関わる、理学療法士以外の職種

理学療法士以外に、医療機関では義肢装具士がフォローを行っているケースが多い。

理学療法士以外にフォローに関わる職種



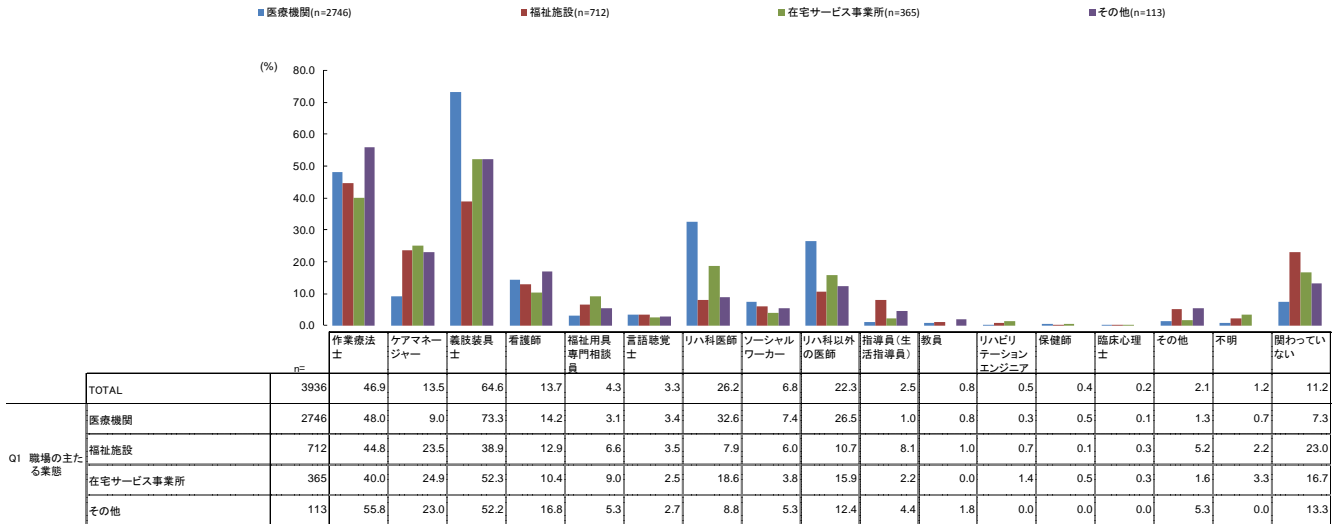
装具について

3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種

9) 装具の評価に関わる、理学療法士以外の職種

理学療法士以外に、義肢装具士や作業療法士が評価に関わっているケースが多い。

理学療法士以外に評価に関わる職種

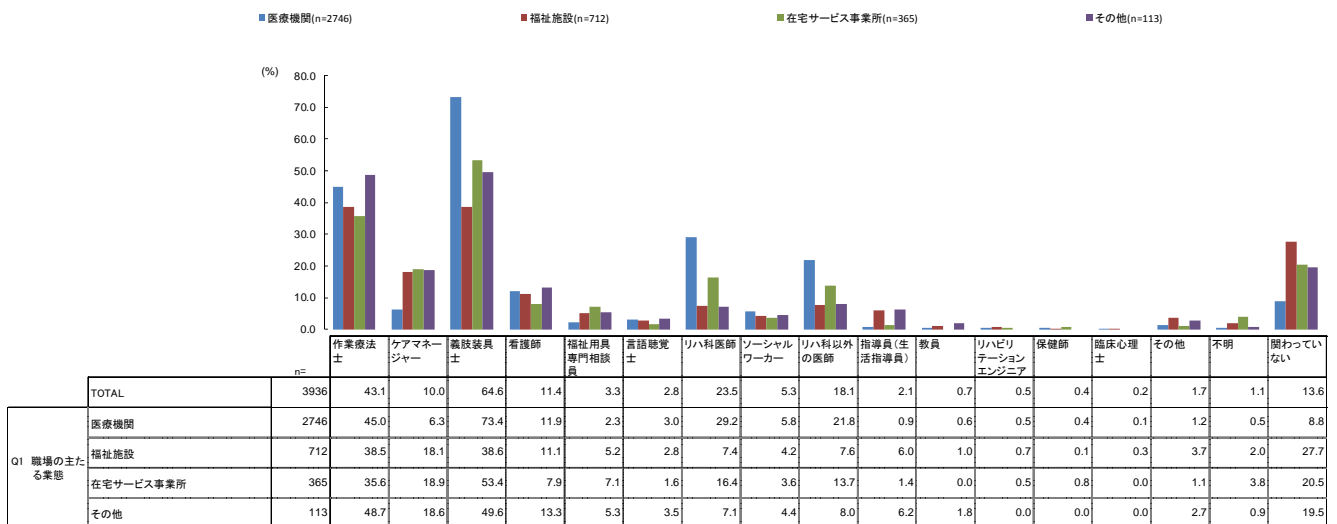


3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種

10) 装具のフィッティングに関わる、理学療法士以外の職種

理学療法士以外に、義肢装具士や作業療法士がフィッティングに関わっているケースが多い。

理学療法士以外にフィッティングに関わる職種

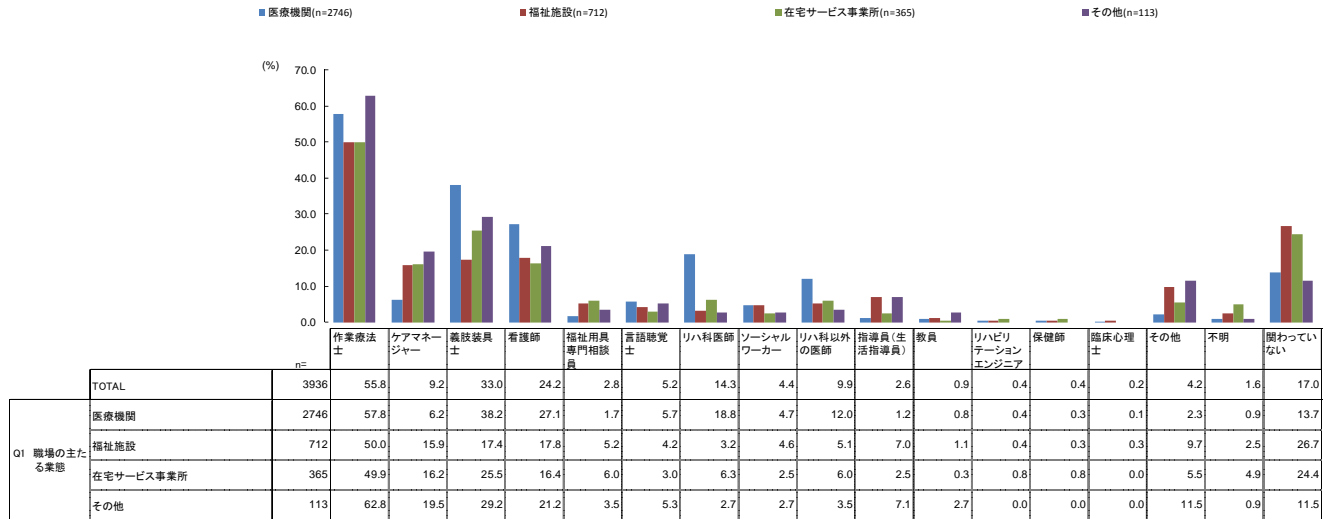


3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種

1 1) 装具のADL練習に関わる、理学療法士以外の職種

理学療法士以外に、義肢装具士や作業療法士、看護師がADL練習に関わっているケースが多い。

理学療法士以外にADL練習に関わる職種

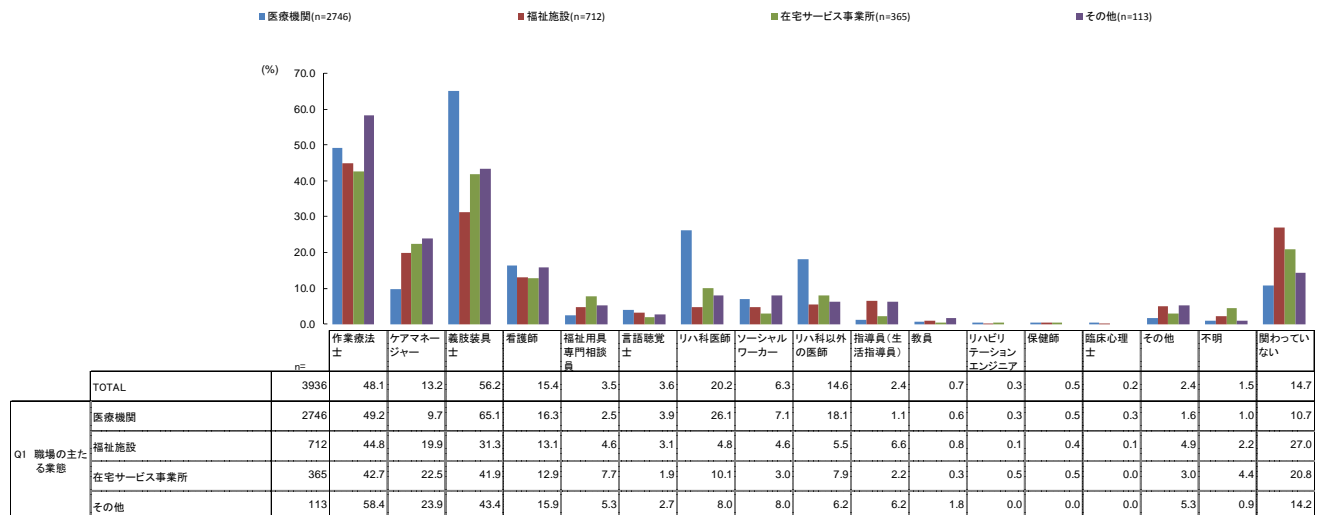


3. 福祉用具・義肢・装具の支援に関与する、理学療法士以外の職種

1 2) 装具導入後のフォローに関わる、理学療法士以外の職種

理学療法士以外に、義肢装具士や作業療法士がフォローに関わっているケースが多い。

理学療法士以外にフォローに関わる職種



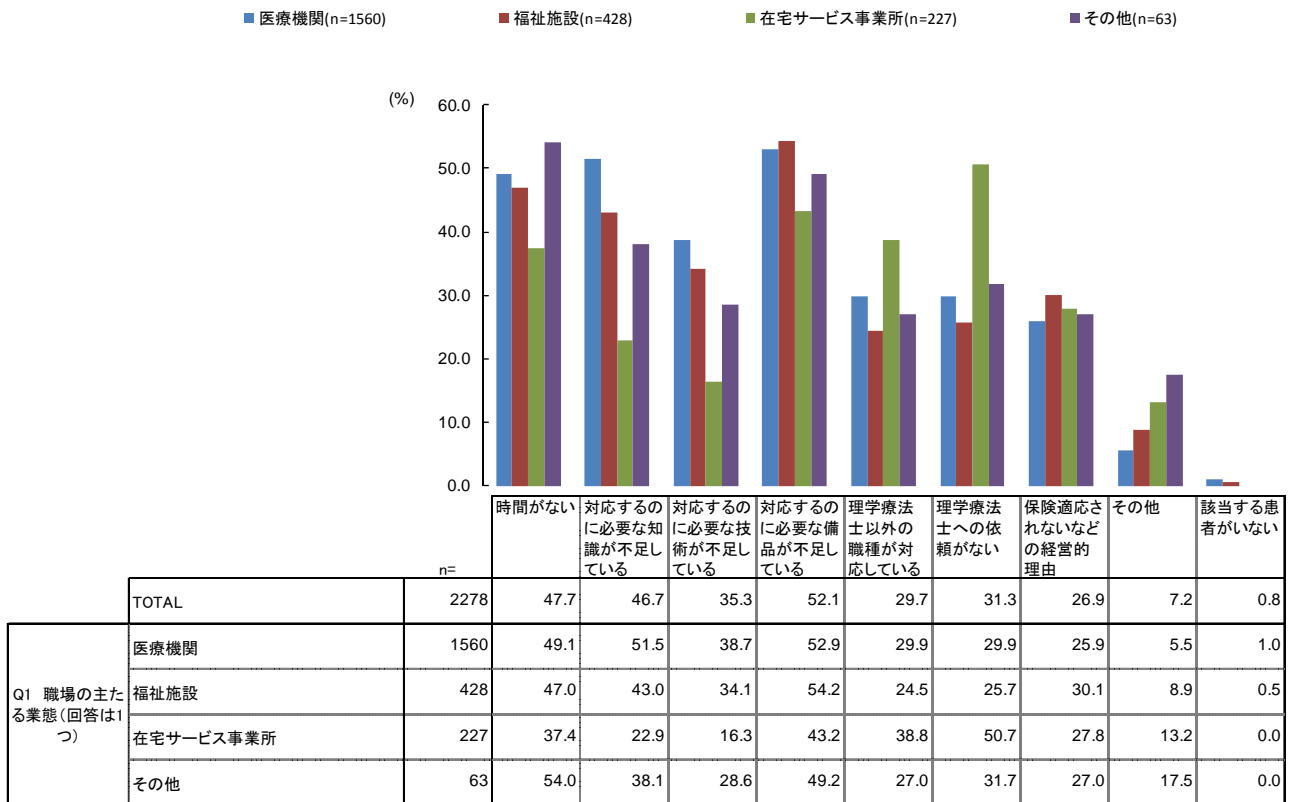
4. 福祉用具・義肢・装具の支援に 理学療法士が関与できない理由

福祉用具について

4. 福祉用具・義肢・装具の支援に理学療法士が関与できない理由

1) 理学療法士が福祉用具の評価に関与できない理由

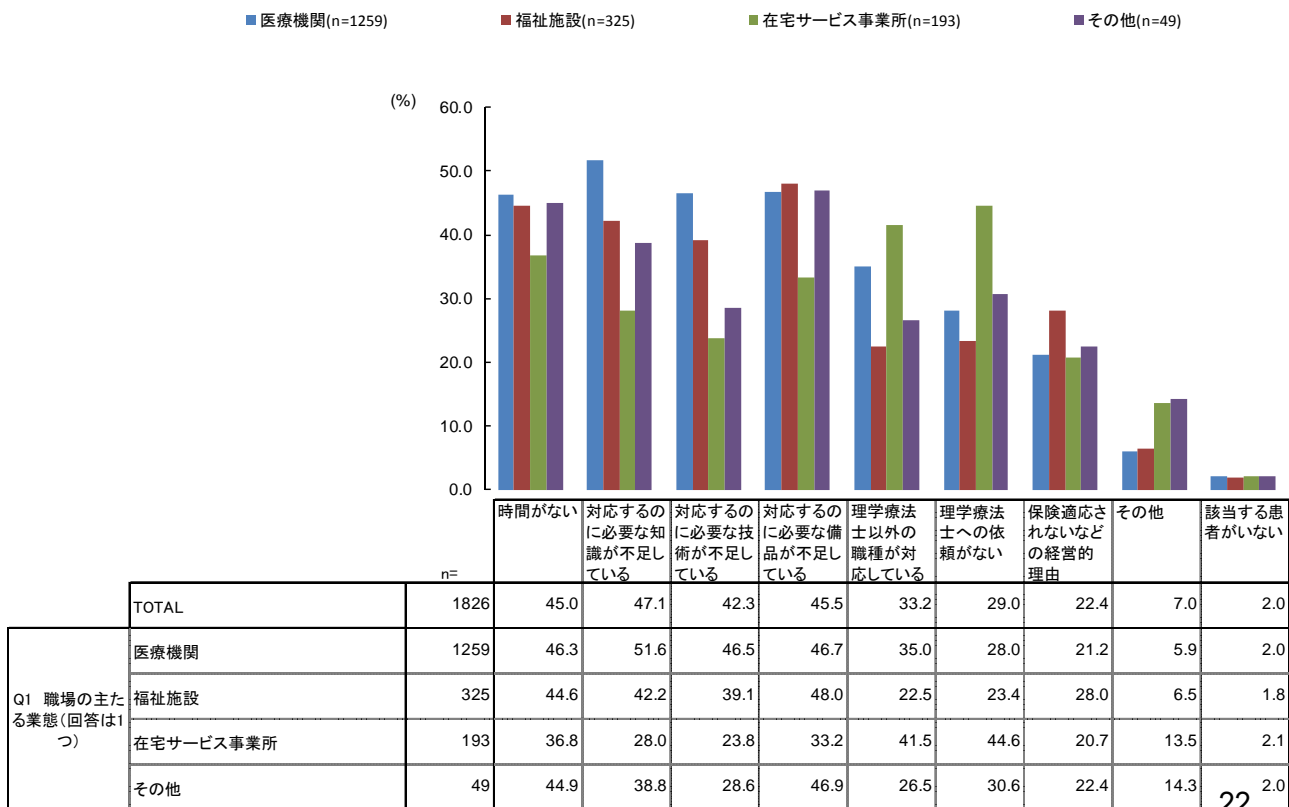
知識・技術の不足により理学療法士が関与できていないケースが一定数存在する。



4. 福祉用具・義肢・装具の支援に理学療法士が関与できない理由

2) 理学療法士が福祉用具のフィッティングに関与できない理由

知識・技術の不足により理学療法士が関与できていないケースが一定数存在する。

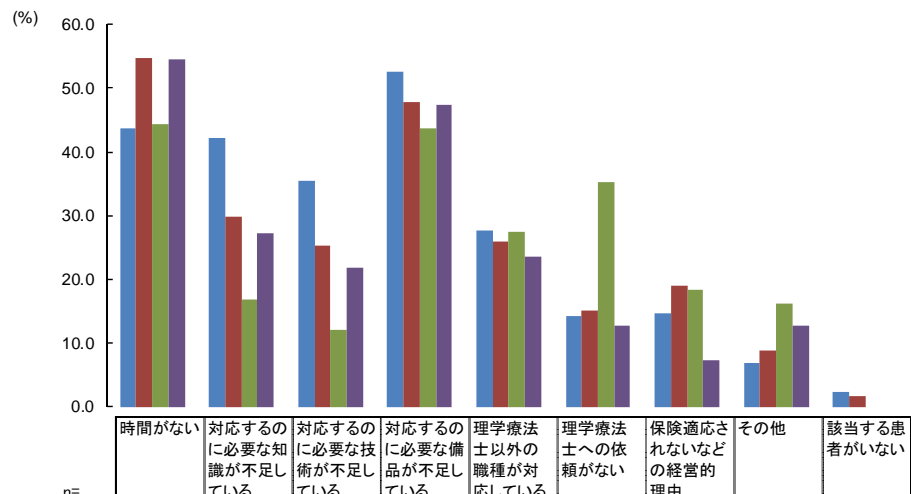


4. 福祉用具・義肢・装具の支援に理学療法士が関与できない理由

3) 理学療法士が福祉用具の練習に関与できない理由

知識・技術の不足により理学療法士が関与できていないケースが一定数存在する。

■ 医療機関(n=1193) ■ 福祉施設(n=312) ■ 在宅サービス事業所(n=142) ■ その他(n=55)



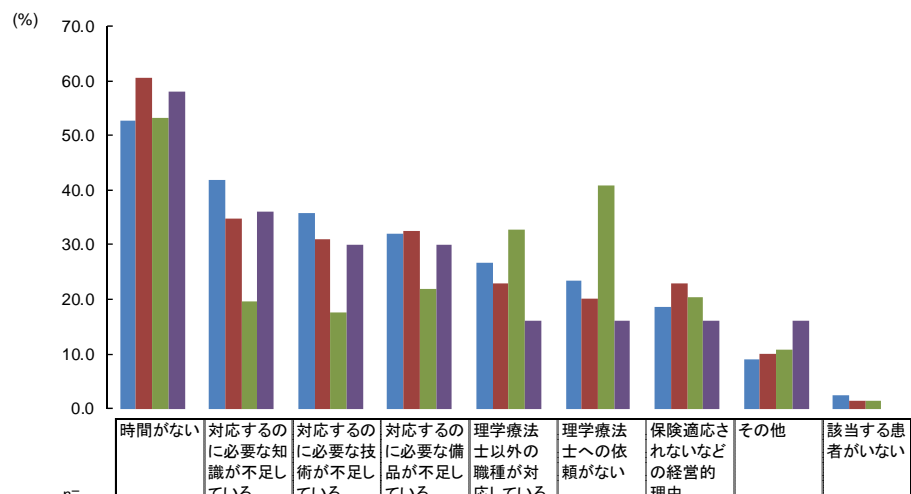
職場の主な業態 (回答は1つ)	n	時間がない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がいらない
TOTAL	1702	46.1	37.3	31.2	50.8	27.2	16.2	15.5	8.1	1.8
医療機関	1193	43.7	42.2	35.5	52.6	27.7	14.3	14.7	6.8	2.2
福祉施設	312	54.8	29.8	25.3	47.8	26.0	15.1	18.9	8.7	1.6
在宅サービス事業所	142	44.4	16.9	12.0	43.7	27.5	35.2	18.3	16.2	0.0
その他	55	54.5	27.3	21.8	47.3	23.6	12.7	7.3	12.7	0.0

4. 福祉用具・義肢・装具の支援に理学療法士が関与できない理由

4) 理学療法士が福祉用具のフォローに関与できない理由

知識・技術の不足により理学療法士が関与できていないケースが一定数存在する。

■ 医療機関(n=1143) ■ 福祉施設(n=284) ■ 在宅サービス事業所(n=137) ■ その他(n=50)



職場の主な業態 (回答は1つ)	n	時間がない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がいらない
TOTAL	1614	54.3	38.6	33.1	31.2	26.1	24.0	19.5	9.5	2.0
医療機関	1143	52.8	41.9	35.7	32.1	26.6	23.3	18.7	8.9	2.4
福祉施設	284	60.6	34.9	31.0	32.4	22.9	20.1	22.9	9.9	1.4
在宅サービス事業所	137	53.3	19.7	17.5	21.9	32.8	40.9	20.4	10.9	1.5
その他	50	58.0	36.0	30.0	30.0	16.0	16.0	16.0	16.0	0.0

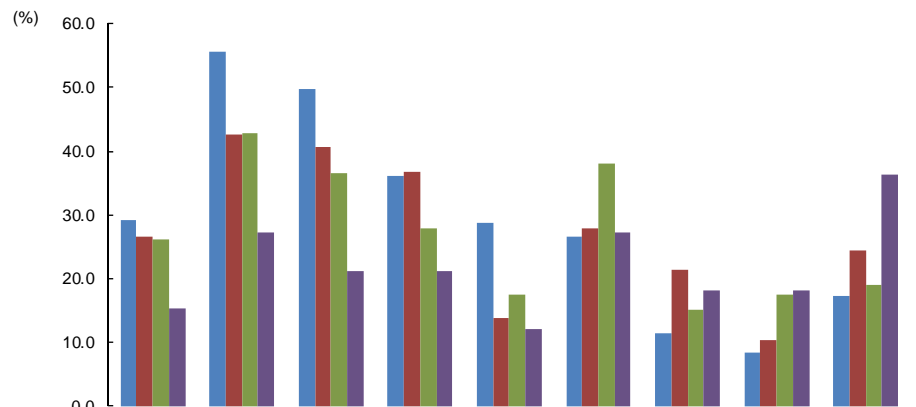
義肢について

4. 福祉用具・義肢・装具の支援に理学療法士が関与できない理由

5) 理学療法士が義肢の評価に関与できない理由

知識・技術の不足により理学療法士が関与できていないケースが一定数存在する。

■ 医療機関(n=1061) ■ 福祉施設(n=234) ■ 在宅サービス事業所(n=126) ■ その他(n=33)



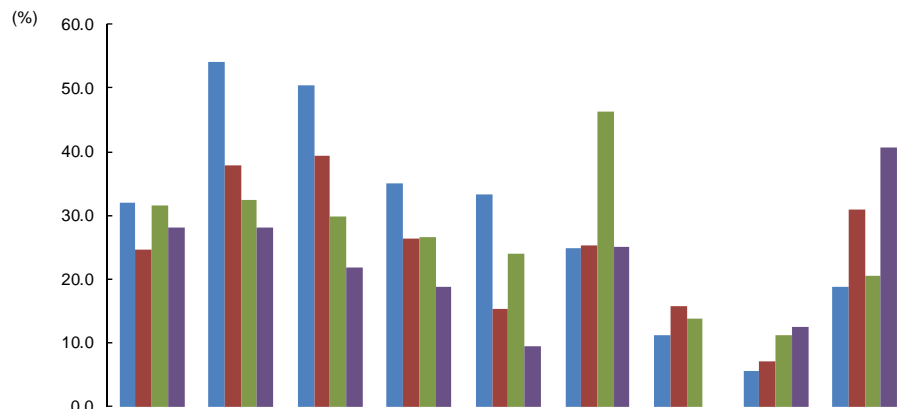
Q1 職場の主たる業態(回答は1つ)	n=	時間がない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がいない
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
TOTAL	1454	28.1	51.8	46.5	35.2	25.0	27.7	13.5	9.6	18.9
医療機関	1061	29.1	55.6	49.8	36.2	28.7	26.5	11.4	8.3	17.2
福祉施設	234	26.5	42.7	40.6	36.8	13.7	27.8	21.4	10.3	24.4
在宅サービス事業所	126	26.2	42.9	36.5	27.8	17.5	38.1	15.1	17.5	19.0
その他	33	15.2	27.3	21.2	21.2	12.1	27.3	18.2	18.2	36.4

4. 福祉用具・義肢・装具の支援に理学療法士が関与できない理由

6) 理学療法士が義肢のフィッティングに関与できない理由

知識・技術の不足により理学療法士が関与できていないケースが一定数存在する。

■ 医療機関(n=972) ■ 福祉施設(n=198) ■ 在宅サービス事業所(n=117) ■ その他(n=32)



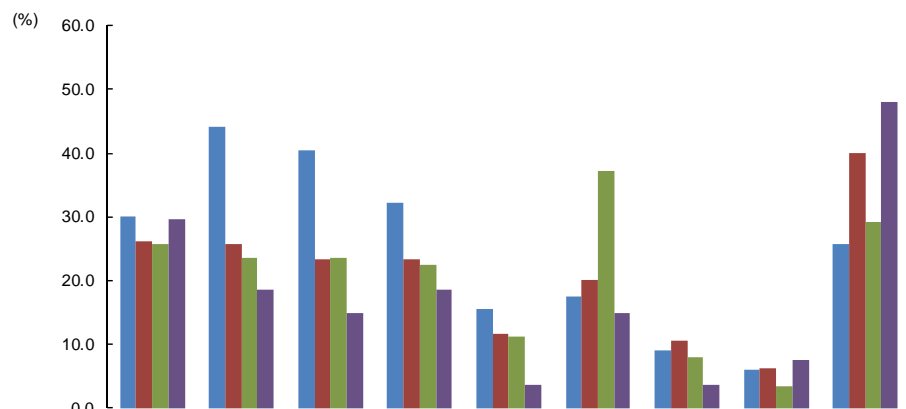
		n=	時間がない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がいない
TOTAL		1319	30.7	49.1	46.2	32.5	29.2	26.8	11.8	6.4	21.3
Q1 職場の主たる業態(回答は1つ)	医療機関	972	31.9	54.1	50.3	35.0	33.3	24.9	11.2	5.5	18.8
	福祉施設	198	24.7	37.9	39.4	26.3	15.2	25.3	15.7	7.1	30.8
	在宅サービス事業所	117	31.6	32.5	29.9	26.5	23.9	46.2	13.7	11.1	20.5
	その他	32	28.1	28.1	21.9	18.8	9.4	25.0	0.0	12.5	40.6

4. 福祉用具・義肢・装具の支援に理学療法士が関与できない理由

7) 理学療法士が義肢の練習に関与できない理由

知識・技術の不足により理学療法士が関与できていないケースが一定数存在する。

■ 医療機関(n=850) ■ 福祉施設(n=180) ■ 在宅サービス事業所(n=89) ■ その他(n=27)



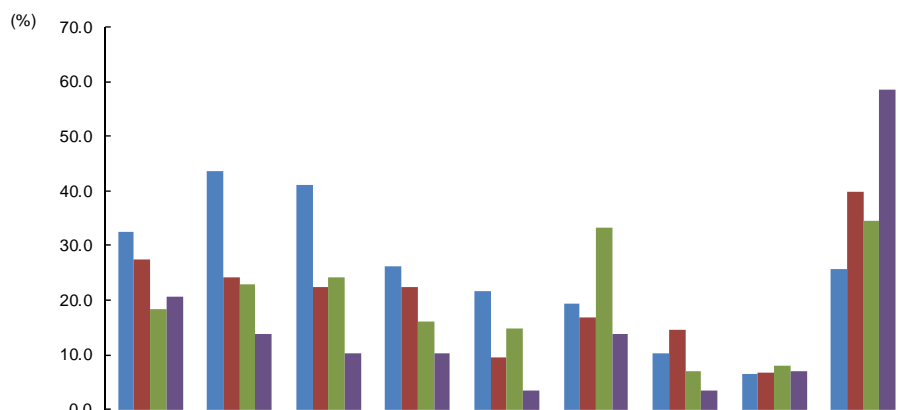
		n=	時間がない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がいない
TOTAL		1146	29.1	39.0	35.8	29.8	14.4	19.4	9.1	5.8	28.7
Q1 職場の主たる業態(回答は1つ)	医療機関	850	30.1	44.1	40.4	32.2	15.6	17.5	9.1	5.9	25.6
	福祉施設	180	26.1	25.6	23.3	23.3	11.7	20.0	10.6	6.1	40.0
	在宅サービス事業所	89	25.8	23.6	23.6	22.5	11.2	37.1	7.9	3.4	29.2
	その他	27	29.6	18.5	14.8	18.5	3.7	14.8	3.7	7.4	48.1

4. 福祉用具・義肢・装具の支援に理学療法士が関与できない理由

8) 理学療法士が義肢のフォローに関与できない理由

知識・技術の不足により理学療法士が関与できていないケースが一定数存在する。

■ 医療機関(n=874) ■ 福祉施設(n=178) ■ 在宅サービス事業所(n=87) ■ その他(n=29)



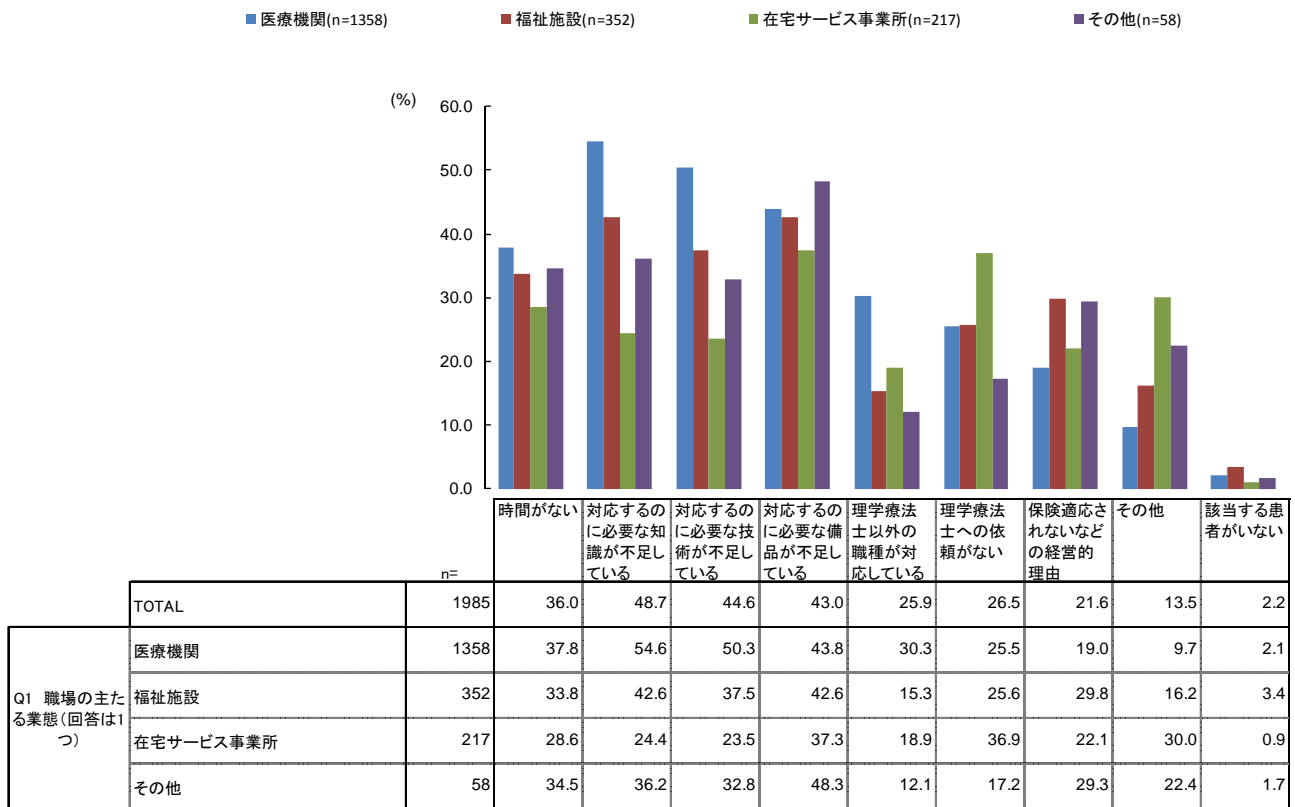
Q1 職場の主たる業態(回答は1つ)	n=	理由									
		時間がない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がいらない	
TOTAL	1168	30.3	38.4	36.3	24.4	18.8	19.9	10.4	6.6	29.3	
医療機関	874	32.4	43.6	41.2	26.1	21.6	19.3	10.2	6.4	25.6	
福祉施設	178	27.5	24.2	22.5	22.5	9.6	16.9	14.6	6.7	39.9	
在宅サービス事業所	87	18.4	23.0	24.1	16.1	14.9	33.3	6.9	8.0	34.5	
その他	29	20.7	13.8	10.3	10.3	3.4	13.8	3.4	6.9	58.6	

装具について

4. 福祉用具・義肢・装具の支援に理学療法士が関与できない理由

9) 理学療法士が装具の評価に関与できない理由

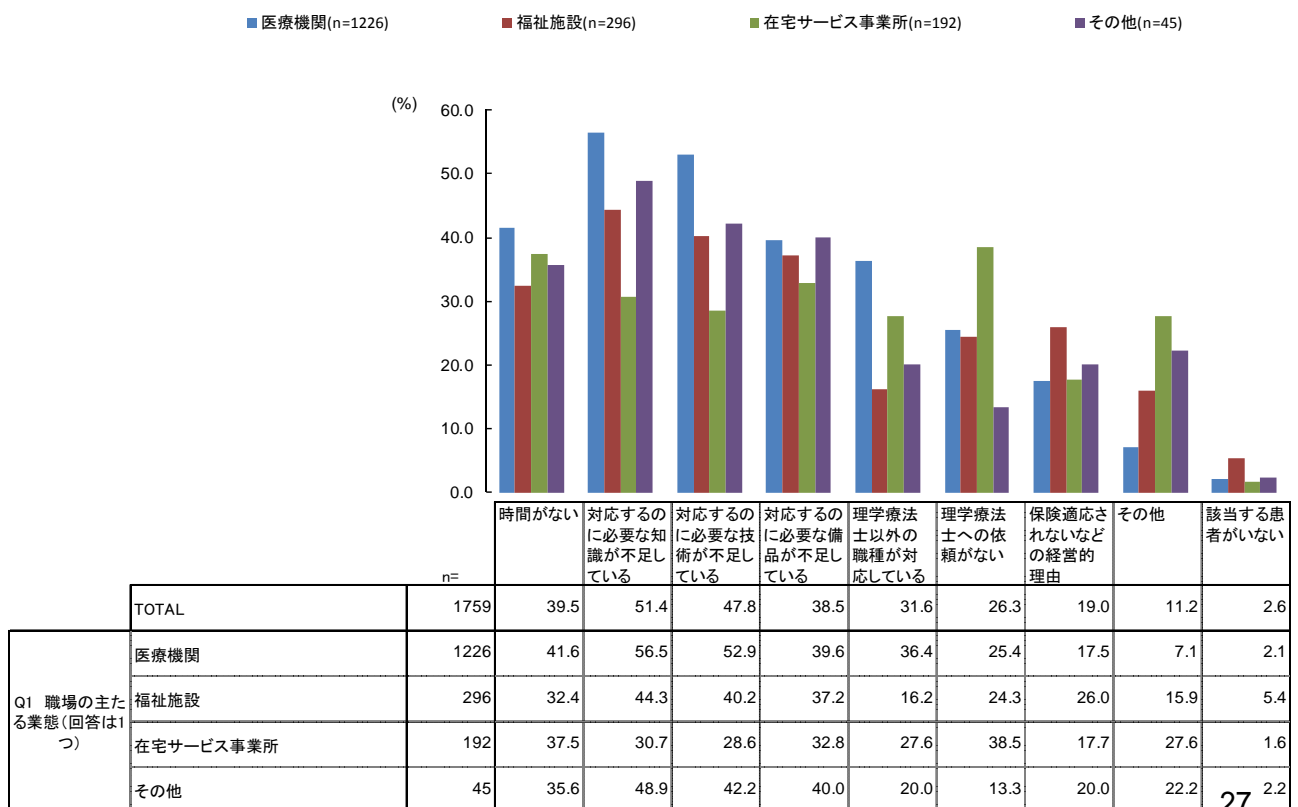
知識・技術の不足により理学療法士が関与できていないケースが一定数存在する。



4. 福祉用具・義肢・装具の支援に理学療法士が関与できない理由

10) 理学療法士が装具のフィッティングに関与できない理由

知識・技術の不足により理学療法士が関与できていないケースが一定数存在する。

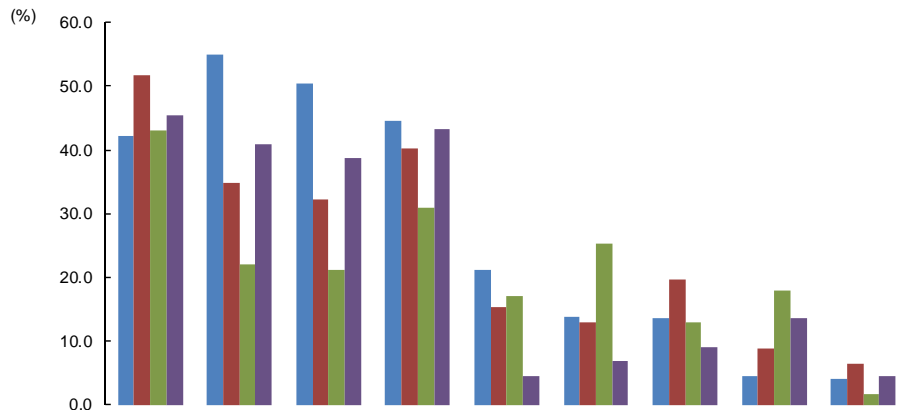


4. 福祉用具・義肢・装具の支援に理学療法士が関与できない理由

1 1) 理学療法士が装具のADL練習に関与できない理由

知識・技術の不足により理学療法士が関与できていないケースが一定数存在する。

■ 医療機関(n=914) ■ 福祉施設(n=249) ■ 在宅サービス事業所(n=123) ■ その他(n=44)



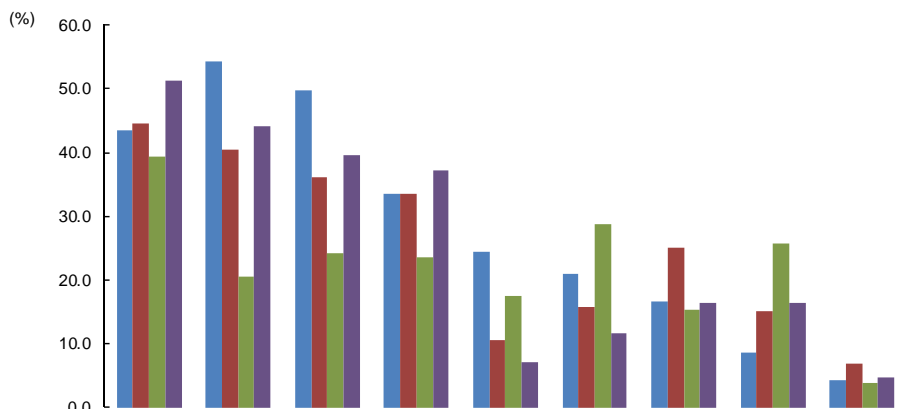
		n=	時間がない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がいない
TOTAL		1330	44.1	47.7	44.0	42.5	19.1	14.4	14.5	6.8	4.3
Q1 職場の主たる業態(回答は1つ)	医療機関	914	42.1	54.9	50.5	44.6	21.1	13.8	13.6	4.4	4.0
	福祉施設	249	51.8	34.9	32.1	40.2	15.3	12.9	19.7	8.8	6.4
	在宅サービス事業所	123	43.1	22.0	21.1	30.9	17.1	25.2	13.0	17.9	1.6
	その他	44	45.5	40.9	38.6	43.2	4.5	6.8	9.1	13.6	4.5

4. 福祉用具・義肢・装具の支援に理学療法士が関与できない理由

1 2) 理学療法士が装具のフォローに関与できない理由

知識・技術の不足により理学療法士が関与できていないケースが一定数存在する。

■ 医療機関(n=1021) ■ 福祉施設(n=247) ■ 在宅サービス事業所(n=132) ■ その他(n=43)



		n=	時間がない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がいない
TOTAL		1443	43.5	48.5	44.7	32.8	20.9	20.4	17.8	11.4	4.7
Q1 職場の主たる業態(回答は1つ)	医療機関	1021	43.4	54.3	49.7	33.6	24.5	20.9	16.5	8.5	4.3
	福祉施設	247	44.5	40.5	36.0	33.6	10.5	15.8	25.1	15.0	6.9
	在宅サービス事業所	132	39.4	20.5	24.2	23.5	17.4	28.8	15.2	25.8	3.8
	その他	43	51.2	44.2	39.5	37.2	7.0	11.6	16.3	16.3	4.7

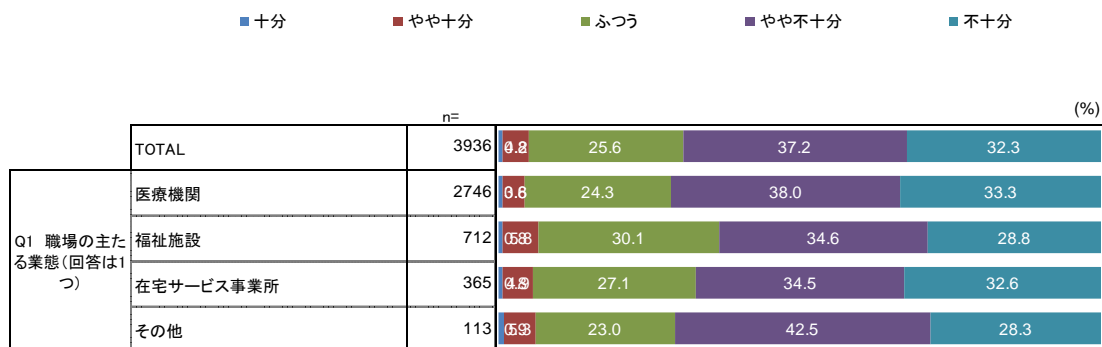
5. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、 理学療法士の教育状況

卒前教育

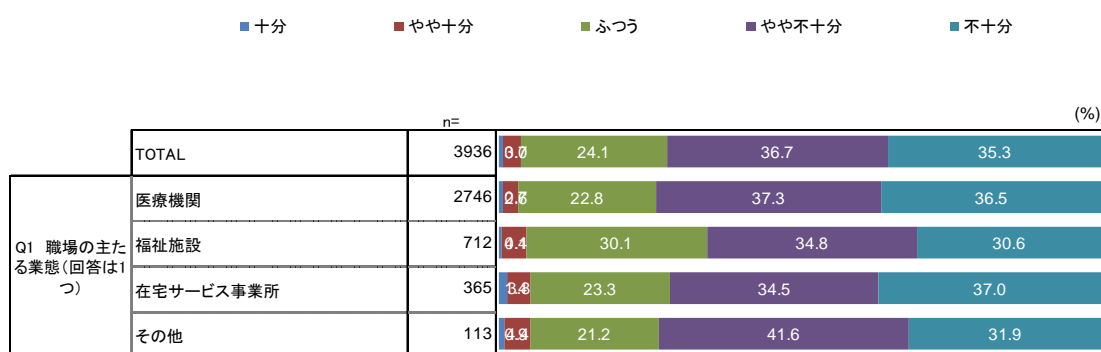
5. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の教育状況

半数以上が、**福祉用具**の知識・技術に関する**卒前教育**が不足していると感じている。

1) 福祉用具の知識に関する卒前教育や研修機会について



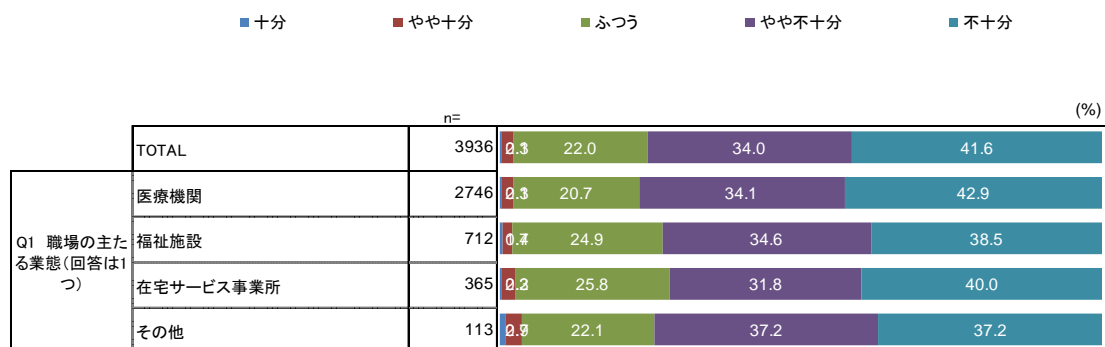
2) 福祉用具の技術に関する卒前教育や研修機会について



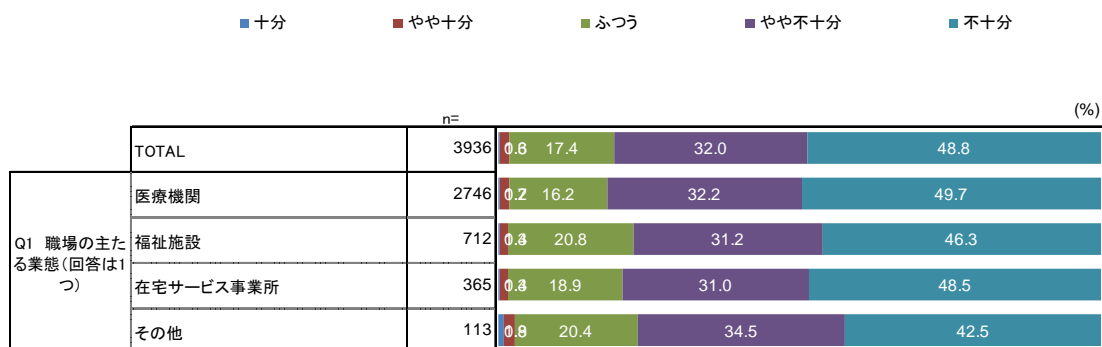
5. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の教育状況

半数以上が、**義肢**の知識・技術に関する**卒前教育**が不足していると感じている。

3) 義肢の知識に関する卒前教育や研修機会について



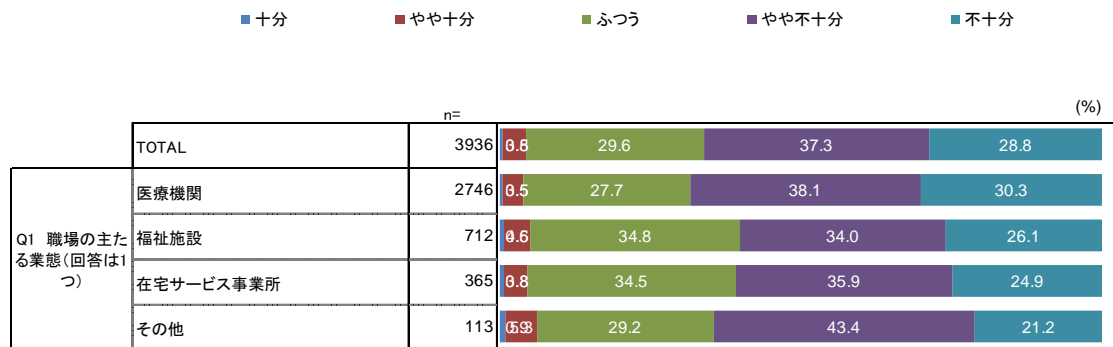
4) 義肢の技術に関する卒前教育や研修機会について



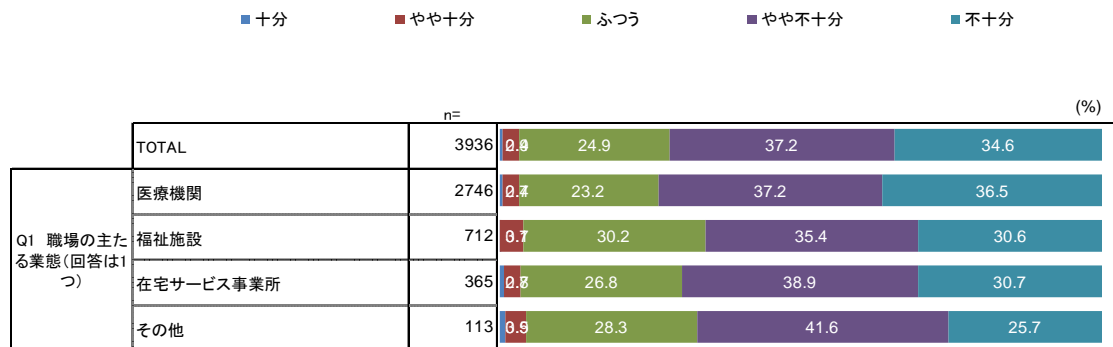
5. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の教育状況

半数以上が、**装具**の知識・技術に関する**卒前教育**が不足していると感じている。

5) **装具**の知識に関する卒前教育や研修機会について



6) **装具**の技術に関する卒前教育や研修機会について



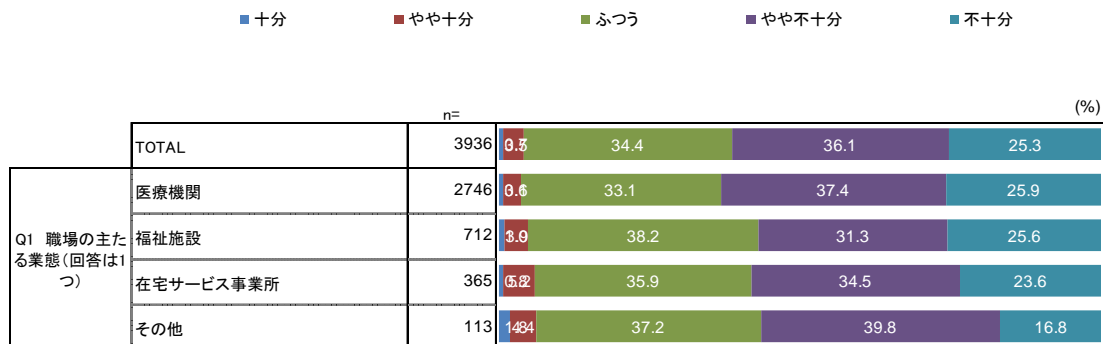
卒後教育

日本理学療法士協会
都道府県理学療法士会

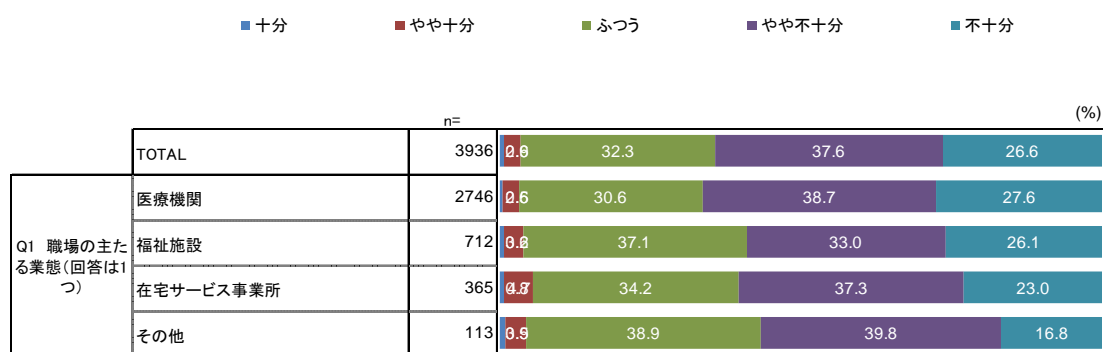
5. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の教育状況

半数以上が、**福祉用具**の知識・技術に関する**卒後教育**が不足していると感じている。

7) **福祉用具**の知識に関する**卒後教育**（日本理学療法士協会・都道府県理学療法士会）について



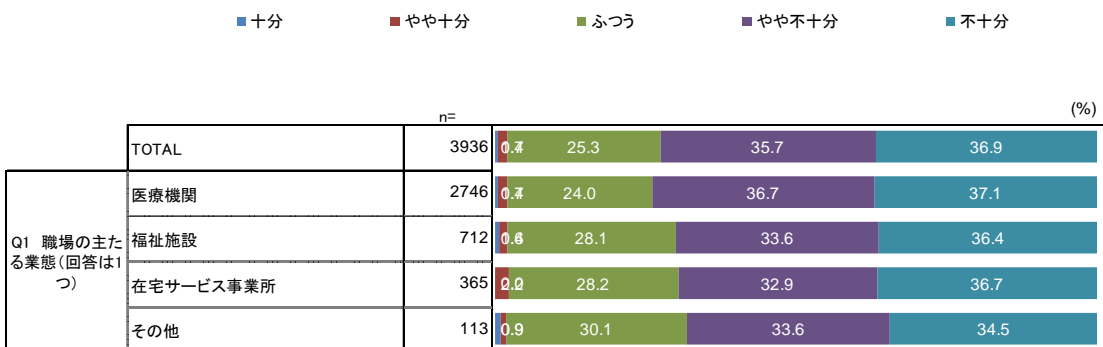
8) **福祉用具**の技術に関する**卒後教育**（日本理学療法士協会・都道府県理学療法士会）について



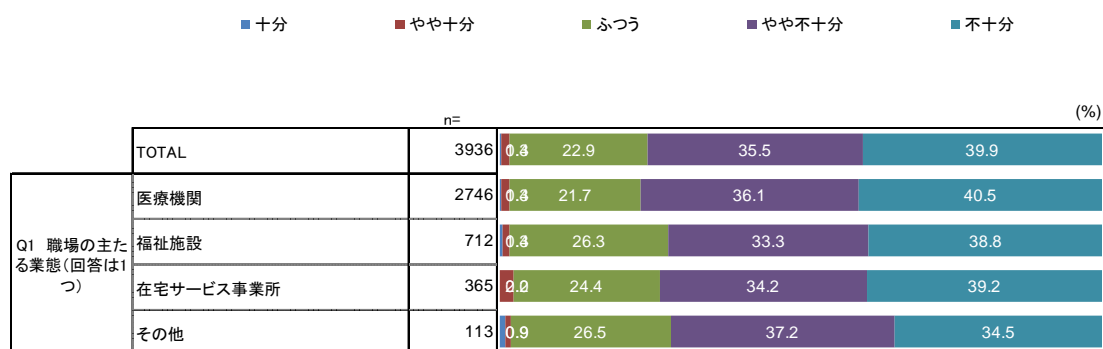
5. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の教育状況

半数以上が、**義肢**の知識・技術に関する**卒後教育**が不足していると感じている。

9) **義肢**の知識に関する**卒後教育**（日本理学療法士協会・都道府県理学療法士会）について



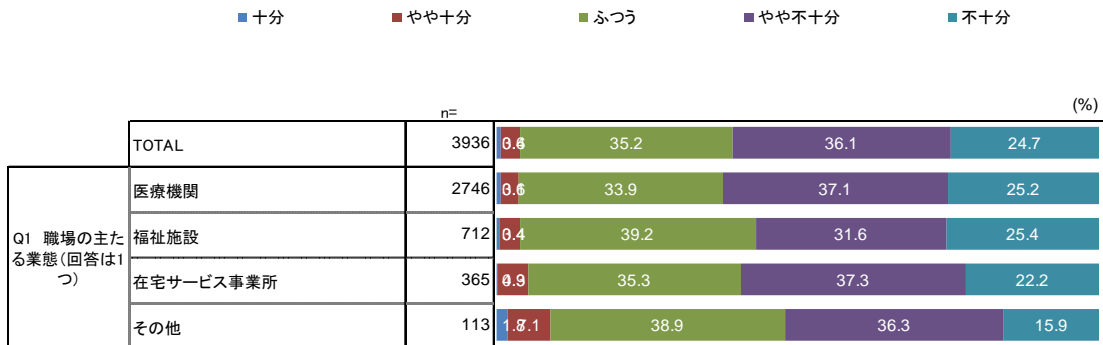
10) **義肢**の技術に関する**卒後教育**（日本理学療法士協会・都道府県理学療法士会）について



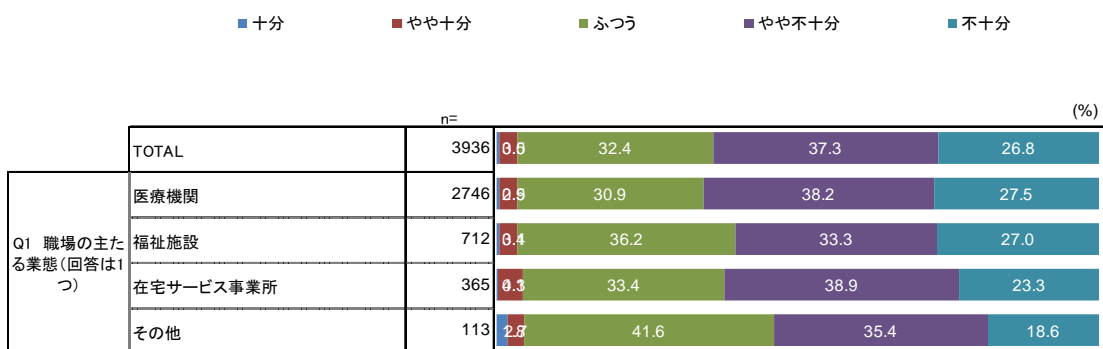
5. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の教育状況

半数以上が、**装具**の知識・技術に関する**卒後教育**が不足していると感じている。

1 1) **装具**の知識に関する**卒後教育**（日本理学療法士協会・都道府県理学療法士会）について



1 2) **装具**の技術に関する**卒後教育**（日本理学療法士協会・都道府県理学療法士会）について

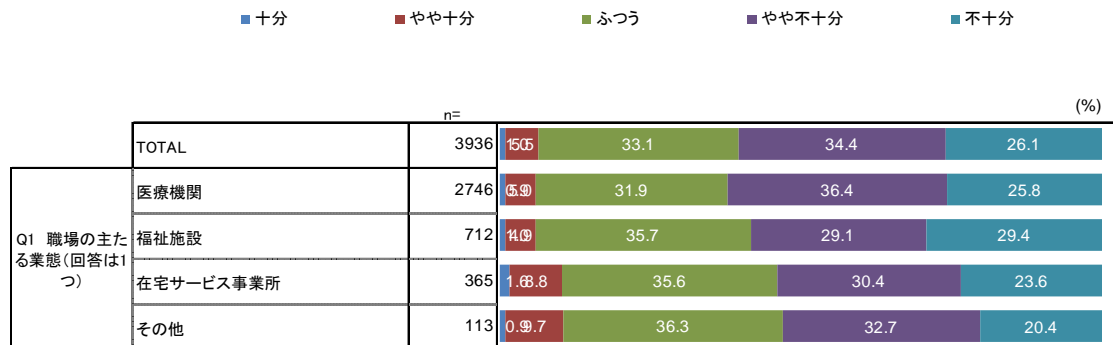


卒後教育 (職場教育)

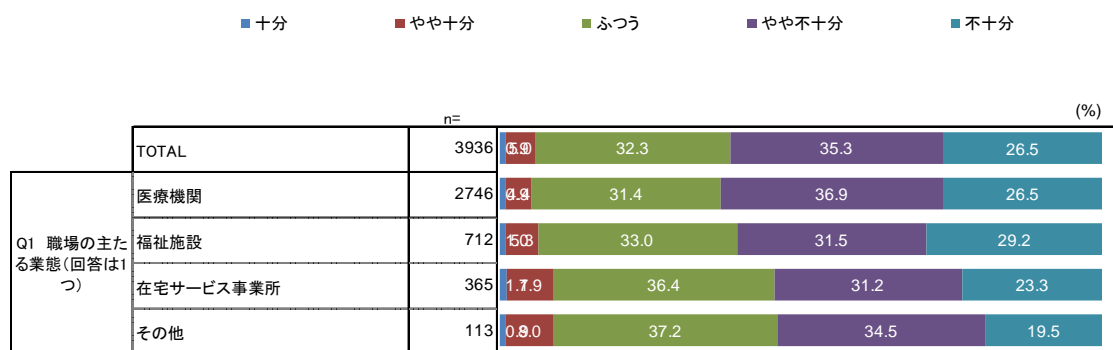
5. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の教育状況

半数以上が、**福祉用具**の知識・技術に関する**職場教育**が不足していると感じている。

1 3) **福祉用具**の知識に関する**卒後教育（職場教育）**について



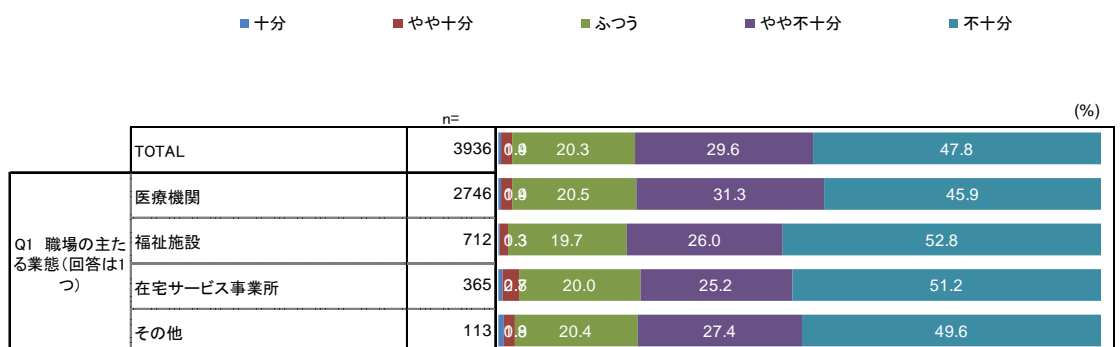
1 4) **福祉用具**の技術に関する**卒後教育（職場教育）**について



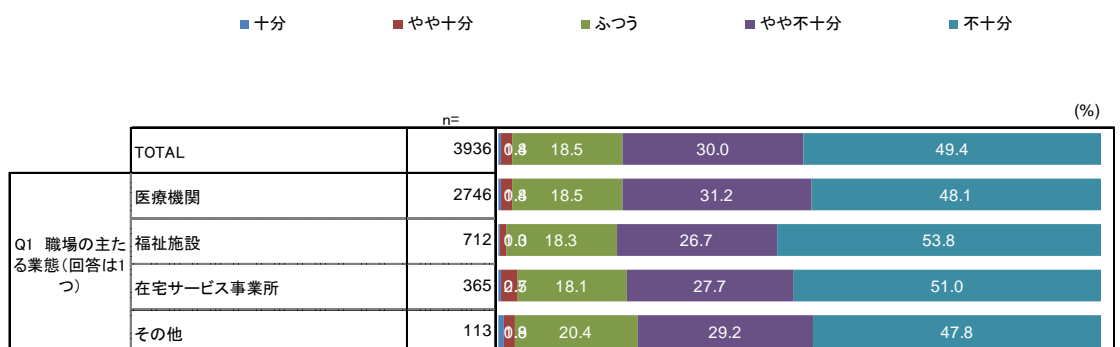
5. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の教育状況

半数以上が、**義肢**の知識・技術に関する**職場教育**が不足していると感じている。

1 5) **義肢**の知識に関する**卒後教育（職場教育）**について



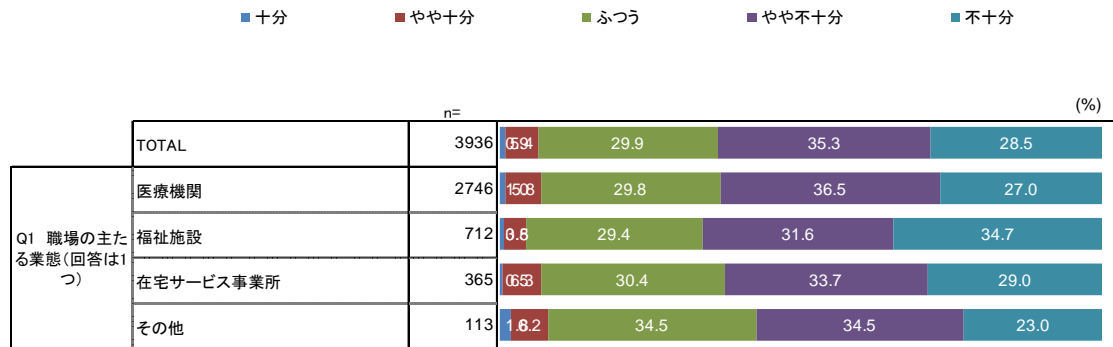
1 6) **義肢**の技術に関する**卒後教育（職場教育）**について



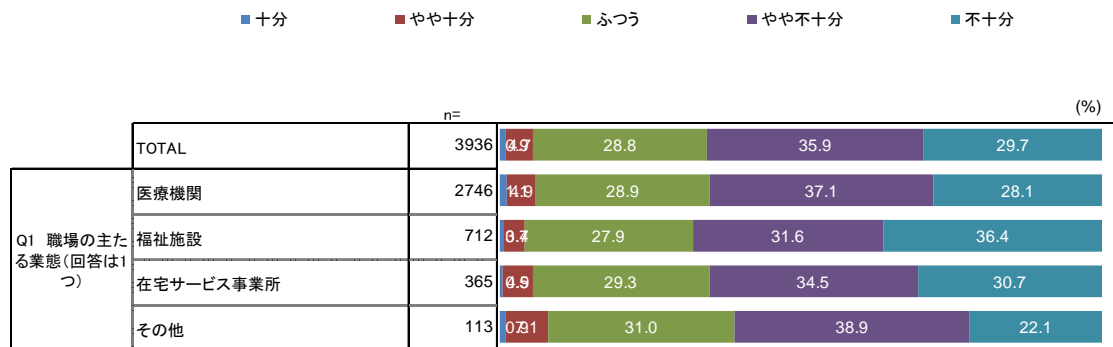
5. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士の教育状況

半数以上が、**装具**の知識・技術に関する**職場教育**が不足していると感じている。

1.7) **装具**の知識に関する**卒後教育（職場教育）**について



1.8) **装具**の技術に関する**卒後教育（職場教育）**について

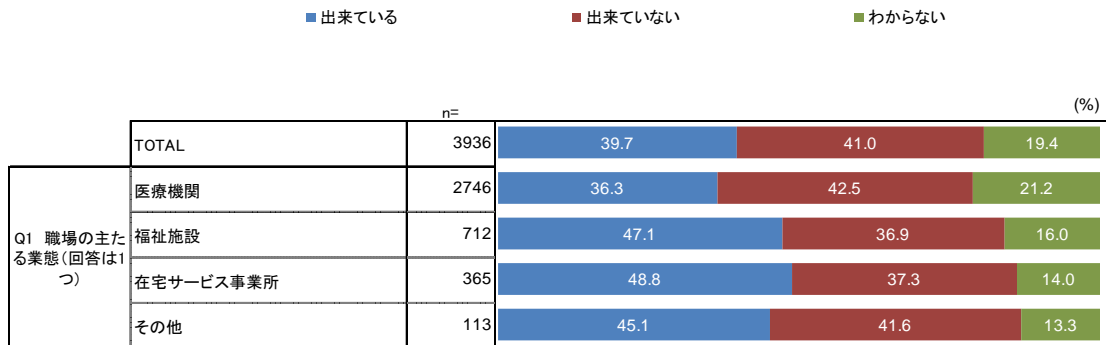


6. 最新情報の入手状況

6. 最新情報の入手状況

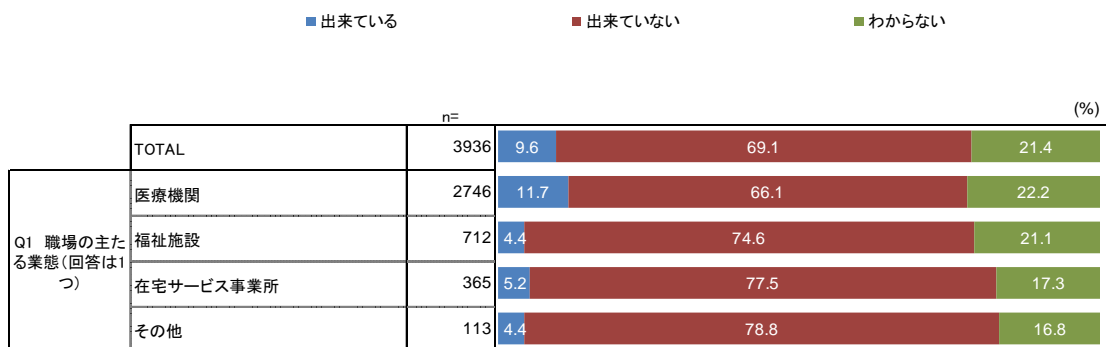
福祉用具、義肢、装具ともに最新情報に触れる機会が少ないが、義肢において特に情報の入手が行われていない。

1 9) 福祉用具に関する最新情報の入手状況

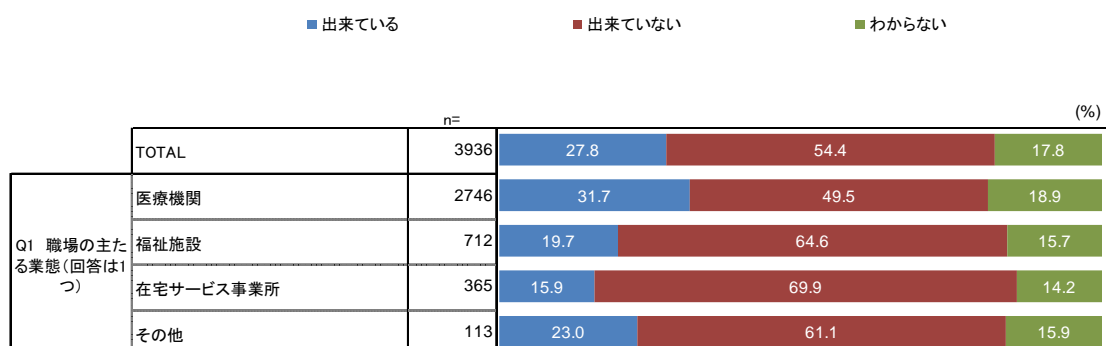


6. 最新情報の入手状況

2 0) 義肢に関する最新情報の入手状況



2 1) 装具に関する最新情報の入手状況



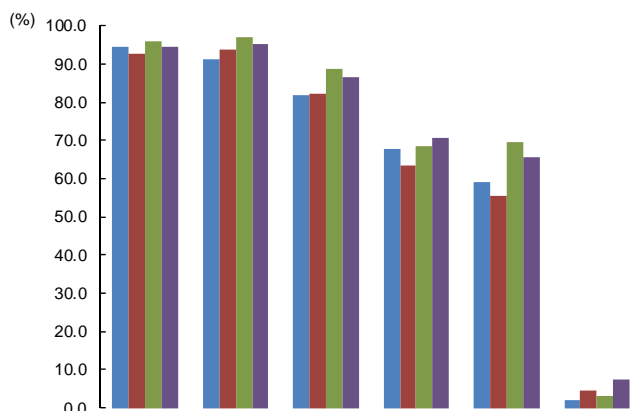
7. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士への期待

7. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士への期待

福祉用具への理学療法士の関与について、ADL自立度の向上や介助者の負担軽減、生活の質の向上、心身機能の向上、社会参加の促進等の期待がある。

1) [福祉用具] 理学療法士が今まで以上に関与することで期待できる効果

■ 医療機関(n=2471) ■ 福祉施設(n=669) ■ 在宅サービス事業所(n=353) ■ その他(n=105)

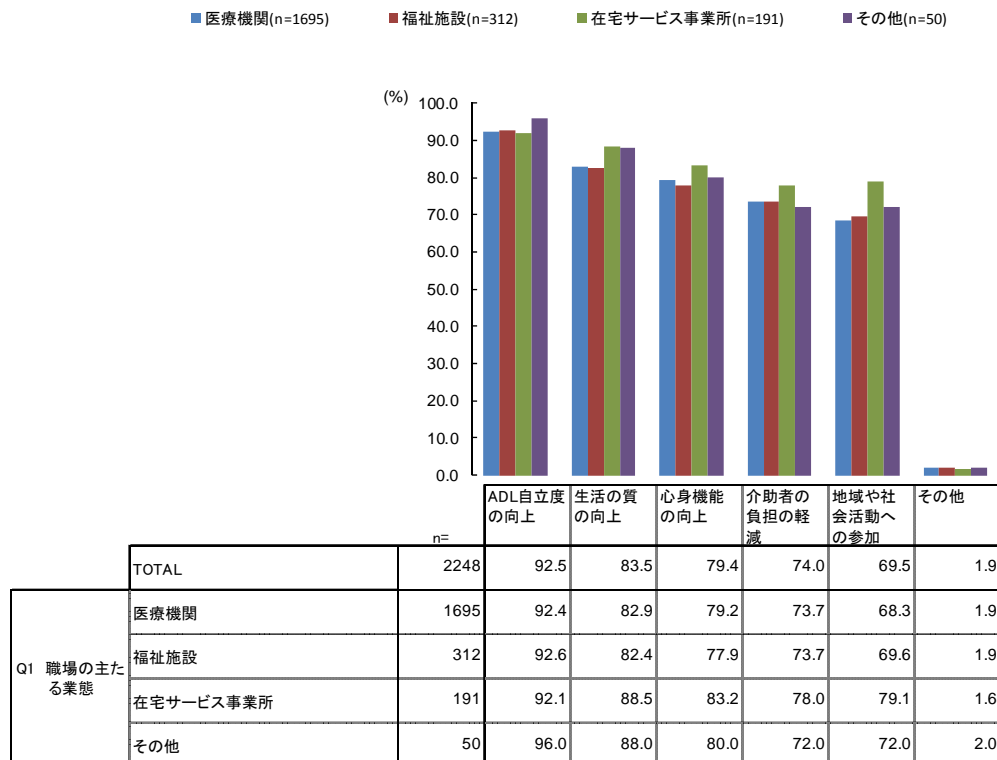


職場の主たる業態	n	期待される効果 (%)					
		ADL自立度の向上	介助者の負担の軽減	生活の質の向上	心身機能の向上	地域や社会活動への参加	その他
TOTAL	3598	94.1	92.5	82.6	67.1	59.7	2.9
医療機関	2471	94.3	91.4	81.7	67.8	59.2	2.2
福祉施設	669	92.8	93.9	82.1	63.4	55.6	4.5
在宅サービス事業所	353	95.8	96.9	88.7	68.6	69.4	3.1
その他	105	94.3	95.2	86.7	70.5	65.7	7.6

7. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士への期待

義肢への理学療法士の関与について、ADL自立度の向上や介助者の負担軽減、生活の質の向上、心身機能の向上、社会参加の促進等の期待がある。

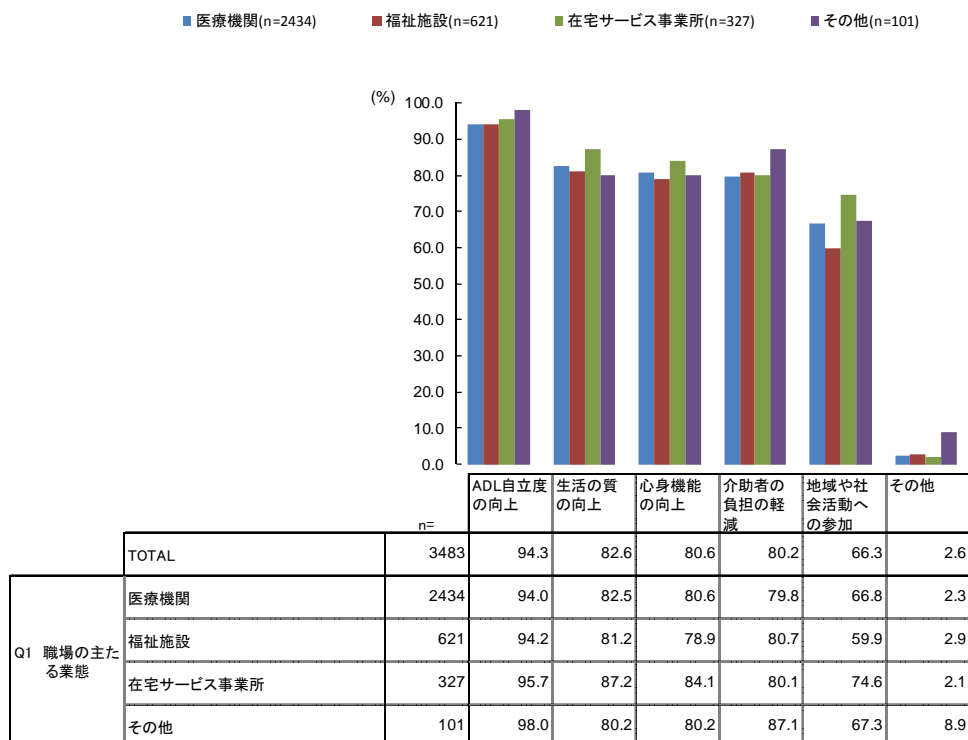
2) [義肢] 理学療法士が今まで以上に関与することで期待できる効果



7. 福祉用具・義肢・装具支援に関する、理学療法士への期待

装具への理学療法士の関与について、ADL自立度の向上や介助者の負担軽減、生活の質の向上、心身機能の向上、社会参加の促進等の期待がある。

3) [装具] 理学療法士が今まで以上に関与することで期待できる効果



8. 総括

1. 福祉用具

福祉用具導入の際の理学療法士の関与は作業療法士とともに高く、評価や練習においては大きな役割を果たしている。しかし、時間や備品の不足から関わる事が出来ないこともあり、特に医療機関では、他の機関に比べて時間や備品の問題と同程度に、知識や技術の不足が問題視されている。また、福祉施設や在宅サービスは必要性は高いものの職員数も少なく時間の確保が難しいという結果であった。知識や技術を持って、今以上に関わる事が出来るならばADL自立向上や介護者の負担軽減が期待できることも示唆された。

多職種との関わりでは、福祉施設や在宅サービスでは、ケアマネジャーや福祉用具専門相談員の関わりが強く、相談や依頼のくる理学療法士と、こない理学療法士が二分しているように見受けられた。医療機関では、一部義肢装具士の関わりが見られている。特に福祉施設や在宅サービスでは理学療法士がより信頼されるべく、知識や教育、情報収集能力の向上が急務と思われる。

最新情報の入手に関して装具では病院が高く、福祉施設、在宅サービスが低い、福祉用具は福祉施設、在宅サービスが高い。これは義肢装具士や福祉用具専門相談員といった最新情報を持った人に影響をうけていることが示唆されており、理学療法士が自ら情報源になっておらず、チームの中でリードしていないことがわかる。

教育では全体を通して、不十分が6割程度もあり知識や技術の向上は急務といえる。特に卒前教育では不十分の傾向が強かった。

2. 義肢

福祉用具、装具と比較して義肢に関わっていない割合が高く、その理由として第一に対象がいないことがあげられるが、評価、フィッティング、フォローアップに関しては圧倒的に義肢装具士の関わりが大きく、その背景には知識、技術や新しい情報の不足があげられる。

卒前、卒後教育に関して福祉用具、装具と同様に不足していると感じているが、義肢ではさらに不足と感じている傾向が強い。

特に最新情報の入手できている医療機関は10%弱、福祉施設では5%以下とほとんど情報がないことが示されている。

しかし理学療法士への期待では福祉用具、装具と同様に知識技術の不足があげられており、特に医療機関における必要性が高い結果となった。また卒前、卒後の教育においても義肢では80%弱の人が情報が不足しているとしており、特に現場の要求に対する情報の供給のギャップが浮き彫りとなった。

3. 装具

装具を必要とする対象者は2割程度であり、施設の種類に関係なく、装具の評価、フィッティング、練習、フォローアップのほとんどの場面で関与している結果であった。装具に関わる他の職種としては、場面に関係なく義肢装具士、作業療法士が多く、福祉施設や在宅サービス事業所では医療機関に比べてケアマネジャーの関わりが多かった。一方で関与できない理由は、「知識・技術が不足」が5割程度、「時間がない」、「備品がない」が4割程度と多く、医療機関、福祉施設、在宅サービス事業所の順で頻度が高い。なお、備品に関しては、医療機関では各種の装具を保有しているが、福祉施設、在宅サービス事業所では、「ない」が最も多かった。

装具に対する教育状況は、卒前(養成校等)、卒後(PT協会、県士会、職場内)ともに、ほとんどのPTが、知識・技術のどちらも十分ではないと回答している。最新情報の入手は、約半数が出来ていないと回答し、特に在宅サービス事業所では7割に及んでいない。

このような状況の中で、PTがさらに装具に関与することで、「ADL自立度の向上」「生活の質の向上」「心身機能の向上」「介助者の負担の軽減」「地域への社会活動への参加」のすべての項目で、効果が期待できると回答している。以上のことから、卒前・卒後の教育の充実、装具に関する情報発信を行うことで、理学療法士が今以上に装具に関わり、効果を発揮することが必要と思われる。

9. 課題

1. 福祉用具・義肢・装具に関する共通の課題
 - 言葉の定義の明確化
 - 「フォローアップ」という言葉の定義の明確化
 - 卒前教育の充実
 - 新人教育の充実
 - 情報へのアクセスの改善
2. 福祉用具に関する課題
 - 福祉用具の地域差（物品へのアクセスのしやすさ）
 - 備品の充実
3. 義肢に関する課題
 - 障害者スポーツや低活動高齢者へ情報提供と義肢療法の確立
 - 切断患者への義足処方・理学療法へつながっていない理由の解明
4. 装具に関する課題
 - 装具処方の現状
 - 病期に合わせた装具療法の研修
 - 備品の充実

第2章 本事業の概要

第1節 事業概要

本事業は、日本支援工学理学療法学会が主体となり、福祉用具班、義肢班、装具班を立ち上げ、各班員の方々にご協力いただき実施した。調査票は各班で調査票案を作成し、班長会議にて調査票を完成させた。その後、アンケートの実施、結果の分析、報告書作成を実施した。アンケート調査は、医療機関、介護施設、福祉施設 8468 施設を対象とした全国調査とし、福祉用具・義肢・装具支援の現状と課題をまとめた。

第2節 委員名簿

委員長	大峯 三郎	九州栄養福祉大学 ※
委員	河添 竜志郎	株式会社くますま ※
委員	長倉 裕二	熊本保健科学大学 ※
委員	中野 克己	埼玉県総合リハビリテーションセンター ※
委員	野崎 展史	日本理学療法士協会
委員	宮原 拓也	上尾中央医療専門学校 ※

【福祉用具班】

秋田 裕	川崎市中部リハビリテーションセンター ※
河添 竜志郎	株式会社くますま ※
小池 清貴	パラマウントベッド株式会社
栄 健一郎	医療法人社団康人会 適寿リハビリテーション病院
佐藤 史子	横浜市総合リハビリテーションセンター
鈴木 英樹	北海道医療大学 ※
竹内 久美	株式会社くますま
長濱 佑亮	医療法人社団康人会 適寿リハビリテーション病院
新田 収	首都大学東京 ※
松田 雅弘	植草学園大学 ※

【義肢班】

岩下 航大	鉄道弘済会義肢装具サポートセンター
梅澤 慎吾	鉄道弘済会義肢装具サポートセンター
齊藤 孝道	独協医科大学越谷病院
佐藤 廣之	仙台市障害者総合支援センター
澤田 あい	神奈川リハビリテーション病院
新小田 幸一	広島大学 ※
豊田 輝	帝京科学大学
長倉 裕二	熊本保健科学大学 ※

原 和彦 埼玉県立大学 ※
 前田 慶明 広島大学

【装具班】

石崎 耕平 埼玉県総合リハビリテーションセンター
 大垣 昌之 愛仁会リハビリテーション病院
 大峯 三郎 九州栄養福祉大学 ※
 清宮 清美 埼玉県総合リハビリテーションセンター
 佐伯 茂行 介護老人保健施設 高井の里
 中野 克己 埼玉県総合リハビリテーションセンター ※
 宮原 拓也 上尾中央医療専門学校 ※

※印は日本支援工学理学療法学会運営幹事

*敬称略、五十音順

第3節 スケジュール

時期	作業内容	
平成28年 9月16日	第1回装具班会議	効果判定方法・アンケートの検討 等
9月17日	第1回義肢班会議	事業の経緯・計画の確認 等
10月12日	第2回義肢班会議	アンケート・事例の検討 等
10月20日	第3回義肢班会議	アンケート・フォーラム内容の検討 等
10月25日	第4回義肢班会議	アンケート内容の検討 等
10月29日	第1回班長会議	各班の集約、スケジュールの検討 等
11月2日	第2回装具班会議	今後のスケジュール・アンケートの検討 等
12月9日	第2回班長会議	アンケート内容調整・報告書作成の検討 等

第4節 方法について

1. 対象

医療機関、介護施設、福祉施設 8468 施設を対象とした。

2. 調査方法

各施設へメールと郵送にて案内を送り、web アンケートにて調査を実施した。回答者は、各施設に従事する本会会員管理者とした。

3. 調査期間

調査期間は平成 28 年 12 月 15 日（木）～平成 28 年 12 月 31 日（土）とした。

4. データの分析

得られたデータは必要に応じて、単純集計およびクロス集計を行った。

5. 倫理的配慮

全ての調査対象者に対し、本調査の趣旨・目的および、データの活用法を書面にて説明した。調査への拒否、一部の調査項目への回答拒否があっても何ら不利益が生じないことを書面により説明した。回答いただいた内容は統計的に処理し、回答者が特定できないように実施した。本調査に対する同意は調査の回答をもってみなすこととした。

第3章 結果

1. 回収状況

3,936 施設から有効な回答が得られた（有効回答率 45.4%）。施設の種類の回答状況ならびに都道府県別の回答状況は表 1、図 1 の通りだった。

表 1 施設の種類の回答状況

	度数	%
TOTAL	3936	100.0
医療機関	2746	69.8
福祉施設	712	18.1
在宅サービス事業所	365	9.3
その他 具体的に：	113	2.9

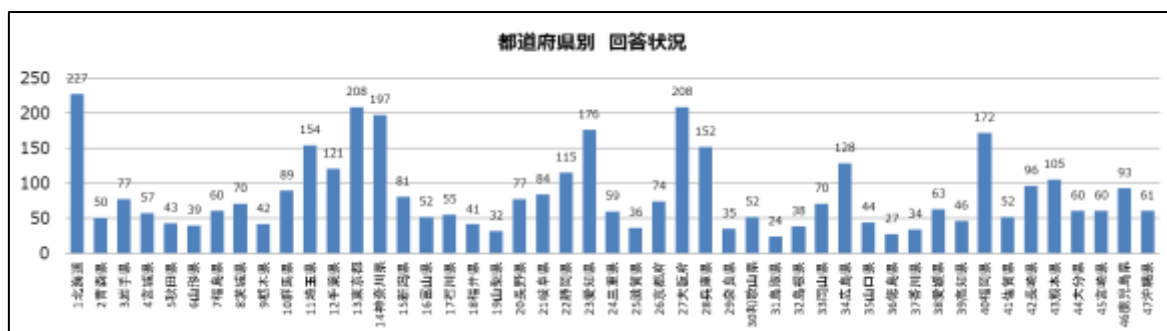


図 1 都道府県別の回答状況

2. 単純集計結果

Q1 職場の主たる業態

n=	医療機関	福祉施設	在宅サービス事業所	その他	上段: 度数	下段: %
3936	2,746	712	365	113		
100	69.8	18.1	9.3	2.9		

Q2 職場の理学療法士の人数

n=	10人未満	10人以上 20人未満	20人以上 30人未満	30人以上	不明	上段: 度数	下段: %
3936	2,654	710	266	305	1		
100	67.4	18.0	6.8	7.7	0.0		

Q3 理学療法士が関わっている主な疾患(回答は3つまで)

n=	脳血管障害	背髄損傷	骨関節疾患	外傷	神経難病	脳性麻痺	内部疾患	小児疾患	虚弱高齢	その他	不明	上段: 度数	下段: %
3936	2,967	318	3,296	501	578	209	1,158	151	1,382	167	4		
100	75.4	8.1	83.7	12.7	14.7	5.3	29.4	3.8	35.1	4.2	0.1		

Q4 施設備品として準備されている福祉用具(複数回答)

n=	入浴関連 (バスボード、シャワーチェア等)	排泄関連 (ポータブルトイレ、補高便座等)	移動関連 (車いす、杖、歩行器、手すり、擦り付け板等)	移乗(トランスファーボード、リフト等)	外出時環境(段差解消機、階段昇降機、スロープ等)	食事(スプーン、皿、ポータブルスプリングバーンサー等)	整容(長柄ブラシ等)	更衣(ボタンエイド、ソックスエイド等)	コミュニケーション(文字盤、意思伝達装置等)	姿勢調整(クッション、座位保持装置等)	その他	該当なし	上段: 度数	下段: %
3936	2,898	2,759	3,818	2,306	656	2,819	1,316	1,556	1,489	2,917	87	70		
100	73.6	70.1	97.0	58.6	16.7	71.6	33.4	39.5	37.8	74.1	2.2	1.8		

Q5 施設備品として準備されている下肢装具(複数回答)

n=	長下肢装具	金属支柱付き短下肢装具	プラスチック製短下肢装具(継手なし)	プラスチック製短下肢装具(継手あり)	オルトリーブAFO	リストラップ	膝装具	その他	該当なし	上段: 度数	下段: %
3936	1,313	1,409	2,258	1,090	1,778	420	2,263	229	913		
100	33.4	35.8	57.4	27.7	45.2	10.7	57.5	5.8	23.2		

* Q6 理学療法士が関わる支援対象者全体のうち各支援を必要とするおおよその割合(回答は半角数字で入力)

	n=	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均値	中央値	上段: 度数	下段: %
福祉用具 約*割	3936	216	498	314	392	215	411	234	344	569	526	217	5.2	5		
	100	5.5	12.7	8.0	10.0	5.5	10.4	5.9	8.7	14.5	13.4	5.5				
義肢 約*割	3936	2,932	901	41	12	3	5	3	2	7	9	21	0.4	0		
	100	74.5	22.9	1.0	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.5				
装具 約*割	3936	394	1,605	760	589	181	175	51	46	59	30	46	2.1	1		
	100	10.0	40.8	19.3	15.0	4.6	4.4	1.3	1.2	1.5	0.8	1.2				

Q7 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[A.福祉用具] 理想

n=	上段:度数 下段:%	
	関わるべき	関わらなくてよい
3936	3,903	33
100	99.2	0.8

Q8 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[A.福祉用具] 現状

n=	上段:度数 下段:%	
	関わっている	関わっていない
3936	3,294	642
100	83.7	16.3

Q9 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[A.福祉用具] 理想と現状の差

n=	上段:度数 下段:%		
	ある	ない	わからない
3936	2,278	1,082	576
100	57.9	27.5	14.6

Q10 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり

1.評価[A.福祉用具] 理想と現状の差が生じる理由【Q9=ある】(複数回答)

n=	時間が少ない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がない	上段:度数 下段:%	
										18	165
2278	1,086	1,063	804	1,186	677	712	613	165	18	165	7.2
100	47.7	46.7	35.3	52.1	29.7	31.3	26.9	7.2	0.8	7.2	0.8

Q11 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[B.義肢] 理想

n=	上段:度数 下段:%	
	関わるべき	関わらなくてよい
3936	3,782	154
100	96.1	3.9

Q12 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[B.義肢] 現状

n=	上段:度数 下段:%	
	関わっている	関わっていない
3936	1,323	2,613
100	33.6	66.4

Q13 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[B.義肢] 理想と現状の差

n=	上段:度数 下段:%		
	ある	ない	わからない
3936	1,454	939	1,543
100	36.9	23.9	39.2

Q14 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり

1.評価[B.義肢] 理想と現状の差が生じる理由【Q13=ある】(複数回答)

n=	時間が少ない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がない	上段:度数 下段:%	
										275	140
1454	409	753	676	512	363	403	196	140	275	140	9.6
100	28.1	51.8	46.5	35.2	25.0	27.7	13.5	9.6	18.9	9.6	9.6

Q15 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[C.装具] 理想

n=	上段:度数 下段:%	
	関わるべき	関わらなくてよい
3936	3,892	44
100	98.9	1.1

Q16 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[C.装具] 現状

n=	上段:度数 下段:%	
	関わっている	関わっていない
3936	3,085	851
100	78.4	21.6

Q17 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[C.装具] 理想と現状の差

n=	上段:度数 下段:%		
	ある	ない	わからない
3936	1,985	1,392	559
100	50.4	35.4	14.2

Q18 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり

1.評価[C.装具] 理想と現状の差が生じる理由【Q17=ある】(複数回答)

n=	時間が足りない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がない	上段:度数 下段:%									
										428	267	44							
1985	714	966	885	854	514	526	428	267	44	100	36.0	48.7	44.6	43.0	25.9	26.5	21.6	13.5	2.2

Q19 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[A.福祉用具] 理想

n=	上段:度数 下段:%	
	関わるべき	関わらなくてよい
3936	3,700	236
100	94.0	6.0

Q20 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[A.福祉用具] 現状

n=	上段:度数 下段:%	
	関わっている	関わっていない
3936	2,537	1,399
100	64.5	35.5

Q21 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[A.福祉用具] 理想と現状の差

n=	上段:度数 下段:%		
	ある	ない	わからない
3936	1,826	1,271	839
100	46.4	32.3	21.3

Q22 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり

2.作製・フィッティング[A.福祉用具] 理想と現状の差が生じる理由【Q21=ある】(複数回答)

n=	時間が足りない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がない	上段:度数 下段:%									
										409	128	36							
1826	821	860	773	831	607	529	409	128	36	100	45.0	47.1	42.3	45.5	33.2	29.0	22.4	7.0	2.0

Q23 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[B.義肢] 理想

n=	上段:度数 下段:%	
	関わるべき	関わらなくてよい
3936	3,555	381
100	90.3	9.7

Q24 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[B.義肢] 現状

n=	上段:度数 下段:%	
	関わっている	関わっていない
3936	1,143	2,793
100	29.0	71.0

Q25 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[B.義肢] 理想と現状の差

n=	上段:度数 下段:%		
	ある	ない	わからない
3936	1,319	1,027	1,590
100	33.5	26.1	40.4

**Q26 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり
2.作製・フィッティング[B.義肢] 理想と現状の差が生じる理由【Q25=ある】(複数回答)**

n=	時間が少ない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がない	上段:度数 下段:%	
1319	405	648	609	429	385	354	156	84	281		
100	30.7	49.1	46.2	32.5	29.2	26.8	11.8	6.4	21.3		

Q27 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[C.装具] 理想

n=	上段:度数 下段:%	
	関わるべき	関わらなくてよい
3936	3,729	207
100	94.7	5.3

Q28 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[C.装具] 現状

n=	上段:度数 下段:%	
	関わっている	関わっていない
3936	2,591	1,345
100	65.8	34.2

Q29 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[C.装具] 理想と現状の差

n=	上段:度数 下段:%		
	ある	ない	わからない
3936	1,759	1,440	737
100	44.7	36.6	18.7

**Q30 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり
2.作製・フィッティング[C.装具] 理想と現状の差が生じる理由【Q29=ある】(複数回答)**

n=	時間が少ない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がない	上段:度数 下段:%	
1759	694	905	841	677	556	463	334	197	46		
100	39.5	51.4	47.8	38.5	31.6	26.3	19.0	11.2	2.6		

Q31 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[A.福祉用具] 理想

n=	上段:度数 下段:%	
	関わるべき	関わらなくてよい
3936	3,889	47
100	98.8	1.2

Q32 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[A.福祉用具] 現状

n=	上段:度数 下段:%	
	関わっている	関わっていない
3936	3,410	526
100	86.6	13.4

Q33 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[A.福祉用具] 理想と現状の差

n=	上段:度数 下段:%		
	ある	ない	わからない
3936	1,702	1,732	502
100	43.2	44.0	12.8

**Q34 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり
3.ADL練習[A.福祉用具] 理想と現状の差が生じる理由【Q33=ある】(複数回答)**

n=	時間が少ない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がない	上段:度数 下段:%	
										1702	785
100	46.1	37.3	31.2	50.8	27.2	16.2	15.5	8.1	1.8		

Q35 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[B.義肢] 理想

n=	上段:度数 下段:%	
	関わるべき	関わらなくてよい
3936	3,835	101
100	97.4	2.6

Q36 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[B.義肢] 現状

n=	上段:度数 下段:%	
	関わっている	関わっていない
3936	1,518	2,418
100	38.6	61.4

Q37 それぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて 3.ADL練習[B.義肢] 理想と現状の差

n=	上段:度数 下段:%		
	ある	ない	わからない
3936	1,146	1,187	1,603
100	29.1	30.2	40.7

**Q38 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり
3.ADL練習[B.義肢] 理想と現状の差が生じる理由【Q37=ある】(複数回答)**

n=	時間が少ない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がない	上段:度数 下段:%	
										1146	334
100	29.1	39.0	35.8	29.8	14.4	19.4	9.1	5.8	28.7		

Q39 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[C.装具] 理想

n=	関わるべき	関わらなくてよい	上段:度数
			下段:%
3936	3,896	40	
100	99.0	1.0	

Q40 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[C.装具] 現状

n=	関わっている	関わっていない	上段:度数
			下段:%
3936	3,288	648	
100	83.5	16.5	

Q41 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[C.装具] 理想と現状の差

n=	ある	ない	わからない	上段:度数
				下段:%
3936	1,330	1,949	657	
100	33.8	49.5	16.7	

Q42 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[C.装具] 理想と現状の差が生じる理由【Q41=ある】(複数回答)

n=	時間が少ない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他具体的には:	該当する患者がない	上段:度数
										下段:%
1330	587	634	585	565	254	192	193	90	57	
100	44.1	47.7	44.0	42.5	19.1	14.4	14.5	6.8	4.3	

Q43 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[A.福祉用具] 理想

n=	関わるべき	関わらなくてよい	上段:度数
			下段:%
3936	3,874	62	
100	98.4	1.6	

Q44 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[A.福祉用具] 現状

n=	関わっている	関わっていない	上段:度数
			下段:%
3936	2,864	1,072	
100	72.8	27.2	

Q45 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[A.福祉用具] 理想と現状の差

n=	ある	ない	わからない	上段:度数
				下段:%
3936	1,614	1,541	781	
100	41.0	39.2	19.8	

Q46 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[A.福祉用具] 理想と現状の差が生じる理由【Q45=ある】(複数回答)

n=	時間が少ない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がない	上段:度数
										下段:%
1614	877	623	535	504	422	387	315	153	33	
100	54.3	38.6	33.1	31.2	26.1	24.0	19.5	9.5	2.0	

Q47 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[B.義肢] 理想

n=	上段:度数 下段:%	
	関わるべき	関わらなくてよい
3936	3,791	145
100	96.3	3.7

Q48 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[B.義肢] 現状

n=	上段:度数 下段:%	
	関わっている	関わっていない
3936	1,348	2,588
100	34.2	65.8

Q49 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[B.義肢] 理想と現状の差

n=	上段:度数 下段:%		
	ある	ない	わからない
3936	1,168	1,086	1,682
100	29.7	27.6	42.7

Q50 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり

4.導入や作製直後のフォローアップ[B.義肢] 理想と現状の差が生じる理由【Q49=ある】(複数回答)

n=	時間が少ない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がない	上段:度数 下段:%	
1168	354	448	424	285	220	232	122	77	342		
100	30.3	38.4	36.3	24.4	18.8	19.9	10.4	6.6	29.3		

Q51 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[C.装具] 理想

n=	上段:度数 下段:%	
	関わるべき	関わらなくてよい
3936	3,872	64
100	98.4	1.6

Q52 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[C.装具] 現状

n=	上段:度数 下段:%	
	関わっている	関わっていない
3936	3,008	928
100	76.4	23.6

Q53 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[C.装具] 理想と現状の差

n=	上段:度数 下段:%		
	ある	ない	わからない
3936	1,443	1,748	745
100	36.7	44.4	18.9

Q54 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり

4.導入や作製直後のフォローアップ[C.装具] 理想と現状の差が生じる理由【Q53=ある】(複数回答)

n=	時間が少ない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がない	上段:度数 下段:%	
1443	627	700	645	473	302	295	257	165	68		
100	43.5	48.5	44.7	32.8	20.9	20.4	17.8	11.4	4.7		

Q55 日常業務で福祉用具を活用している場面（複数回答）

n=		入浴	排泄	移動	移乗	外出	食事	整容	更衣	姿勢調整	コミュニケーション	なし	上段:度数 下段:%
3936	100	2,543 64.6	2,574 65.4	3,619 91.9	2,849 72.4	1,970 50.1	2,403 61.1	1,044 26.5	1,148 29.2	2,638 67.0	1,164 29.6	102 2.6	

Q56 修理や再作製等の実施状況[A.義肢]

n=		している	していない	上段:度数 下段:%
3936	100	922 23.4	3,014 76.6	

Q57 修理や再作製の実施内容[A.義肢]（複数回答）【Q56=している】

n=		資料を渡している	算定期間内に対応している	算定期間後に外来で対応している	その他	上段:度数 下段:%
922	100	196 21.3	454 49.2	513 55.6	179 19.4	

Q58 修理や再作製等の実施状況[B.装具]

n=		している	していない	上段:度数 下段:%
3936	100	2,067 52.5	1,869 47.5	

Q59 修理や再作製の実施内容[B.装具]（複数回答）【Q58=している】

n=		資料を渡している	算定期間内に対応している	算定期間後に外来で対応している	その他	上段:度数 下段:%
2067	100	420 20.3	956 46.3	1,067 51.6	517 25.0	

Q60 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種に関わり[1.評価]（複数回答）

n=		作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネジャー	その他	不明	関わっていない	上段:度数 下段:%
A. 福祉用具	3936 100	2,507 63.7	721 18.3	15 0.4	663 16.8	514 13.1	1,364 34.7	1,140 29.0	36 0.9	580 14.7	186 4.7	39 1.0	37 0.9	1,062 27.0	1,567 39.8	221 5.6	34 0.9	252 6.4	
B. 義肢	3936 100	959 24.4	73 1.9	2 0.1	692 17.6	510 13.0	1,725 43.8	235 6.0	8 0.2	174 4.4	33 0.8	9 0.2	18 0.5	83 2.1	238 6.0	40 1.0	111 2.8	1,684 42.8	
C. 装具	3936 100	1,845 46.9	129 3.3	7 0.2	1,030 26.2	877 22.3	2,541 64.6	539 13.7	16 0.4	266 6.8	99 2.5	30 0.8	18 0.5	170 4.3	530 13.5	84 2.1	47 1.2	441 11.2	

Q61 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種に関わり[2.作製・フィッティング]（複数回答）

n=		作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネジャー	その他	不明	関わっていない	上段:度数 下段:%
A. 福祉用具	3936 100	2,344 59.6	510 13.0	6 0.2	573 14.6	392 10.0	951 24.2	898 22.8	29 0.7	458 11.6	134 3.4	33 0.8	35 0.9	1,053 26.8	1,306 33.2	186 4.7	39 1.0	408 10.4	
B. 義肢	3936 100	895 22.7	50 1.3	0.1	660 16.8	450 11.4	1,773 45.0	214 5.4	9 0.2	129 3.3	26 0.7	9 0.2	15 0.4	68 1.7	179 4.5	28 0.7	103 2.6	1,673 42.5	
C. 装具	3936 100	1,696 43.1	112 2.8	6 0.2	923 23.5	713 18.1	2,541 64.6	449 11.4	15 0.4	208 5.3	81 2.1	26 0.7	20 0.5	131 3.3	393 10.0	66 1.7	44 1.1	536 13.6	

Q62 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種に関わり[3.ADL練習](複数回答)

	n=	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネジャー	その他	不明	関わっていない	上段:度数 下段:%	
																			51	411
A. 福祉用具	3936	2,549	643	12	422	273	497	1,354	35	325	153	39	26	581	916	294	51	411	1.3	10.4
	100	64.8	16.3	0.3	10.7	6.9	12.6	34.4	0.9	8.3	3.9	1.0	0.7	14.8	23.3	7.5	1.3	10.4		
B. 義肢	3936	1,201	93	7	416	269	1,003	514	11	116	38	12	12	65	182	58	136	1,847	3.5	46.9
	100	30.5	2.4	0.2	10.6	6.8	25.5	13.1	0.3	2.9	1.0	0.3	0.3	1.7	4.6	1.5	3.5	46.9		
C. 装具	3936	2,195	203	6	564	391	1,298	954	14	174	101	34	16	111	363	166	62	669	1.6	17.0
	100	55.8	5.2	0.2	14.3	9.9	33.0	24.2	0.4	4.4	2.6	0.9	0.4	2.8	9.2	4.2	1.6	17.0		

Q63 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種に関わり[4.導入や作製直後のフォローアップ](複数回答)

	n=	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネジャー	その他	不明	関わっていない	上段:度数 下段:%	
																			54	386
A. 福祉用具	3936	2,378	496	4	513	341	804	1,022	32	451	152	31	30	993	1,370	208	54	386	1.4	9.8
	100	60.4	12.6	0.1	13.0	8.7	20.4	26.0	0.8	11.5	3.9	0.8	0.8	25.2	34.8	5.3	1.4	9.8		
B. 義肢	3936	1,001	70	3	577	385	1,584	290	12	154	35	8	10	76	247	40	135	1,746	3.4	44.4
	100	25.4	1.8	0.1	14.7	9.8	40.2	7.4	0.3	3.9	0.9	0.2	0.3	1.9	6.3	1.0	3.4	44.4		
C. 装具	3936	1,892	140	8	797	573	2,212	605	19	247	93	26	12	136	518	96	61	578	1.5	14.7
	100	48.1	3.6	0.2	20.2	14.6	56.2	15.4	0.5	6.3	2.4	0.7	0.3	3.5	13.2	2.4	1.5	14.7		

Q64 理学療法士がより深く関わることで期待できる効果の有無[A.福祉用具]

n=	ある	ない	今まで関わっていない	上段:度数 下段:%	
				148	3.8
3936	3,598	190	148		
100	91.4	4.8	3.8		

Q65 期待できる効果[A.福祉用具](複数回答)【Q64=ある】

n=	心身機能の向上	ADL自立度の向上	介助者の負担の軽減	地域や社会活動への参加	生活の質の向上	その他	上段:度数 下段:%	
							104	2.9
3598	2,416	3,387	3,328	2,149	2,972	104		
100	67.1	94.1	92.5	59.7	82.6	2.9		

Q66 理学療法士がより深く関わることで期待できる効果の有無[B.義肢]

n=	ある	ない	今まで関わっていない	上段:度数 下段:%	
				1,466	37.2
3936	2,248	222	1,466		
100	57.1	5.6	37.2		

Q67 期待できる効果[B.義肢](複数回答)【Q66=ある】

n=	心身機能の向上	ADL自立度の向上	介助者の負担の軽減	地域や社会活動への参加	生活の質の向上	その他	上段:度数 下段:%	
							42	1.9
2248	1,785	2,079	1,664	1,562	1,876	42		
100	79.4	92.5	74.0	69.5	83.5	1.9		

Q68 理学療法士がより深く関わることで期待できる効果の有無[C.装具]

n=	ある	ない	今まで関わっていない	上段:度数
				下段:%
3936	3,483	231	222	
100	88.5	5.9	5.6	

Q69 期待できる効果[C.装具](複数回答)【Q68=ある】

n=	心身機能の向上	ADL自立度の向上	介助者の負担の軽減	地域や社会活動への参加	生活の質の向上	その他	上段:度数
							下段:%
3483	2,807	3,285	2,793	2,309	2,878	91	
100	80.6	94.3	80.2	66.3	82.6	2.6	

Q70 卒前教育や研修機会[A.福祉用具]

n=		十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分	上段:度数
							下段:%
3936	知識について	31	165	1,006	1,463	1,271	
100		0.8	4.2	25.6	37.2	32.3	
3936	技術について	29	120	950	1,446	1,391	
100		0.7	3.0	24.1	36.7	35.3	

Q71 卒前教育や研修機会[B.義肢]

n=		十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分	上段:度数
							下段:%
3936	知識について	12	81	864	1,340	1,639	
100		0.3	2.1	22.0	34.0	41.6	
3936	技術について	10	64	685	1,258	1,919	
100		0.3	1.6	17.4	32.0	48.8	

Q72 卒前教育や研修機会[C.装具]

n=		十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分	上段:度数
							下段:%
3936	知識について	21	148	1,167	1,468	1,132	
100		0.5	3.8	29.6	37.3	28.8	
3936	技術について	16	115	982	1,463	1,360	
100		0.4	2.9	24.9	37.2	34.6	

Q73 卒後（協会、都道府県士会等）での教育や研修機会[A.福祉用具]

n=		十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分	上段:度数 下段:%
知識について	3936 100	29 0.7	136 3.5	1,353 34.4	1,421 36.1	997 25.3	
技術について	3936 100	23 0.6	115 2.9	1,273 32.3	1,478 37.6	1,047 26.6	

Q74 卒後（協会、都道府県士会等）での教育や研修機会[B.義肢]

n=		十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分	上段:度数 下段:%
知識について	3936 100	15 0.4	67 1.7	997 25.3	1,406 35.7	1,451 36.9	
技術について	3936 100	13 0.3	56 1.4	901 22.9	1,396 35.5	1,570 39.9	

Q75 卒後（協会、都道府県士会等）での教育や研修機会[C.装具]

n=		十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分	上段:度数 下段:%
知識について	3936 100	23 0.6	135 3.4	1,384 35.2	1,421 36.1	973 24.7	
技術について	3936 100	21 0.5	119 3.0	1,275 32.4	1,467 37.3	1,054 26.8	

Q76 職場内での教育や研修機会[A.福祉用具]

n=		十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分	上段:度数 下段:%
知識について	3936 100	38 1.0	215 5.5	1,302 33.1	1,355 34.4	1,026 26.1	
技術について	3936 100	36 0.9	197 5.0	1,271 32.3	1,390 35.3	1,042 26.5	

Q77 職場内での教育や研修機会について[B.義肢]

n=		十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分	上段:度数 下段:%
知識について	3936 100	17 0.4	73 1.9	799 20.3	1,167 29.6	1,880 47.8	
技術について	3936 100	16 0.4	69 1.8	727 18.5	1,180 30.0	1,944 49.4	

Q78 職場内での教育や研修機会[C.装具]

n=		十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分	上段:度数 下段:%
知識について	3936 100	37 0.9	213 5.4	1,178 29.9	1,388 35.3	1,120 28.5	
技術について	3936 100	37 0.9	184 4.7	1,134 28.8	1,413 35.9	1,168 29.7	

Q79 最新情報の入手状況[A.福祉用具]

n=	出来ている	出来ていない	わからない	上段:度数 下段:%
	3936 100	1,561 39.7	1,613 41.0	762 19.4

Q80 情報の入手先[A.福祉用具](複数回答)【Q79=出来ている】

n=	メーカーや業者	ソーシャルワーカーやケアマネジャー	雑誌や広告	学会や講習会	論文	展示会	インターネットやメールマガジン	その他	上段:度数 下段:%
	1561 100	1,512 96.9	430 27.5	505 32.4	616 39.5	135 8.6	719 46.1	408 26.1	25 1.6

Q81 最新情報の入手状況[B.義肢]

n=	出来ている	出来ていない	わからない	上段:度数 下段:%
	3936 100	377 9.6	2,718 69.1	841 21.4

Q82 情報の入手先[B.義肢](複数回答)【Q81=出来ている】

n=	メーカーや業者	ソーシャルワーカーやケアマネジャー	雑誌や広告	学会や講習会	論文	展示会	インターネットやメールマガジン	その他	上段:度数 下段:%
	377 100	355 94.2	50 13.3	82 21.8	155 41.1	61 16.2	111 29.4	70 18.6	13 3.4

Q83 最新情報の入手状況[C.装具]

n=	出来ている	出来ていない	わからない	上段:度数 下段:%
	3936 100	1,094 27.8	2,142 54.4	700 17.8

Q84 情報の入手先について[C.装具](複数回答)【Q83=出来ている】

n=	メーカーや業者	ソーシャルワーカーやケアマネジャー	雑誌や広告	学会や講習会	論文	展示会	インターネットやメールマガジン	その他	上段:度数 下段:%
	1094 100	1,041 95.2	94 8.6	293 26.8	582 53.2	257 23.5	361 33.0	250 22.9	29 2.7

3. クロス集計結果

【Q1 職場の主たる業態とのクロス】

表頭: Q2 職場の理学療法士の人数

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	10人未満	10人以上20人未満	20人以上30人未満	30人以上	不明
1段目 度数	2段目 横%						
0	TOTAL	3936	2654	710	266	305	1
		100.0	67.4	18.0	6.8	7.7	0.0
1	医療機関	2746	1512	669	263	302	0
		100.0	55.1	24.4	9.6	11.0	0.0
2	福祉施設	712	688	20	0	3	1
		100.0	96.6	2.8	0.0	0.4	0.1
3	在宅サービス事業所	365	346	16	3	0	0
		100.0	94.8	4.4	0.8	0.0	0.0
4	その他	113	108	5	0	0	0
		100.0	95.6	4.4	0.0	0.0	0.0

表頭: Q3 理学療法士が関わっている主な疾患(回答は3つまで)

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5	6
		TOTAL	脳血管障害	脊髄損傷	骨関節疾患	外傷	神経難病	脳性麻痺
1段目 度数	2段目 横%							
0	TOTAL	3936	2967	318	3296	501	578	209
		100.0	75.4	8.1	83.7	12.7	14.7	5.3
1	医療機関	2746	1942	213	2405	480	314	95
		100.0	70.7	7.8	87.6	17.5	11.4	3.5
2	福祉施設	712	594	67	504	18	83	96
		100.0	83.4	9.4	70.8	2.5	11.7	13.5
3	在宅サービス事業所	365	336	30	295	1	160	8
		100.0	92.1	8.2	80.8	0.3	43.8	2.2
4	その他	113	95	8	92	2	21	10
		100.0	84.1	7.1	81.4	1.8	18.6	8.8

(前表からのつづき)

		0	7	8	9	10	11
		TOTAL	内部疾患	小児疾患	虚弱高齢	その他	不明
1段目 度数	2段目 横%						
0	TOTAL	3936	1158	151	1382	167	4
		100.0	29.4	3.8	35.1	4.2	0.1
1	医療機関	2746	986	86	769	105	0
		100.0	35.9	3.1	28.0	3.8	0.0
2	福祉施設	712	104	47	389	45	3
		100.0	14.6	6.6	54.6	6.3	0.4
3	在宅サービス事業所	365	53	11	165	6	1
		100.0	14.5	3.0	45.2	1.6	0.3
4	その他	113	15	7	59	11	0
		100.0	13.3	6.2	52.2	9.7	0.0

表頭: Q4 施設備品として準備されている福祉用具(複数回答)

表側: Q1 職場の主たる業態

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6
		TOTAL	入浴関連(バスボード、シャワーチェア等)	排泄関連(ポータブルトイレ、補高便座等)	移動関連(車いす、杖、歩行器、手すり、擦り付け板等)	移乗(トランスファーボード、リフト等)	外出時環境(段差解消機、階段昇降機、スロープ等)	食事(スプーン、皿、ポータブルスプリングバランス等)
0	TOTAL	3936	2898	2759	3818	2306	656	2819
		100.0	73.6	70.1	97.0	58.6	16.7	71.6
1	医療機関	2746	1953	1971	2691	1624	431	1944
		100.0	71.1	71.8	98.0	59.1	15.7	70.8
2	福祉施設	712	626	587	704	478	157	600
		100.0	87.9	82.4	98.9	67.1	22.1	84.3
3	在宅サービス事業所	365	225	119	315	134	46	187
		100.0	61.6	32.6	86.3	36.7	12.6	51.2
4	その他	113	94	82	108	70	22	88
		100.0	83.2	72.6	95.6	61.9	19.5	77.9

(前表からのつづき)

1段目 度数 2段目 横%		0	7	8	9	10	11	12
		TOTAL	整容(長柄ブラシ等)	更衣(ボタンエイド、ソックスエイド等)	コミュニケーション(文字盤、意思伝達装置等)	姿勢調整(クッション、座位保持装置等)	その他	該当なし
0	TOTAL	3936	1316	1556	1489	2917	87	70
		100.0	33.4	39.5	37.8	74.1	2.2	1.8
1	医療機関	2746	1084	1314	1201	2014	42	40
		100.0	39.5	47.9	43.7	73.3	1.5	1.5
2	福祉施設	712	154	145	201	625	23	2
		100.0	21.6	20.4	28.2	87.8	3.2	0.3
3	在宅サービス事業所	365	58	65	56	181	15	24
		100.0	15.9	17.8	15.3	49.6	4.1	6.6
4	その他	113	20	32	31	97	7	4
		100.0	17.7	28.3	27.4	85.8	6.2	3.5

表頭: Q5 施設備品として準備されている下肢装具(複数回答)

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	長下肢装具	金属支柱付き短下肢装具	プラスチック製短下肢装具(継手なし)	プラスチック製短下肢装具(継手あり)	オルトトップAFO
0	TOTAL	3936 100.0	1313 33.4	1409 35.8	2258 57.4	1090 27.7	1778 45.2
1	医療機関	2746 100.0	1198 43.6	1194 43.5	1829 66.6	915 33.3	1509 55.0
2	福祉施設	712 100.0	74 10.4	150 21.1	275 38.6	113 15.9	155 21.8
3	在宅サービス事業所	365 100.0	31 8.5	42 11.5	104 28.5	43 11.8	77 21.1
4	その他	113 100.0	10 8.8	23 20.4	50 44.2	19 16.8	37 32.7

(前表からのつづき)

		0	6	7	8	9
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	リーストラップ	膝装具	その他	該当なし
0	TOTAL	3936 100.0	420 10.7	2263 57.5	229 5.8	913 23.2
1	医療機関	2746 100.0	379 13.8	1913 69.7	184 6.7	358 13.0
2	福祉施設	712 100.0	21 2.9	229 32.2	27 3.8	313 44.0
3	在宅サービス事業所	365 100.0	10 2.7	80 21.9	10 2.7	198 54.2
4	その他	113 100.0	10 8.8	41 36.3	8 7.1	44 38.9

表頭: Q6 理学療法士が関わる支援対象者全体のうち各支援を必要とするおおよその割合(回答は半角数字で入力): 福祉用具

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
0	TOTAL	3936 100.0	52.0	50	30.10	0	100
1	医療機関	2746 100.0	44.0	40	29.90	0	100
2	福祉施設	712 100.0	71.0	80	25.70	0	100
3	在宅サービス事業所	365 100.0	70.0	80	26.50	0	100
4	その他	113 100.0	66.0	80	29.20	0	100

表頭: Q6 理学療法士が関わる支援対象者全体のうち各支援を必要とするおおよその割合(回答は半角数字で入力): 義肢
表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936 100.0	4.0	0	10.50	0	100
1	医療機関	2746 100.0	4.0	0	11.30	0	100
2	福祉施設	712 100.0	3.0	0	9.80	0	100
3	在宅サービス事業所	365 100.0	2.0	0	4.90	0	50
4	その他	113 100.0	2.0	0	4.00	0	20

表頭: Q6 理学療法士が関わる支援対象者全体のうち各支援を必要とするおおよその割合(回答は半角数字で入力): 装具
表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936 100.0	21.0	10	19.20	0	100
1	医療機関	2746 100.0	22.0	10	20.00	0	100
2	福祉施設	712 100.0	20.0	10	17.70	0	100
3	在宅サービス事業所	365 100.0	19.0	20	14.30	0	80
4	その他	113 100.0	24.0	20	21.20	0	90

表頭: Q7 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[A.福祉用具] 理想
表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
		TOTAL	関わるべき	関わらなくてよい
1段目	度数			
2段目	横%			
0	TOTAL	3936 100.0	3903 99.2	33 0.8
1	医療機関	2746 100.0	2720 99.1	26 0.9
2	福祉施設	712 100.0	709 99.6	3 0.4
3	在宅サービス事業所	365 100.0	363 99.5	2 0.5
4	その他	113 100.0	111 98.2	2 1.8

表頭: Q8 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[A.福祉用具] 現状

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
		TOTAL	関わっている	関わっていない
1段目	度数			
2段目	横%			
0	TOTAL	3936	3294	642
		100.0	83.7	16.3
1	医療機関	2746	2250	496
		100.0	81.9	18.1
2	福祉施設	712	615	97
		100.0	86.4	13.6
3	在宅サービス事業所	365	327	38
		100.0	89.6	10.4
4	その他	113	102	11
		100.0	90.3	9.7

表頭: Q9 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[A.福祉用具] 理想と現状の差

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	わからない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936	2278	1082	576
		100.0	57.9	27.5	14.6
1	医療機関	2746	1560	749	437
		100.0	56.8	27.3	15.9
2	福祉施設	712	428	199	85
		100.0	60.1	27.9	11.9
3	在宅サービス事業所	365	227	95	43
		100.0	62.2	26.0	11.8
4	その他	113	63	39	11
		100.0	55.8	34.5	9.7

表頭: Q10 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[A.福祉用具] 理想と現状の差が生じる理由【Q9=ある】(複数回答)

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	時間がない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	2278	1086	1063	804	1186	677
		100.0	47.7	46.7	35.3	52.1	29.7
1	医療機関	1560	766	803	603	825	467
		100.0	49.1	51.5	38.7	52.9	29.9
2	福祉施設	428	201	184	146	232	105
		100.0	47.0	43.0	34.1	54.2	24.5
3	在宅サービス事業所	227	85	52	37	98	88
		100.0	37.4	22.9	16.3	43.2	38.8
4	その他	63	34	24	18	31	17
		100.0	54.0	38.1	28.6	49.2	27.0

(前表からのつづき)

		0	6	7	8	9
		TOTAL	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がいない
1段目	度数					
2段目	横%					
0	TOTAL	2278	712	613	165	18
		100.0	31.3	26.9	7.2	0.8
1	医療機関	1560	467	404	86	16
		100.0	29.9	25.9	5.5	1.0
2	福祉施設	428	110	129	38	2
		100.0	25.7	30.1	8.9	0.5
3	在宅サービス事業所	227	115	63	30	0
		100.0	50.7	27.8	13.2	0.0
4	その他	63	20	17	11	0
		100.0	31.7	27.0	17.5	0.0

表頭: Q12 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[B.義肢] 現状

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
		TOTAL	関わっている	関わっていない
1段目	度数			
2段目	横%			
0	TOTAL	3936	1323	2613
		100.0	33.6	66.4
1	医療機関	2746	1101	1645
		100.0	40.1	59.9
2	福祉施設	712	128	584
		100.0	18.0	82.0
3	在宅サービス事業所	365	73	292
		100.0	20.0	80.0
4	その他	113	21	92
		100.0	18.6	81.4

表頭: Q13 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[B.義肢] 理想と現状の差

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	わからない
1段目 度数					
2段目 横%					
0	TOTAL	3936	1454	939	1543
		100.0	36.9	23.9	39.2
1	医療機関	2746	1061	692	993
		100.0	38.6	25.2	36.2
2	福祉施設	712	234	157	321
		100.0	32.9	22.1	45.1
3	在宅サービス事業所	365	126	65	174
		100.0	34.5	17.8	47.7
4	その他	113	33	25	55
		100.0	29.2	22.1	48.7

表頭: Q14 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[B.義肢] 理想と現状の差が生じる理由【Q13=ある】(複数回答)

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	時間がない	対応するのに必要な知識が不足している	対応するのに必要な技術が不足している	対応するのに必要な備品が不足している	理学療法士以外の職種が対応している
1段目 度数							
2段目 横%							
0	TOTAL	1454	409	753	676	512	363
		100.0	28.1	51.8	46.5	35.2	25.0
1	医療機関	1061	309	590	528	384	305
		100.0	29.1	55.6	49.8	36.2	28.7
2	福祉施設	234	62	100	95	86	32
		100.0	26.5	42.7	40.6	36.8	13.7
3	在宅サービス事業所	126	33	54	46	35	22
		100.0	26.2	42.9	36.5	27.8	17.5
4	その他	33	5	9	7	7	4
		100.0	15.2	27.3	21.2	21.2	12.1

(前表からのつづき)

		0	6	7	8	9
		TOTAL	理学療法士への依頼がない	保険適応されないなどの経営的理由	その他	該当する患者がいない
1段目 度数						
2段目 横%						
0	TOTAL	1454	403	196	140	275
		100.0	27.7	13.5	9.6	18.9
1	医療機関	1061	281	121	88	182
		100.0	26.5	11.4	8.3	17.2
2	福祉施設	234	65	50	24	57
		100.0	27.8	21.4	10.3	24.4
3	在宅サービス事業所	126	48	19	22	24
		100.0	38.1	15.1	17.5	19.0
4	その他	33	9	6	6	12
		100.0	27.3	18.2	18.2	36.4

表頭: Q15 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[C.装具] 理想

表側: Q1 職場の主たる業態

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2
		TOTAL	関わるべき	関わらなくてよい
0	TOTAL	3936 100.0	3892 98.9	44 1.1
1	医療機関	2746 100.0	2721 99.1	25 0.9
2	福祉施設	712 100.0	699 98.2	13 1.8
3	在宅サービス事業所	365 100.0	361 98.9	4 1.1
4	その他	113 100.0	111 98.2	2 1.8

表頭: Q16 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[C.装具] 現状

表側: Q1 職場の主たる業態

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2
		TOTAL	関わっている	関わっていない
0	TOTAL	3936 100.0	3085 78.4	851 21.6
1	医療機関	2746 100.0	2207 80.4	539 19.6
2	福祉施設	712 100.0	504 70.8	208 29.2
3	在宅サービス事業所	365 100.0	286 78.4	79 21.6
4	その他	113 100.0	88 77.9	25 22.1

表頭: Q17 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[C.装具] 理想と現状の差

表側: Q1 職場の主たる業態

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	わからない
0	TOTAL	3936 100.0	1985 50.4	1392 35.4	559 14.2
1	医療機関	2746 100.0	1358 49.5	1009 36.7	379 13.8
2	福祉施設	712 100.0	352 49.4	241 33.8	119 16.7
3	在宅サービス事業所	365 100.0	217 59.5	102 27.9	46 12.6
4	その他	113 100.0	58 51.3	40 35.4	15 13.3

表頭: Q18 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[C.装具] 理想と現状の差が生じる理由【Q17=ある】(複数回答)

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る
0	TOTAL	1985 100.0	714 36.0	966 48.7	885 44.6	854 43.0	514 25.9
1	医療機関	1358 100.0	513 37.8	742 54.6	683 50.3	595 43.8	412 30.3
2	福祉施設	352 100.0	119 33.8	150 42.6	132 37.5	150 42.6	54 15.3
3	在宅サービス事業所	217 100.0	62 28.6	53 24.4	51 23.5	81 37.3	41 18.9
4	その他	58 100.0	20 34.5	21 36.2	19 32.8	28 48.3	7 12.1

(前表からのつづき)

		0	6	7	8	9
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1985 100.0	526 26.5	428 21.6	267 13.5	44 2.2
1	医療機関	1358 100.0	346 25.5	258 19.0	132 9.7	29 2.1
2	福祉施設	352 100.0	90 25.6	105 29.8	57 16.2	12 3.4
3	在宅サービス事業所	217 100.0	80 36.9	48 22.1	65 30.0	2 0.9
4	その他	58 100.0	10 17.2	17 29.3	13 22.4	1 1.7

表頭: Q19 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[A.福祉用具] 理想

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	関わるべき	関わらなくて よい
0	TOTAL	3936 100.0	3700 94.0	236 6.0
1	医療機関	2746 100.0	2565 93.4	181 6.6
2	福祉施設	712 100.0	675 94.8	37 5.2
3	在宅サービス事業所	365 100.0	351 96.2	14 3.8
4	その他	113 100.0	109 96.5	4 3.5

表頭: Q20 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[A.福祉用具] 現状
 表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
		TOTAL	関わっている	関わっていない
1段目	度数			
2段目	横%			
0	TOTAL	3936 100.0	2537 64.5	1399 35.5
1	医療機関	2746 100.0	1719 62.6	1027 37.4
2	福祉施設	712 100.0	482 67.7	230 32.3
3	在宅サービス事業所	365 100.0	260 71.2	105 28.8
4	その他	113 100.0	76 67.3	37 32.7

表頭: Q21 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[A.福祉用具] 理想と現状の差
 表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	わからない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936 100.0	1826 46.4	1271 32.3	839 21.3
1	医療機関	2746 100.0	1259 45.8	872 31.8	615 22.4
2	福祉施設	712 100.0	325 45.6	253 35.5	134 18.8
3	在宅サービス事業所	365 100.0	193 52.9	106 29.0	66 18.1
4	その他	113 100.0	49 43.4	40 35.4	24 21.2

表頭: Q22 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2. 作製・フィッティング[A. 福祉用具] 理想と現状の差が生じる理由
 表側: Q1 職場の主たる業態 【Q21=ある】(複数回答)

		0	1	2	3	4	5
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る
0	TOTAL	1826 100.0	821 45.0	860 47.1	773 42.3	831 45.5	607 33.2
1	医療機関	1259 100.0	583 46.3	650 51.6	586 46.5	588 46.7	441 35.0
2	福祉施設	325 100.0	145 44.6	137 42.2	127 39.1	156 48.0	73 22.5
3	在宅サービス事業所	193 100.0	71 36.8	54 28.0	46 23.8	64 33.2	80 41.5
4	その他	49 100.0	22 44.9	19 38.8	14 28.6	23 46.9	13 26.5

(前表からのつづき)

		0	6	7	8	9
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1826 100.0	529 29.0	409 22.4	128 7.0	36 2.0
1	医療機関	1259 100.0	352 28.0	267 21.2	74 5.9	25 2.0
2	福祉施設	325 100.0	76 23.4	91 28.0	21 6.5	6 1.8
3	在宅サービス事業所	193 100.0	86 44.6	40 20.7	26 13.5	4 2.1
4	その他	49 100.0	15 30.6	11 22.4	7 14.3	1 2.0

表頭: Q23 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2. 作製・フィッティング[B. 義肢] 理想
 表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	関わるべき	関わらなくて よい
0	TOTAL	3936 100.0	3555 90.3	381 9.7
1	医療機関	2746 100.0	2488 90.6	258 9.4
2	福祉施設	712 100.0	637 89.5	75 10.5
3	在宅サービス事業所	365 100.0	329 90.1	36 9.9
4	その他	113 100.0	101 89.4	12 10.6

表頭: Q24 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2. 作製・フィッティング[B.義肢] 現状
 表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
		TOTAL	関わっている	関わっていない
1段目	度数			
2段目	横%			
0	TOTAL	3936 100.0	1143 29.0	2793 71.0
1	医療機関	2746 100.0	961 35.0	1785 65.0
2	福祉施設	712 100.0	109 15.3	603 84.7
3	在宅サービス事業所	365 100.0	53 14.5	312 85.5
4	その他	113 100.0	20 17.7	93 82.3

表頭: Q25 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2. 作製・フィッティング[B.義肢] 理想と現状の差
 表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	わからない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936 100.0	1319 33.5	1027 26.1	1590 40.4
1	医療機関	2746 100.0	972 35.4	756 27.5	1018 37.1
2	福祉施設	712 100.0	198 27.8	179 25.1	335 47.1
3	在宅サービス事業所	365 100.0	117 32.1	67 18.4	181 49.6
4	その他	113 100.0	32 28.3	25 22.1	56 49.6

表頭: Q26 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[B.義肢] 理想と現状の差が生じる理由

表側: Q1 職場の主たる業態

【Q25=ある】(複数回答)

		0	1	2	3	4	5
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る
0	TOTAL	1319 100.0	405 30.7	648 49.1	609 46.2	429 32.5	385 29.2
1	医療機関	972 100.0	310 31.9	526 54.1	489 50.3	340 35.0	324 33.3
2	福祉施設	198 100.0	49 24.7	75 37.9	78 39.4	52 26.3	30 15.2
3	在宅サービス事業所	117 100.0	37 31.6	38 32.5	35 29.9	31 26.5	28 23.9
4	その他	32 100.0	9 28.1	9 28.1	7 21.9	6 18.8	3 9.4

(前表からのつづき)

		0	6	7	8	9
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1319 100.0	354 26.8	156 11.8	84 6.4	281 21.3
1	医療機関	972 100.0	242 24.9	109 11.2	53 5.5	183 18.8
2	福祉施設	198 100.0	50 25.3	31 15.7	14 7.1	61 30.8
3	在宅サービス事業所	117 100.0	54 46.2	16 13.7	13 11.1	24 20.5
4	その他	32 100.0	8 25.0	0 0.0	4 12.5	13 40.6

表頭: Q27 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[C.装具] 理想

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	関わるべき	関わらなくて よい
0	TOTAL	3936 100.0	3729 94.7	207 5.3
1	医療機関	2746 100.0	2602 94.8	144 5.2
2	福祉施設	712 100.0	676 94.9	36 5.1
3	在宅サービス事業所	365 100.0	343 94.0	22 6.0
4	その他	113 100.0	108 95.6	5 4.4

表頭: Q28 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[C.装具] 現状
表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
		TOTAL	関わっている	関わっていない
1段目	度数			
2段目	横%			
0	TOTAL	3936 100.0	2591 65.8	1345 34.2
1	医療機関	2746 100.0	1895 69.0	851 31.0
2	福祉施設	712 100.0	405 56.9	307 43.1
3	在宅サービス事業所	365 100.0	215 58.9	150 41.1
4	その他	113 100.0	76 67.3	37 32.7

表頭: Q29 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[C.装具] 理想と現状の差
表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	わからない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936 100.0	1759 44.7	1440 36.6	737 18.7
1	医療機関	2746 100.0	1226 44.6	1043 38.0	477 17.4
2	福祉施設	712 100.0	296 41.6	259 36.4	157 22.1
3	在宅サービス事業所	365 100.0	192 52.6	96 26.3	77 21.1
4	その他	113 100.0	45 39.8	42 37.2	26 23.0

表頭: Q30 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[C.装具] 理想と現状の差が生じる理由

表側: Q1 職場の主たる業態

【Q29=ある】(複数回答)

		0	1	2	3	4	5
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る
0	TOTAL	1759 100.0	694 39.5	905 51.4	841 47.8	677 38.5	556 31.6
1	医療機関	1226 100.0	510 41.6	693 56.5	648 52.9	486 39.6	446 36.4
2	福祉施設	296 100.0	96 32.4	131 44.3	119 40.2	110 37.2	48 16.2
3	在宅サービス事業所	192 100.0	72 37.5	59 30.7	55 28.6	63 32.8	53 27.6
4	その他	45 100.0	16 35.6	22 48.9	19 42.2	18 40.0	9 20.0

(前表からのつづき)

		0	6	7	8	9
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1759 100.0	463 26.3	334 19.0	197 11.2	46 2.6
1	医療機関	1226 100.0	311 25.4	214 17.5	87 7.1	26 2.1
2	福祉施設	296 100.0	72 24.3	77 26.0	47 15.9	16 5.4
3	在宅サービス事業所	192 100.0	74 38.5	34 17.7	53 27.6	3 1.6
4	その他	45 100.0	6 13.3	9 20.0	10 22.2	1 2.2

表頭: Q31 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[A.福祉用具] 理想

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	関わるべき	関わらなくて よい
0	TOTAL	3936 100.0	3889 98.8	47 1.2
1	医療機関	2746 100.0	2704 98.5	42 1.5
2	福祉施設	712 100.0	710 99.7	2 0.3
3	在宅サービス事業所	365 100.0	363 99.5	2 0.5
4	その他	113 100.0	112 99.1	1 0.9

表頭: Q32 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[A.福祉用具] 現状

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
		TOTAL	関わっている	関わっていない
1段目 度数	2段目 横%			
0	TOTAL	3936 100.0	3410 86.6	526 13.4
1	医療機関	2746 100.0	2323 84.6	423 15.4
2	福祉施設	712 100.0	641 90.0	71 10.0
3	在宅サービス事業所	365 100.0	345 94.5	20 5.5
4	その他	113 100.0	101 89.4	12 10.6

表頭: Q33 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[A.福祉用具] 理想と現状の差

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	わからない
1段目 度数	2段目 横%				
0	TOTAL	3936 100.0	1702 43.2	1732 44.0	502 12.8
1	医療機関	2746 100.0	1193 43.4	1155 42.1	398 14.5
2	福祉施設	712 100.0	312 43.8	333 46.8	67 9.4
3	在宅サービス事業所	365 100.0	142 38.9	197 54.0	26 7.1
4	その他	113 100.0	55 48.7	47 41.6	11 9.7

表頭: Q34 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[A.福祉用具] 理想と現状の差が生じる理由
 表側: Q1 職場の主たる業態 【Q33=ある】(複数回答)

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る
0	TOTAL	1702 100.0	785 46.1	635 37.3	531 31.2	865 50.8	463 27.2
1	医療機関	1193 100.0	521 43.7	503 42.2	423 35.5	628 52.6	330 27.7
2	福祉施設	312 100.0	171 54.8	93 29.8	79 25.3	149 47.8	81 26.0
3	在宅サービス事業所	142 100.0	63 44.4	24 16.9	17 12.0	62 43.7	39 27.5
4	その他	55 100.0	30 54.5	15 27.3	12 21.8	26 47.3	13 23.6

(前表からのつづき)

1段目 度数 2段目 横%		0	6	7	8	9
		TOTAL	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1702 100.0	275 16.2	264 15.5	138 8.1	31 1.8
1	医療機関	1193 100.0	171 14.3	175 14.7	81 6.8	26 2.2
2	福祉施設	312 100.0	47 15.1	59 18.9	27 8.7	5 1.6
3	在宅サービス事業所	142 100.0	50 35.2	26 18.3	23 16.2	0 0.0
4	その他	55 100.0	7 12.7	4 7.3	7 12.7	0 0.0

表頭: Q35 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[B.義肢] 理想
 表側: Q1 職場の主たる業態

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2
		TOTAL	関わるべき	関わらなくて よい
0	TOTAL	3936 100.0	3835 97.4	101 2.6
1	医療機関	2746 100.0	2677 97.5	69 2.5
2	福祉施設	712 100.0	687 96.5	25 3.5
3	在宅サービス事業所	365 100.0	359 98.4	6 1.6
4	その他	113 100.0	112 99.1	1 0.9

表頭: Q36 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[B.義肢] 現状

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
		TOTAL	関わっている	関わっていない
1段目	度数			
2段目	横%			
0	TOTAL	3936 100.0	1518 38.6	2418 61.4
1	医療機関	2746 100.0	1231 44.8	1515 55.2
2	福祉施設	712 100.0	166 23.3	546 76.7
3	在宅サービス事業所	365 100.0	93 25.5	272 74.5
4	その他	113 100.0	28 24.8	85 75.2

表頭: Q37 それぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて 3.ADL練習[B.義肢] 理想と現状の差

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	わからない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936 100.0	1146 29.1	1187 30.2	1603 40.7
1	医療機関	2746 100.0	850 31.0	863 31.4	1033 37.6
2	福祉施設	712 100.0	180 25.3	202 28.4	330 46.3
3	在宅サービス事業所	365 100.0	89 24.4	91 24.9	185 50.7
4	その他	113 100.0	27 23.9	31 27.4	55 48.7

表頭: Q38 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[B.義肢] 理想と現状の差が生じる理由

表側: Q1 職場の主たる業態

【Q37=ある】(複数回答)

		0	1	2	3	4	5
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る
0	TOTAL	1146 100.0	334 29.1	447 39.0	410 35.8	341 29.8	165 14.4
1	医療機関	850 100.0	256 30.1	375 44.1	343 40.4	274 32.2	133 15.6
2	福祉施設	180 100.0	47 26.1	46 25.6	42 23.3	42 23.3	21 11.7
3	在宅サービス事業所	89 100.0	23 25.8	21 23.6	21 23.6	20 22.5	10 11.2
4	その他	27 100.0	8 29.6	5 18.5	4 14.8	5 18.5	1 3.7

(前表からのつづき)

		0	6	7	8	9
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1146 100.0	222 19.4	104 9.1	66 5.8	329 28.7
1	医療機関	850 100.0	149 17.5	77 9.1	50 5.9	218 25.6
2	福祉施設	180 100.0	36 20.0	19 10.6	11 6.1	72 40.0
3	在宅サービス事業所	89 100.0	33 37.1	7 7.9	3 3.4	26 29.2
4	その他	27 100.0	4 14.8	1 3.7	2 7.4	13 48.1

表頭: Q39 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[C.装具] 理想

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	関わるべき	関わらなくて よい
0	TOTAL	3936 100.0	3896 99.0	40 1.0
1	医療機関	2746 100.0	2715 98.9	31 1.1
2	福祉施設	712 100.0	706 99.2	6 0.8
3	在宅サービス事業所	365 100.0	364 99.7	1 0.3
4	その他	113 100.0	111 98.2	2 1.8

表頭: Q40 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[C.装具] 現状

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
		TOTAL	関わっている	関わっていない
1段目	度数			
2段目	横%			
0	TOTAL	3936 100.0	3288 83.5	648 16.5
1	医療機関	2746 100.0	2311 84.2	435 15.8
2	福祉施設	712 100.0	563 79.1	149 20.9
3	在宅サービス事業所	365 100.0	318 87.1	47 12.9
4	その他	113 100.0	96 85.0	17 15.0

表頭: Q41 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[C.装具] 理想と現状の差

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	わからない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936 100.0	1330 33.8	1949 49.5	657 16.7
1	医療機関	2746 100.0	914 33.3	1377 50.1	455 16.6
2	福祉施設	712 100.0	249 35.0	336 47.2	127 17.8
3	在宅サービス事業所	365 100.0	123 33.7	185 50.7	57 15.6
4	その他	113 100.0	44 38.9	51 45.1	18 15.9

表頭: Q42 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[C.装具] 理想と現状の差が生じる理由

表側: Q1 職場の主たる業態

【Q41=ある】(複数回答)

		0	1	2	3	4	5
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る
0	TOTAL	1330 100.0	587 44.1	634 47.7	585 44.0	565 42.5	254 19.1
1	医療機関	914 100.0	385 42.1	502 54.9	462 50.5	408 44.6	193 21.1
2	福祉施設	249 100.0	129 51.8	87 34.9	80 32.1	100 40.2	38 15.3
3	在宅サービス事業所	123 100.0	53 43.1	27 22.0	26 21.1	38 30.9	21 17.1
4	その他	44 100.0	20 45.5	18 40.9	17 38.6	19 43.2	2 4.5

(前表からのつづき)

		0	6	7	8	9
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他 具体 的に:	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1330 100.0	192 14.4	193 14.5	90 6.8	57 4.3
1	医療機関	914 100.0	126 13.8	124 13.6	40 4.4	37 4.0
2	福祉施設	249 100.0	32 12.9	49 19.7	22 8.8	16 6.4
3	在宅サービス事業所	123 100.0	31 25.2	16 13.0	22 17.9	2 1.6
4	その他	44 100.0	3 6.8	4 9.1	6 13.6	2 4.5

表頭: Q43 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[A.福祉用具] 理想

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	関わるべき	関わらなくて よい
0	TOTAL	3936 100.0	3874 98.4	62 1.6
1	医療機関	2746 100.0	2695 98.1	51 1.9
2	福祉施設	712 100.0	705 99.0	7 1.0
3	在宅サービス事業所	365 100.0	364 99.7	1 0.3
4	その他	113 100.0	110 97.3	3 2.7

表頭: Q44 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[A.福祉用具] 現状
表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
		TOTAL	関わっている	関わっていない
1段目	度数			
2段目	横%			
0	TOTAL	3936 100.0	2864 72.8	1072 27.2
1	医療機関	2746 100.0	1867 68.0	879 32.0
2	福祉施設	712 100.0	582 81.7	130 18.3
3	在宅サービス事業所	365 100.0	321 87.9	44 12.1
4	その他	113 100.0	94 83.2	19 16.8

表頭: Q45 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[A.福祉用具] 理想と現状の差
表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	わからない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936 100.0	1614 41.0	1541 39.2	781 19.8
1	医療機関	2746 100.0	1143 41.6	1009 36.7	594 21.6
2	福祉施設	712 100.0	284 39.9	308 43.3	120 16.9
3	在宅サービス事業所	365 100.0	137 37.5	182 49.9	46 12.6
4	その他	113 100.0	50 44.2	42 37.2	21 18.6

表頭: Q46 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4. 導入や作製直後のフォローアップ[A.福祉用具] 理想と現状の差が生じる理由
表側: Q1 職場の主たる業態 【Q45=ある】(複数回答)

		0	1	2	3	4	5
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応して いる
0	TOTAL	1614 100.0	877 54.3	623 38.6	535 33.1	504 31.2	422 26.1
1	医療機関	1143 100.0	603 52.8	479 41.9	408 35.7	367 32.1	304 26.6
2	福祉施設	284 100.0	172 60.6	99 34.9	88 31.0	92 32.4	65 22.9
3	在宅サービス事業所	137 100.0	73 53.3	27 19.7	24 17.5	30 21.9	45 32.8
4	その他	50 100.0	29 58.0	18 36.0	15 30.0	15 30.0	8 16.0

(前表からのつづき)

		0	6	7	8	9
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1614 100.0	387 24.0	315 19.5	153 9.5	33 2.0
1	医療機関	1143 100.0	266 23.3	214 18.7	102 8.9	27 2.4
2	福祉施設	284 100.0	57 20.1	65 22.9	28 9.9	4 1.4
3	在宅サービス事業所	137 100.0	56 40.9	28 20.4	15 10.9	2 1.5
4	その他	50 100.0	8 16.0	8 16.0	8 16.0	0 0.0

表頭: Q47 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4. 導入や作製直後のフォローアップ[B.義肢] 理想
表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	関わるべき	関わらなくて よい
0	TOTAL	3936 100.0	3791 96.3	145 3.7
1	医療機関	2746 100.0	2651 96.5	95 3.5
2	福祉施設	712 100.0	678 95.2	34 4.8
3	在宅サービス事業所	365 100.0	353 96.7	12 3.3
4	その他	113 100.0	109 96.5	4 3.5

表頭: Q48 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[B.義肢] 現状
表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
		TOTAL	関わっている	関わっていない
1段目	度数			
2段目	横%			
0	TOTAL	3936 100.0	1348 34.2	2588 65.8
1	医療機関	2746 100.0	1093 39.8	1653 60.2
2	福祉施設	712 100.0	144 20.2	568 79.8
3	在宅サービス事業所	365 100.0	87 23.8	278 76.2
4	その他	113 100.0	24 21.2	89 78.8

表頭: Q49 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[B.義肢] 理想と現状の差
表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	わからない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936 100.0	1168 29.7	1086 27.6	1682 42.7
1	医療機関	2746 100.0	874 31.8	790 28.8	1082 39.4
2	福祉施設	712 100.0	178 25.0	187 26.3	347 48.7
3	在宅サービス事業所	365 100.0	87 23.8	82 22.5	196 53.7
4	その他	113 100.0	29 25.7	27 23.9	57 50.4

表頭: Q50 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[B.義肢] 理想と現状の差が生じる理由
 表側: Q1 職場の主たる業態 【Q49=ある】(複数回答)

		0	1	2	3	4	5
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応して いる
0	TOTAL	1168 100.0	354 30.3	448 38.4	424 36.3	285 24.4	220 18.8
1	医療機関	874 100.0	283 32.4	381 43.6	360 41.2	228 26.1	189 21.6
2	福祉施設	178 100.0	49 27.5	43 24.2	40 22.5	40 22.5	17 9.6
3	在宅サービス事業所	87 100.0	16 18.4	20 23.0	21 24.1	14 16.1	13 14.9
4	その他	29 100.0	6 20.7	4 13.8	3 10.3	3 10.3	1 3.4

(前表からのつづき)

		0	6	7	8	9
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1168 100.0	232 19.9	122 10.4	77 6.6	342 29.3
1	医療機関	874 100.0	169 19.3	89 10.2	56 6.4	224 25.6
2	福祉施設	178 100.0	30 16.9	26 14.6	12 6.7	71 39.9
3	在宅サービス事業所	87 100.0	29 33.3	6 6.9	7 8.0	30 34.5
4	その他	29 100.0	4 13.8	1 3.4	2 6.9	17 58.6

表頭: Q51 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[C.装具] 理想
 表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	関わるべき	関わらなくて よい
0	TOTAL	3936 100.0	3872 98.4	64 1.6
1	医療機関	2746 100.0	2695 98.1	51 1.9
2	福祉施設	712 100.0	701 98.5	11 1.5
3	在宅サービス事業所	365 100.0	364 99.7	1 0.3
4	その他	113 100.0	112 99.1	1 0.9

表頭:Q52 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[C.装具] 現状
表側:Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
		TOTAL	関わっている	関わっていない
1段目	度数			
2段目	横%			
0	TOTAL	3936 100.0	3008 76.4	928 23.6
1	医療機関	2746 100.0	2147 78.2	599 21.8
2	福祉施設	712 100.0	495 69.5	217 30.5
3	在宅サービス事業所	365 100.0	284 77.8	81 22.2
4	その他	113 100.0	82 72.6	31 27.4

表頭:Q53 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[C.装具] 理想と現状の差
表側:Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	わからない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936 100.0	1443 36.7	1748 44.4	745 18.9
1	医療機関	2746 100.0	1021 37.2	1230 44.8	495 18.0
2	福祉施設	712 100.0	247 34.7	310 43.5	155 21.8
3	在宅サービス事業所	365 100.0	132 36.2	161 44.1	72 19.7
4	その他	113 100.0	43 38.1	47 41.6	23 20.4

表頭: Q54 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[C.器具] 理想と現状の差が生じる理由

表側: Q1 職場の主たる業態

【Q53=ある】(複数回答)

		0	1	2	3	4	5
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る
0	TOTAL	1443 100.0	627 43.5	700 48.5	645 44.7	473 32.8	302 20.9
1	医療機関	1021 100.0	443 43.4	554 54.3	507 49.7	343 33.6	250 24.5
2	福祉施設	247 100.0	110 44.5	100 40.5	89 36.0	83 33.6	26 10.5
3	在宅サービス事業所	132 100.0	52 39.4	27 20.5	32 24.2	31 23.5	23 17.4
4	その他	43 100.0	22 51.2	19 44.2	17 39.5	16 37.2	3 7.0

(前表からのつづき)

		0	6	7	8	9
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1443 100.0	295 20.4	257 17.8	165 11.4	68 4.7
1	医療機関	1021 100.0	213 20.9	168 16.5	87 8.5	44 4.3
2	福祉施設	247 100.0	39 15.8	62 25.1	37 15.0	17 6.9
3	在宅サービス事業所	132 100.0	38 28.8	20 15.2	34 25.8	5 3.8
4	その他	43 100.0	5 11.6	7 16.3	7 16.3	2 4.7

表頭: Q55 日常業務で福祉用具を活用している場面(複数回答)

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5	6
		TOTAL	入浴	排泄	移動	移乗	外出	食事
1段目 度数	2段目 横%							
0	TOTAL	3936	2543	2574	3619	2849	1970	2403
		100.0	64.6	65.4	91.9	72.4	50.1	61.1
1	医療機関	2746	1619	1704	2482	1949	1264	1565
		100.0	59.0	62.1	90.4	71.0	46.0	57.0
2	福祉施設	712	549	521	680	552	381	558
		100.0	77.1	73.2	95.5	77.5	53.5	78.4
3	在宅サービス事業所	365	293	263	353	264	258	200
		100.0	80.3	72.1	96.7	72.3	70.7	54.8
4	その他	113	82	86	104	84	67	80
		100.0	72.6	76.1	92.0	74.3	59.3	70.8

(前表からのつづき)

		0	7	8	9	10	11
		TOTAL	整容	更衣	姿勢調整	コミュニケーション	なし
1段目 度数	2段目 横%						
0	TOTAL	3936	1044	1148	2638	1164	102
		100.0	26.5	29.2	67.0	29.6	2.6
1	医療機関	2746	824	921	1691	845	96
		100.0	30.0	33.5	61.6	30.8	3.5
2	福祉施設	712	127	120	593	201	2
		100.0	17.8	16.9	83.3	28.2	0.3
3	在宅サービス事業所	365	76	87	261	92	3
		100.0	20.8	23.8	71.5	25.2	0.8
4	その他	113	17	20	93	26	1
		100.0	15.0	17.7	82.3	23.0	0.9

表頭: Q56 修理や再作製等の実施状況[A.義肢]

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
		TOTAL	している	していない
1段目 度数	2段目 横%			
0	TOTAL	3936	922	3014
		100.0	23.4	76.6
1	医療機関	2746	740	2006
		100.0	26.9	73.1
2	福祉施設	712	112	600
		100.0	15.7	84.3
3	在宅サービス事業所	365	50	315
		100.0	13.7	86.3
4	その他	113	20	93
		100.0	17.7	82.3

表頭: Q57 修理や再作製の実施内容[A.義肢] (複数回答)【Q56=している】

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	資料を渡している	算定期間内に対応している	算定期間後に外来で対応している	その他
0	TOTAL	922 100.0	196 21.3	454 49.2	513 55.6	179 19.4
1	医療機関	740 100.0	145 19.6	409 55.3	470 63.5	104 14.1
2	福祉施設	112 100.0	36 32.1	30 26.8	29 25.9	38 33.9
3	在宅サービス事業所	50 100.0	11 22.0	13 26.0	8 16.0	27 54.0
4	その他	20 100.0	4 20.0	2 10.0	6 30.0	10 50.0

表頭: Q58 修理や再作製等の実施状況[B.装具]

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	している	していない
0	TOTAL	3936 100.0	2067 52.5	1869 47.5
1	医療機関	2746 100.0	1477 53.8	1269 46.2
2	福祉施設	712 100.0	353 49.6	359 50.4
3	在宅サービス事業所	365 100.0	168 46.0	197 54.0
4	その他	113 100.0	69 61.1	44 38.9

表頭: Q59 修理や再作製の実施内容[B.装具] (複数回答)【Q58=している】

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	資料を渡している	算定期間内に対応している	算定期間後に外来で対応している	その他
0	TOTAL	2067 100.0	420 20.3	956 46.3	1067 51.6	517 25.0
1	医療機関	1477 100.0	285 19.3	819 55.5	939 63.6	234 15.8
2	福祉施設	353 100.0	82 23.2	86 24.4	75 21.2	157 44.5
3	在宅サービス事業所	168 100.0	39 23.2	42 25.0	41 24.4	81 48.2
4	その他	69 100.0	14 20.3	9 13.0	12 17.4	45 65.2

表頭: Q60 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種の関わり[1.評価](複数回答) : A. 福祉用具

表例: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー
1段目	度数										
2段目	横%										
0	TOTAL	3936	2507	721	15	663	514	1364	1140	36	580
		100.0	63.7	18.3	0.4	16.8	13.1	34.7	29.0	0.9	14.7
1	医療機関	2746	1807	576	9	601	436	1126	812	25	470
		100.0	65.8	21.0	0.3	21.9	15.9	41.0	29.6	0.9	17.1
2	福祉施設	712	415	86	3	38	49	148	198	6	72
		100.0	58.3	12.1	0.4	5.3	6.9	20.8	27.8	0.8	10.1
3	在宅サービス事業所	365	211	44	3	18	21	64	95	5	26
		100.0	57.8	12.1	0.8	4.9	5.8	17.5	26.0	1.4	7.1
4	その他	113	74	15	0	6	8	26	35	0	12
		100.0	65.5	13.3	0.0	5.3	7.1	23.0	31.0	0.0	10.6

(前表からのつづき)

		0	10	11	12	13	14	15	16	17
		TOTAL	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネージャー	その他	不明	関わっていない
1段目	度数									
2段目	横%									
0	TOTAL	3936	186	39	37	1062	1567	221	34	252
		100.0	4.7	1.0	0.9	27.0	39.8	5.6	0.9	6.4
1	医療機関	2746	60	25	25	613	940	87	22	169
		100.0	2.2	0.9	0.9	22.3	34.2	3.2	0.8	6.2
2	福祉施設	712	93	12	7	199	324	104	8	59
		100.0	13.1	1.7	1.0	27.9	45.5	14.6	1.1	8.3
3	在宅サービス事業所	365	19	1	5	214	252	19	4	16
		100.0	5.2	0.3	1.4	58.6	69.0	5.2	1.1	4.4
4	その他	113	14	1	0	36	51	11	0	8
		100.0	12.4	0.9	0.0	31.9	45.1	9.7	0.0	7.1

表頭: Q60 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種の関わり[1.評価](複数回答) : B. 義肢

表例: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー
1段目	度数										
2段目	横%										
0	TOTAL	3936	959	73	2	692	510	1725	235	8	174
		100.0	24.4	1.9	0.1	17.6	13.0	43.8	6.0	0.2	4.4
1	医療機関	2746	757	54	1	619	439	1447	174	6	146
		100.0	27.6	2.0	0.0	22.5	16.0	52.7	6.3	0.2	5.3
2	福祉施設	712	118	14	1	25	31	143	36	1	19
		100.0	16.6	2.0	0.1	3.5	4.4	20.1	5.1	0.1	2.7
3	在宅サービス事業所	365	65	5	0	43	34	109	17	1	7
		100.0	17.8	1.4	0.0	11.8	9.3	29.9	4.7	0.3	1.9
4	その他	113	19	0	0	5	6	26	8	0	2
		100.0	16.8	0.0	0.0	4.4	5.3	23.0	7.1	0.0	1.8

(前表からのつづき)

		0	10	11	12	13	14	15	16	17
		TOTAL	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネージャー	その他	不明	関わっていない
1段目	度数									
2段目	横%									
0	TOTAL	3936	33	9	18	83	238	40	111	1684
		100.0	0.8	0.2	0.5	2.1	6.0	1.0	2.8	42.8
1	医療機関	2746	13	8	9	41	113	28	54	959
		100.0	0.5	0.3	0.3	1.5	4.1	1.0	2.0	34.9
2	福祉施設	712	18	1	5	28	74	8	26	459
		100.0	2.5	0.1	0.7	3.9	10.4	1.1	3.7	64.5
3	在宅サービス事業所	365	1	0	4	12	42	3	29	194
		100.0	0.3	0.0	1.1	3.3	11.5	0.8	7.9	53.2
4	その他	113	1	0	0	2	9	1	2	72
		100.0	0.9	0.0	0.0	1.8	8.0	0.9	1.8	63.7

表頭: Q60 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種の関わり[1.評価](複数回答) : C. 装具

表例: Q1 職場の主たる業態

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー
0	TOTAL	3936 100.0	1845 46.9	129 3.3	7 0.2	1030 26.2	877 22.3	2541 64.6	539 13.7	16 0.4	266 6.8
1	医療機関	2746 100.0	1317 48.0	92 3.4	4 0.1	896 32.6	729 26.5	2014 73.3	390 14.2	13 0.5	203 7.4
2	福祉施設	712 100.0	319 44.8	25 3.5	2 0.3	56 7.9	76 10.7	277 38.9	92 12.9	1 0.1	43 6.0
3	在宅サービス事業所	365 100.0	146 40.0	9 2.5	1 0.3	68 18.6	58 15.9	191 52.3	38 10.4	2 0.5	14 3.8
4	その他	113 100.0	63 55.8	3 2.7	0 0.0	10 8.8	14 12.4	59 52.2	19 16.8	0 0.0	6 5.3

(前表からのつづき)

1段目 度数 2段目 横%		0	10	11	12	13	14	15	16	17
		TOTAL	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネージャー	その他	不明	関わっていない
0	TOTAL	3936 100.0	99 2.5	30 0.8	18 0.5	170 4.3	530 13.5	84 2.1	47 1.2	441 11.2
1	医療機関	2746 100.0	28 1.0	21 0.8	8 0.3	84 3.1	246 9.0	35 1.3	19 0.7	201 7.3
2	福祉施設	712 100.0	58 8.1	7 1.0	5 0.7	47 6.6	167 23.5	37 5.2	16 2.2	164 23.0
3	在宅サービス事業所	365 100.0	8 2.2	0 0.0	5 1.4	33 9.0	91 24.9	6 1.6	12 3.3	61 16.7
4	その他	113 100.0	5 4.4	2 1.8	0 0.0	6 5.3	26 23.0	6 5.3	0 0.0	15 13.3

表頭: Q61 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種の関わり[2.作製・フィッティング](複数回答) : A. 福祉用具

表例: Q1 職場の主たる業態

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー
0	TOTAL	3936 100.0	2344 59.6	510 13.0	6 0.2	573 14.6	392 10.0	951 24.2	898 22.8	29 0.7	458 11.6
1	医療機関	2746 100.0	1715 62.5	400 14.6	3 0.1	509 18.5	339 12.3	796 29.0	636 23.2	22 0.8	379 13.8
2	福祉施設	712 100.0	372 52.2	63 8.8	2 0.3	33 4.6	34 4.8	98 13.8	159 22.3	4 0.6	57 8.0
3	在宅サービス事業所	365 100.0	189 51.8	35 9.6	1 0.3	25 6.8	13 3.6	37 10.1	80 21.9	3 0.8	16 4.4
4	その他	113 100.0	68 60.2	12 10.6	0 0.0	6 5.3	6 5.3	20 17.7	23 20.4	0 0.0	6 5.3

(前表からのつづき)

1段目 度数 2段目 横%		0	10	11	12	13	14	15	16	17
		TOTAL	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネージャー	その他	不明	関わっていない
0	TOTAL	3936 100.0	134 3.4	33 0.8	35 0.9	1053 26.8	1306 33.2	186 4.7	39 1.0	408 10.4
1	医療機関	2746 100.0	47 1.7	23 0.8	26 0.9	617 22.5	778 28.3	82 3.0	27 1.0	259 9.4
2	福祉施設	712 100.0	68 9.6	9 1.3	7 1.0	200 28.1	261 36.7	80 11.2	10 1.4	102 14.3
3	在宅サービス事業所	365 100.0	10 2.7	1 0.3	2 0.5	197 54.0	224 61.4	15 4.1	2 0.5	34 9.3
4	その他	113 100.0	9 8.0	0 0.0	0 0.0	39 34.5	43 38.1	9 8.0	0 0.0	13 11.5

表頭: Q61 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種の関わり[2. 作製・フィッティング](複数回答) : B. 義肢

表例: Q1 職場の主たる業態

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー
0	TOTAL	3936 100.0	895 22.7	50 1.3	5 0.1	660 16.8	450 11.4	1773 45.0	214 5.4	9 0.2	129 3.3
1	医療機関	2746 100.0	703 25.6	39 1.4	3 0.1	584 21.3	391 14.2	1475 53.7	163 5.9	7 0.3	108 3.9
2	福祉施設	712 100.0	111 15.6	7 1.0	1 0.1	26 3.7	30 4.2	153 21.5	33 4.6	1 0.1	12 1.7
3	在宅サービス事業所	365 100.0	61 16.7	3 0.8	1 0.3	43 11.8	24 6.6	117 32.1	10 2.7	1 0.3	7 1.9
4	その他	113 100.0	20 17.7	1 0.9	0 0.0	7 6.2	5 4.4	28 24.8	8 7.1	0 0.0	2 1.8

(前表からのつづき)

1段目 度数 2段目 横%		0	10	11	12	13	14	15	16	17
		TOTAL	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネージャー	その他	不明	関わっていない
0	TOTAL	3936 100.0	26 0.7	9 0.2	15 0.4	68 1.7	179 4.5	28 0.7	103 2.6	1673 42.5
1	医療機関	2746 100.0	9 0.3	8 0.3	9 0.3	35 1.3	84 3.1	18 0.7	49 1.8	957 34.9
2	福祉施設	712 100.0	15 2.1	1 0.1	3 0.4	21 2.9	57 8.0	8 1.1	23 3.2	453 63.6
3	在宅サービス事業所	365 100.0	1 0.3	0 0.0	3 0.8	9 2.5	29 7.9	1 0.3	29 7.9	191 52.3
4	その他	113 100.0	1 0.9	0 0.0	0 0.0	3 2.7	9 8.0	1 0.9	2 1.8	72 63.7

表頭: Q61 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種の関わり[2. 作製・フィッティング](複数回答) : C. 装具

表例: Q1 職場の主たる業態

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー
0	TOTAL	3936 100.0	1696 43.1	112 2.8	6 0.2	923 23.5	713 18.1	2541 64.6	449 11.4	15 0.4	208 5.3
1	医療機関	2746 100.0	1237 45.0	82 3.0	4 0.1	802 29.2	600 21.8	2015 73.4	326 11.9	11 0.4	160 5.8
2	福祉施設	712 100.0	274 38.5	20 2.8	2 0.3	53 7.4	54 7.6	275 38.6	79 11.1	1 0.1	30 4.2
3	在宅サービス事業所	365 100.0	130 35.6	6 1.6	0 0.0	60 16.4	50 13.7	195 53.4	29 7.9	3 0.8	13 3.6
4	その他	113 100.0	55 48.7	4 3.5	0 0.0	8 7.1	9 8.0	56 49.6	15 13.3	0 0.0	5 4.4

(前表からのつづき)

1段目 度数 2段目 横%		0	10	11	12	13	14	15	16	17
		TOTAL	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネージャー	その他	不明	関わっていない
0	TOTAL	3936 100.0	81 2.1	26 0.7	20 0.5	131 3.3	393 10.0	66 1.7	44 1.1	536 13.6
1	医療機関	2746 100.0	26 0.9	17 0.6	13 0.5	62 2.3	174 6.3	33 1.2	15 0.5	242 8.8
2	福祉施設	712 100.0	43 6.0	7 1.0	5 0.7	37 5.2	129 18.1	26 3.7	14 2.0	197 27.7
3	在宅サービス事業所	365 100.0	5 1.4	0 0.0	2 0.5	26 7.1	69 18.9	4 1.1	14 3.8	75 20.5
4	その他	113 100.0	7 6.2	2 1.8	0 0.0	6 5.3	21 18.6	3 2.7	1 0.9	22 19.5

表頭: Q62 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種の関わり[3.ADL練習](複数回答) : A. 福祉用具

表例: Q1 職場の主たる業態

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー
0	TOTAL	3936 100.0	2549 64.8	643 16.3	12 0.3	422 10.7	273 6.9	497 12.6	1354 34.4	35 0.9	325 8.3
1	医療機関	2746 100.0	1839 67.0	512 18.6	10 0.4	386 14.1	226 8.2	426 15.5	1009 36.7	25 0.9	259 9.4
2	福祉施設	712 100.0	419 58.8	77 10.8	2 0.3	17 2.4	30 4.2	49 6.9	206 28.9	6 0.8	51 7.2
3	在宅サービス事業所	365 100.0	217 59.5	42 11.5	0 0.0	16 4.4	14 3.8	15 4.1	105 28.8	4 1.1	11 3.0
4	その他	113 100.0	74 65.5	12 10.6	0 0.0	3 2.7	3 2.7	7 6.2	34 30.1	0 0.0	4 3.5

(前表からのつづき)

1段目 度数 2段目 横%		0	10	11	12	13	14	15	16	17
		TOTAL	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネージャー	その他	不明	関わっていない
0	TOTAL	3936 100.0	153 3.9	39 1.0	26 0.7	581 14.8	916 23.3	294 7.5	51 1.3	411 10.4
1	医療機関	2746 100.0	54 2.0	23 0.8	15 0.5	321 11.7	525 19.1	97 3.5	33 1.2	287 10.5
2	福祉施設	712 100.0	74 10.4	11 1.5	8 1.1	113 15.9	206 28.9	145 20.4	10 1.4	75 10.5
3	在宅サービス事業所	365 100.0	15 4.1	2 0.5	3 0.8	124 34.0	152 41.6	37 10.1	7 1.9	38 10.4
4	その他	113 100.0	10 8.8	3 2.7	0 0.0	23 20.4	33 29.2	15 13.3	1 0.9	11 9.7

表頭: Q62 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種の関わり[3.ADL練習](複数回答) : B. 義肢

表例: Q1 職場の主たる業態

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー
0	TOTAL	3936 100.0	1201 30.5	93 2.4	7 0.2	416 10.6	269 6.8	1003 25.5	514 13.1	11 0.3	116 2.9
1	医療機関	2746 100.0	943 34.3	79 2.9	5 0.2	383 13.9	232 8.4	848 30.9	420 15.3	7 0.3	96 3.5
2	福祉施設	712 100.0	141 19.8	9 1.3	1 0.1	13 1.8	22 3.1	80 11.2	53 7.4	1 0.1	15 2.1
3	在宅サービス事業所	365 100.0	90 24.7	5 1.4	1 0.3	16 4.4	12 3.3	60 16.4	32 8.8	3 0.8	4 1.1
4	その他	113 100.0	27 23.9	0 0.0	0 0.0	4 3.5	3 2.7	15 13.3	9 8.0	0 0.0	1 0.9

(前表からのつづき)

1段目 度数 2段目 横%		0	10	11	12	13	14	15	16	17
		TOTAL	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネージャー	その他	不明	関わっていない
0	TOTAL	3936 100.0	38 1.0	12 0.3	12 0.3	65 1.7	182 4.6	58 1.5	136 3.5	1847 46.9
1	医療機関	2746 100.0	14 0.5	10 0.4	7 0.3	33 1.2	84 3.1	30 1.1	77 2.8	1105 40.2
2	福祉施設	712 100.0	19 2.7	1 0.1	3 0.4	17 2.4	59 8.3	20 2.8	25 3.5	469 65.9
3	在宅サービス事業所	365 100.0	4 1.1	1 0.3	2 0.5	13 3.6	32 8.8	6 1.6	31 8.5	202 55.3
4	その他	113 100.0	1 0.9	0 0.0	0 0.0	2 1.8	7 6.2	2 1.8	3 2.7	71 62.8

表頭: Q62 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種の関わり[3.ADL練習](複数回答) : C. 装具

表例: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー
1段目 度数	2段目 横%										
0	TOTAL	3936	2195	203	6	564	391	1298	954	14	174
		100.0	55.8	5.2	0.2	14.3	9.9	33.0	24.2	0.4	4.4
1	医療機関	2746	1586	156	4	515	329	1048	743	9	129
		100.0	57.8	5.7	0.1	18.8	12.0	38.2	27.1	0.3	4.7
2	福祉施設	712	356	30	2	23	36	124	127	2	33
		100.0	50.0	4.2	0.3	3.2	5.1	17.4	17.8	0.3	4.6
3	在宅サービス事業所	365	182	11	0	23	22	93	60	3	9
		100.0	49.9	3.0	0.0	6.3	6.0	25.5	16.4	0.8	2.5
4	その他	113	71	6	0	3	4	33	24	0	3
		100.0	62.8	5.3	0.0	2.7	3.5	29.2	21.2	0.0	2.7

(前表からのつづき)

		0	10	11	12	13	14	15	16	17
		TOTAL	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネージャー	その他	不明	関わっていない
1段目 度数	2段目 横%									
0	TOTAL	3936	101	34	16	111	363	166	62	669
		100.0	2.6	0.9	0.4	2.8	9.2	4.2	1.6	17.0
1	医療機関	2746	34	22	10	48	169	64	25	377
		100.0	1.2	0.8	0.4	1.7	6.2	2.3	0.9	13.7
2	福祉施設	712	50	8	3	37	113	69	18	190
		100.0	7.0	1.1	0.4	5.2	15.9	9.7	2.5	26.7
3	在宅サービス事業所	365	9	1	3	22	59	20	18	89
		100.0	2.5	0.3	0.8	6.0	16.2	5.5	4.9	24.4
4	その他	113	8	3	0	4	22	13	1	13
		100.0	7.1	2.7	0.0	3.5	19.5	11.5	0.9	11.5

表頭: Q63 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種の関わり[4.導入や作製直後のフォローアップ](複数回答) : A. 福祉用具

表例: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー
1段目 度数	2段目 横%										
0	TOTAL	3936	2378	496	4	513	341	804	1022	32	451
		100.0	60.4	12.6	0.1	13.0	8.7	20.4	26.0	0.8	11.5
1	医療機関	2746	1706	392	3	468	297	683	735	24	374
		100.0	62.1	14.3	0.1	17.0	10.8	24.9	26.8	0.9	13.6
2	福祉施設	712	400	56	1	26	28	82	170	5	51
		100.0	56.2	7.9	0.1	3.7	3.9	11.5	23.9	0.7	7.2
3	在宅サービス事業所	365	199	37	0	15	11	24	93	3	18
		100.0	54.5	10.1	0.0	4.1	3.0	6.6	25.5	0.8	4.9
4	その他	113	73	11	0	4	5	15	24	0	8
		100.0	64.6	9.7	0.0	3.5	4.4	13.3	21.2	0.0	7.1

(前表からのつづき)

		0	10	11	12	13	14	15	16	17
		TOTAL	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネージャー	その他	不明	関わっていない
1段目 度数	2段目 横%									
0	TOTAL	3936	152	31	30	993	1370	208	54	386
		100.0	3.9	0.8	0.8	25.2	34.8	5.3	1.4	9.8
1	医療機関	2746	53	18	22	590	848	82	40	264
		100.0	1.9	0.7	0.8	21.5	30.9	3.0	1.5	9.6
2	福祉施設	712	74	9	5	164	256	97	10	87
		100.0	10.4	1.3	0.7	23.0	36.0	13.6	1.4	12.2
3	在宅サービス事業所	365	17	2	3	201	222	21	3	23
		100.0	4.7	0.5	0.8	55.1	60.8	5.8	0.8	6.3
4	その他	113	8	2	0	38	44	8	1	12
		100.0	7.1	1.8	0.0	33.6	38.9	7.1	0.9	10.6

表頭: Q63 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種の関わり[4.導入や作製直後のフォローアップ](複数回答) : B. 義肢
 表側: Q1 職場の主たる業態

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー
0	TOTAL	3936	1001	70	3	577	385	1584	290	12	154
		100.0	25.4	1.8	0.1	14.7	9.8	40.2	7.4	0.3	3.9
1	医療機関	2746	776	59	2	523	342	1324	229	9	128
		100.0	28.3	2.1	0.1	19.0	12.5	48.2	8.3	0.3	4.7
2	福祉施設	712	129	8	1	19	20	129	36	1	14
		100.0	18.1	1.1	0.1	2.7	2.8	18.1	5.1	0.1	2.0
3	在宅サービス事業所	365	72	3	0	28	18	104	16	2	8
		100.0	19.7	0.8	0.0	7.7	4.9	28.5	4.4	0.5	2.2
4	その他	113	24	0	0	7	5	27	9	0	4
		100.0	21.2	0.0	0.0	6.2	4.4	23.9	8.0	0.0	3.5

(前表からのつづき)

1段目 度数 2段目 横%		0	10	11	12	13	14	15	16	17
		TOTAL	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネージャー	その他	不明	関わっていない
0	TOTAL	3936	35	8	10	76	247	40	135	1746
		100.0	0.9	0.2	0.3	1.9	6.3	1.0	3.4	44.4
1	医療機関	2746	13	7	5	43	144	27	70	1032
		100.0	0.5	0.3	0.2	1.6	5.2	1.0	2.5	37.6
2	福祉施設	712	19	1	3	20	65	10	29	458
		100.0	2.7	0.1	0.4	2.8	9.1	1.4	4.1	64.3
3	在宅サービス事業所	365	2	0	2	11	33	2	33	187
		100.0	0.5	0.0	0.5	3.0	9.0	0.5	9.0	51.2
4	その他	113	1	0	0	2	5	1	3	69
		100.0	0.9	0.0	0.0	1.8	4.4	0.9	2.7	61.1

表頭: Q63 それぞれの支援時期での理学療法士以外の職種の関わり[4.導入や作製直後のフォローアップ](複数回答) : C. 装具
 表側: Q1 職場の主たる業態

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	リハ科医師	リハ科以外の医師	義肢装具士	看護師	保健師	ソーシャルワーカー
0	TOTAL	3936	1892	140	8	797	573	2212	605	19	247
		100.0	48.1	3.6	0.2	20.2	14.6	56.2	15.4	0.5	6.3
1	医療機関	2746	1351	108	7	717	498	1787	447	14	194
		100.0	49.2	3.9	0.3	26.1	18.1	65.1	16.3	0.5	7.1
2	福祉施設	712	319	22	1	34	39	223	93	3	33
		100.0	44.8	3.1	0.1	4.8	5.5	31.3	13.1	0.4	4.6
3	在宅サービス事業所	365	156	7	0	37	29	153	47	2	11
		100.0	42.7	1.9	0.0	10.1	7.9	41.9	12.9	0.5	3.0
4	その他	113	66	3	0	9	7	49	18	0	9
		100.0	58.4	2.7	0.0	8.0	6.2	43.4	15.9	0.0	8.0

(前表からのつづき)

1段目 度数 2段目 横%		0	10	11	12	13	14	15	16	17
		TOTAL	指導員(生活指導員)	教員	リハビリテーションエンジニア	福祉用具専門相談員	ケアマネージャー	その他	不明	関わっていない
0	TOTAL	3936	93	26	12	136	518	96	61	578
		100.0	2.4	0.7	0.3	3.5	13.2	2.4	1.5	14.7
1	医療機関	2746	31	17	9	69	267	44	28	294
		100.0	1.1	0.6	0.3	2.5	9.7	1.6	1.0	10.7
2	福祉施設	712	47	6	1	33	142	35	16	192
		100.0	6.6	0.8	0.1	4.6	19.9	4.9	2.2	27.0
3	在宅サービス事業所	365	8	1	2	28	82	11	16	76
		100.0	2.2	0.3	0.5	7.7	22.5	3.0	4.4	20.8
4	その他	113	7	2	0	6	27	6	1	16
		100.0	6.2	1.8	0.0	5.3	23.9	5.3	0.9	14.2

表頭: Q64 理学療法士がより深く関わることで期待できる効果の有無[A.福祉用具]

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	今まで関わっていない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936 100.0	3598 91.4	190 4.8	148 3.8
1	医療機関	2746 100.0	2471 90.0	146 5.3	129 4.7
2	福祉施設	712 100.0	669 94.0	30 4.2	13 1.8
3	在宅サービス事業所	365 100.0	353 96.7	9 2.5	3 0.8
4	その他	113 100.0	105 92.9	5 4.4	3 2.7

表頭: Q65 期待できる効果[A.福祉用具](複数回答)【Q64=ある】

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	2	3	5	1	4	6
		TOTAL	ADL自立度の向上	介助者の負担の軽減	生活の質の向上	心身機能の向上	地域や社会活動への参加	その他
1段目	度数							
2段目	横%							
0	TOTAL	3598 100.0	3387 94.1	3328 92.5	2972 82.6	2416 67.1	2149 59.7	104 2.9
1	医療機関	2471 100.0	2329 94.3	2258 91.4	2019 81.7	1676 67.8	1463 59.2	55 2.2
2	福祉施設	669 100.0	621 92.8	628 93.9	549 82.1	424 63.4	372 55.6	30 4.5
3	在宅サービス事業所	353 100.0	338 95.8	342 96.9	313 88.7	242 68.6	245 69.4	11 3.1
4	その他	105 100.0	99 94.3	100 95.2	91 86.7	74 70.5	69 65.7	8 7.6

表頭: Q66 理学療法士がより深く関わることで期待できる効果の有無[B.義肢]

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	今まで関わっていない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936 100.0	2248 57.1	222 5.6	1466 37.2
1	医療機関	2746 100.0	1695 61.7	166 6.0	885 32.2
2	福祉施設	712 100.0	312 43.8	37 5.2	363 51.0
3	在宅サービス事業所	365 100.0	191 52.3	15 4.1	159 43.6
4	その他	113 100.0	50 44.2	4 3.5	59 52.2

表頭: Q67 期待できる効果[B.義肢](複数回答)【Q66=ある】

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	2	5	1	3	4	6
		TOTAL	ADL自立度の向上	生活の質の向上	心身機能の向上	介助者の負担の軽減	地域や社会活動への参加	その他
1段目	度数							
2段目	横%							
0	TOTAL	2248 100.0	2079 92.5	1876 83.5	1785 79.4	1664 74.0	1562 69.5	42 1.9
1	医療機関	1695 100.0	1566 92.4	1406 82.9	1343 79.2	1249 73.7	1158 68.3	32 1.9
2	福祉施設	312 100.0	289 92.6	257 82.4	243 77.9	230 73.7	217 69.6	6 1.9
3	在宅サービス事業所	191 100.0	176 92.1	169 88.5	159 83.2	149 78.0	151 79.1	3 1.6
4	その他	50 100.0	48 96.0	44 88.0	40 80.0	36 72.0	36 72.0	1 2.0

表頭: Q68 理学療法士がより深く関わることで期待できる効果の有無[C.装具]

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	ある	ない	今まで関わっていない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936 100.0	3483 88.5	231 5.9	222 5.6
1	医療機関	2746 100.0	2434 88.6	169 6.2	143 5.2
2	福祉施設	712 100.0	621 87.2	41 5.8	50 7.0
3	在宅サービス事業所	365 100.0	327 89.6	15 4.1	23 6.3
4	その他	113 100.0	101 89.4	6 5.3	6 5.3

表頭: Q69 期待できる効果[C.装具](複数回答)【Q68=ある】

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	2	5	1	3	4	6
		TOTAL	ADL自立度の向上	生活の質の向上	心身機能の向上	介助者の負担の軽減	地域や社会活動への参加	その他
1段目	度数							
2段目	横%							
0	TOTAL	3483 100.0	3285 94.3	2878 82.6	2807 80.6	2793 80.2	2309 66.3	91 2.6
1	医療機関	2434 100.0	2288 94.0	2008 82.5	1961 80.6	1942 79.8	1625 66.8	57 2.3
2	福祉施設	621 100.0	585 94.2	504 81.2	490 78.9	501 80.7	372 59.9	18 2.9
3	在宅サービス事業所	327 100.0	313 95.7	285 87.2	275 84.1	262 80.1	244 74.6	7 2.1
4	その他	101 100.0	99 98.0	81 80.2	81 80.2	88 87.1	68 67.3	9 8.9

表頭: Q70 卒前教育や研修機会[A.福祉用具]: 知識について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	31	165	1006	1463	1271
		100.0	0.8	4.2	25.6	37.2	32.3
1	医療機関	2746	21	100	667	1043	915
		100.0	0.8	3.6	24.3	38.0	33.3
2	福祉施設	712	6	41	214	246	205
		100.0	0.8	5.8	30.1	34.6	28.8
3	在宅サービス事業所	365	3	18	99	126	119
		100.0	0.8	4.9	27.1	34.5	32.6
4	その他	113	1	6	26	48	32
		100.0	0.9	5.3	23.0	42.5	28.3

表頭: Q70 卒前教育や研修機会[A.福祉用具]: 技術について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	29	120	950	1446	1391
		100.0	0.7	3.0	24.1	36.7	35.3
1	医療機関	2746	20	72	627	1025	1002
		100.0	0.7	2.6	22.8	37.3	36.5
2	福祉施設	712	3	29	214	248	218
		100.0	0.4	4.1	30.1	34.8	30.6
3	在宅サービス事業所	365	5	14	85	126	135
		100.0	1.4	3.8	23.3	34.5	37.0
4	その他	113	1	5	24	47	36
		100.0	0.9	4.4	21.2	41.6	31.9

表頭: Q71 卒前教育や研修機会[B.義肢]: 知識について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	12	81	864	1340	1639
		100.0	0.3	2.1	22.0	34.0	41.6
1	医療機関	2746	7	58	568	936	1177
		100.0	0.3	2.1	20.7	34.1	42.9
2	福祉施設	712	3	12	177	246	274
		100.0	0.4	1.7	24.9	34.6	38.5
3	在宅サービス事業所	365	1	8	94	116	146
		100.0	0.3	2.2	25.8	31.8	40.0
4	その他	113	1	3	25	42	42
		100.0	0.9	2.7	22.1	37.2	37.2

表頭: Q71 卒前教育や研修機会[B.義肢]: 技術について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目 度数	2段目 横%						
0	TOTAL	3936	10	64	685	1258	1919
		100.0	0.3	1.6	17.4	32.0	48.8
1	医療機関	2746	6	47	445	884	1364
		100.0	0.2	1.7	16.2	32.2	49.7
2	福祉施設	712	2	10	148	222	330
		100.0	0.3	1.4	20.8	31.2	46.3
3	在宅サービス事業所	365	1	5	69	113	177
		100.0	0.3	1.4	18.9	31.0	48.5
4	その他	113	1	2	23	39	48
		100.0	0.9	1.8	20.4	34.5	42.5

表頭: Q72 卒前教育や研修機会[C.装具]: 知識について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目 度数	2段目 横%						
0	TOTAL	3936	21	148	1167	1468	1132
		100.0	0.5	3.8	29.6	37.3	28.8
1	医療機関	2746	13	96	760	1046	831
		100.0	0.5	3.5	27.7	38.1	30.3
2	福祉施設	712	4	32	248	242	186
		100.0	0.6	4.5	34.8	34.0	26.1
3	在宅サービス事業所	365	3	14	126	131	91
		100.0	0.8	3.8	34.5	35.9	24.9
4	その他	113	1	6	33	49	24
		100.0	0.9	5.3	29.2	43.4	21.2

表頭: Q72 卒前教育や研修機会[C.装具]: 技術について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目 度数	2段目 横%						
0	TOTAL	3936	16	115	982	1463	1360
		100.0	0.4	2.9	24.9	37.2	34.6
1	医療機関	2746	11	75	637	1022	1001
		100.0	0.4	2.7	23.2	37.2	36.5
2	福祉施設	712	1	26	215	252	218
		100.0	0.1	3.7	30.2	35.4	30.6
3	在宅サービス事業所	365	3	10	98	142	112
		100.0	0.8	2.7	26.8	38.9	30.7
4	その他	113	1	4	32	47	29
		100.0	0.9	3.5	28.3	41.6	25.7

表頭: Q73 卒後(協会、都道府県士会等)での教育や研修機会[A.福祉用具]: 知識について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	29	136	1353	1421	997
		100.0	0.7	3.5	34.4	36.1	25.3
1	医療機関	2746	17	84	908	1027	710
		100.0	0.6	3.1	33.1	37.4	25.9
2	福祉施設	712	7	28	272	223	182
		100.0	1.0	3.9	38.2	31.3	25.6
3	在宅サービス事業所	365	3	19	131	126	86
		100.0	0.8	5.2	35.9	34.5	23.6
4	その他	113	2	5	42	45	19
		100.0	1.8	4.4	37.2	39.8	16.8

表頭: Q73 卒後(協会、都道府県士会等)での教育や研修機会[A.福祉用具]: 技術について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	23	115	1273	1478	1047
		100.0	0.6	2.9	32.3	37.6	26.6
1	医療機関	2746	15	71	840	1062	758
		100.0	0.5	2.6	30.6	38.7	27.6
2	福祉施設	712	4	23	264	235	186
		100.0	0.6	3.2	37.1	33.0	26.1
3	在宅サービス事業所	365	3	17	125	136	84
		100.0	0.8	4.7	34.2	37.3	23.0
4	その他	113	1	4	44	45	19
		100.0	0.9	3.5	38.9	39.8	16.8

表頭: Q74 卒後(協会、都道府県士会等)での教育や研修機会[B.義肢]: 知識について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	15	67	997	1406	1451
		100.0	0.4	1.7	25.3	35.7	36.9
1	医療機関	2746	10	48	660	1009	1019
		100.0	0.4	1.7	24.0	36.7	37.1
2	福祉施設	712	4	10	200	239	259
		100.0	0.6	1.4	28.1	33.6	36.4
3	在宅サービス事業所	365	0	8	103	120	134
		100.0	0.0	2.2	28.2	32.9	36.7
4	その他	113	1	1	34	38	39
		100.0	0.9	0.9	30.1	33.6	34.5

表頭: Q74 卒後(協会、都道府県士会等)での教育や研修機会[B.義肢]: 技術について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	13	56	901	1396	1570
		100.0	0.3	1.4	22.9	35.5	39.9
1	医療機関	2746	9	38	595	992	1112
		100.0	0.3	1.4	21.7	36.1	40.5
2	福祉施設	712	3	9	187	237	276
		100.0	0.4	1.3	26.3	33.3	38.8
3	在宅サービス事業所	365	0	8	89	125	143
		100.0	0.0	2.2	24.4	34.2	39.2
4	その他	113	1	1	30	42	39
		100.0	0.9	0.9	26.5	37.2	34.5

表頭: Q75 卒後(協会、都道府県士会等)での教育や研修機会[C.装具]: 知識について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	23	135	1384	1421	973
		100.0	0.6	3.4	35.2	36.1	24.7
1	医療機関	2746	17	85	932	1019	693
		100.0	0.6	3.1	33.9	37.1	25.2
2	福祉施設	712	3	24	279	225	181
		100.0	0.4	3.4	39.2	31.6	25.4
3	在宅サービス事業所	365	1	18	129	136	81
		100.0	0.3	4.9	35.3	37.3	22.2
4	その他	113	2	8	44	41	18
		100.0	1.8	7.1	38.9	36.3	15.9

表頭: Q75 卒後(協会、都道府県士会等)での教育や研修機会[C.装具]: 技術について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	21	119	1275	1467	1054
		100.0	0.5	3.0	32.4	37.3	26.8
1	医療機関	2746	15	79	848	1048	756
		100.0	0.5	2.9	30.9	38.2	27.5
2	福祉施設	712	3	22	258	237	192
		100.0	0.4	3.1	36.2	33.3	27.0
3	在宅サービス事業所	365	1	15	122	142	85
		100.0	0.3	4.1	33.4	38.9	23.3
4	その他	113	2	3	47	40	21
		100.0	1.8	2.7	41.6	35.4	18.6

表頭: Q76 職場内での教育や研修機会[A.福祉用具]: 知識について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	38	215	1302	1355	1026
		100.0	1.0	5.5	33.1	34.4	26.1
1	医療機関	2746	24	137	877	1000	708
		100.0	0.9	5.0	31.9	36.4	25.8
2	福祉施設	712	7	35	254	207	209
		100.0	1.0	4.9	35.7	29.1	29.4
3	在宅サービス事業所	365	6	32	130	111	86
		100.0	1.6	8.8	35.6	30.4	23.6
4	その他	113	1	11	41	37	23
		100.0	0.9	9.7	36.3	32.7	20.4

表頭: Q76 職場内での教育や研修機会[A.福祉用具]: 技術について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	36	197	1271	1390	1042
		100.0	0.9	5.0	32.3	35.3	26.5
1	医療機関	2746	24	121	861	1013	727
		100.0	0.9	4.4	31.4	36.9	26.5
2	福祉施設	712	7	38	235	224	208
		100.0	1.0	5.3	33.0	31.5	29.2
3	在宅サービス事業所	365	4	29	133	114	85
		100.0	1.1	7.9	36.4	31.2	23.3
4	その他	113	1	9	42	39	22
		100.0	0.9	8.0	37.2	34.5	19.5

表頭: Q77 職場内での教育や研修機会について[B.義肢]: 知識について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	17	73	799	1167	1880
		100.0	0.4	1.9	20.3	29.6	47.8
1	医療機関	2746	11	52	563	859	1261
		100.0	0.4	1.9	20.5	31.3	45.9
2	福祉施設	712	2	9	140	185	376
		100.0	0.3	1.3	19.7	26.0	52.8
3	在宅サービス事業所	365	3	10	73	92	187
		100.0	0.8	2.7	20.0	25.2	51.2
4	その他	113	1	2	23	31	56
		100.0	0.9	1.8	20.4	27.4	49.6

表頭: Q77 職場内での教育や研修機会について[B.義肢]: 技術について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	16	69	727	1180	1944
		100.0	0.4	1.8	18.5	30.0	49.4
1	医療機関	2746	11	50	508	856	1321
		100.0	0.4	1.8	18.5	31.2	48.1
2	福祉施設	712	2	7	130	190	383
		100.0	0.3	1.0	18.3	26.7	53.8
3	在宅サービス事業所	365	2	10	66	101	186
		100.0	0.5	2.7	18.1	27.7	51.0
4	その他	113	1	2	23	33	54
		100.0	0.9	1.8	20.4	29.2	47.8

表頭: Q78 職場内での教育や研修機会[C.装具]: 知識について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	37	213	1178	1388	1120
		100.0	0.9	5.4	29.9	35.3	28.5
1	医療機関	2746	27	158	819	1001	741
		100.0	1.0	5.8	29.8	36.5	27.0
2	福祉施設	712	6	25	209	225	247
		100.0	0.8	3.5	29.4	31.6	34.7
3	在宅サービス事業所	365	2	23	111	123	106
		100.0	0.5	6.3	30.4	33.7	29.0
4	その他	113	2	7	39	39	26
		100.0	1.8	6.2	34.5	34.5	23.0

表頭: Q78 職場内での教育や研修機会[C.装具]: 技術について

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	十分	やや十分	ふつう	やや不十分	不十分
1段目	度数						
2段目	横%						
0	TOTAL	3936	37	184	1134	1413	1168
		100.0	0.9	4.7	28.8	35.9	29.7
1	医療機関	2746	29	134	793	1018	772
		100.0	1.1	4.9	28.9	37.1	28.1
2	福祉施設	712	5	24	199	225	259
		100.0	0.7	3.4	27.9	31.6	36.4
3	在宅サービス事業所	365	2	18	107	126	112
		100.0	0.5	4.9	29.3	34.5	30.7
4	その他	113	1	8	35	44	25
		100.0	0.9	7.1	31.0	38.9	22.1

表頭: Q79 最新情報の入手状況[A.福祉用具]

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	出来ている	出来ていない	わからない
1段目 度数	2段目 横%				
0	TOTAL	3936 100.0	1561 39.7	1613 41.0	762 19.4
1	医療機関	2746 100.0	997 36.3	1167 42.5	582 21.2
2	福祉施設	712 100.0	335 47.1	263 36.9	114 16.0
3	在宅サービス事業所	365 100.0	178 48.8	136 37.3	51 14.0
4	その他	113 100.0	51 45.1	47 41.6	15 13.3

表頭: Q80 情報の入手先[A.福祉用具](複数回答)【Q79=出来ている】

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4
		TOTAL	メーカーや業者	ソーシャルワーカーやケアマネジャー	雑誌や広告	学会や講習会
1段目 度数	2段目 横%					
0	TOTAL	1561 100.0	1512 96.9	430 27.5	505 32.4	616 39.5
1	医療機関	997 100.0	970 97.3	287 28.8	317 31.8	418 41.9
2	福祉施設	335 100.0	326 97.3	70 20.9	116 34.6	115 34.3
3	在宅サービス事業所	178 100.0	169 94.9	61 34.3	54 30.3	62 34.8
4	その他	51 100.0	47 92.2	12 23.5	18 35.3	21 41.2

(前表からのつづき)

		0	5	6	7	8
		TOTAL	論文	展示会	インターネットやメールマガジン	その他
1段目 度数	2段目 横%					
0	TOTAL	1561 100.0	135 8.6	719 46.1	408 26.1	25 1.6
1	医療機関	997 100.0	106 10.6	437 43.8	251 25.2	11 1.1
2	福祉施設	335 100.0	21 6.3	179 53.4	96 28.7	10 3.0
3	在宅サービス事業所	178 100.0	6 3.4	79 44.4	45 25.3	2 1.1
4	その他	51 100.0	2 3.9	24 47.1	16 31.4	2 3.9

表頭: Q81 最新情報の入手状況[B.義肢]

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	出来ている	出来ていない	わからない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936	377	2718	841
		100.0	9.6	69.1	21.4
1	医療機関	2746	322	1815	609
		100.0	11.7	66.1	22.2
2	福祉施設	712	31	531	150
		100.0	4.4	74.6	21.1
3	在宅サービス事業所	365	19	283	63
		100.0	5.2	77.5	17.3
4	その他	113	5	89	19
		100.0	4.4	78.8	16.8

表頭: Q82 情報の入手先[B.義肢](複数回答)【Q81=出来ている】

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4
		TOTAL	メーカーや業者	ソーシャルワーカーやケアマネジャー	雑誌や広告	学会や講習会
1段目	度数					
2段目	横%					
0	TOTAL	377	355	50	82	155
		100.0	94.2	13.3	21.8	41.1
1	医療機関	322	308	38	71	133
		100.0	95.7	11.8	22.0	41.3
2	福祉施設	31	29	8	4	12
		100.0	93.5	25.8	12.9	38.7
3	在宅サービス事業所	19	14	3	7	8
		100.0	73.7	15.8	36.8	42.1
4	その他	5	4	1	0	2
		100.0	80.0	20.0	0.0	40.0

(前表からのつづき)

		0	5	6	7	8
		TOTAL	論文	展示会	インターネットやメールマガジン	その他
1段目	度数					
2段目	横%					
0	TOTAL	377	61	111	70	13
		100.0	16.2	29.4	18.6	3.4
1	医療機関	322	59	94	59	11
		100.0	18.3	29.2	18.3	3.4
2	福祉施設	31	1	8	9	2
		100.0	3.2	25.8	29.0	6.5
3	在宅サービス事業所	19	1	6	2	0
		100.0	5.3	31.6	10.5	0.0
4	その他	5	0	3	0	0
		100.0	0.0	60.0	0.0	0.0

表頭: Q83 最新情報の入手状況[C.装具]

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3
		TOTAL	出来ている	出来ていない	わからない
1段目	度数				
2段目	横%				
0	TOTAL	3936	1094	2142	700
		100.0	27.8	54.4	17.8
1	医療機関	2746	870	1358	518
		100.0	31.7	49.5	18.9
2	福祉施設	712	140	460	112
		100.0	19.7	64.6	15.7
3	在宅サービス事業所	365	58	255	52
		100.0	15.9	69.9	14.2
4	その他	113	26	69	18
		100.0	23.0	61.1	15.9

表頭: Q84 情報の入手先について[C.装具](複数回答)【Q83=出来ている】

表側: Q1 職場の主たる業態

		0	1	2	3	4
		TOTAL	メーカーや業者	ソーシャルワーカーやケアマネジャー	雑誌や広告	学会や講習会
1段目	度数					
2段目	横%					
0	TOTAL	1094	1041	94	293	582
		100.0	95.2	8.6	26.8	53.2
1	医療機関	870	836	64	235	476
		100.0	96.1	7.4	27.0	54.7
2	福祉施設	140	127	21	32	62
		100.0	90.7	15.0	22.9	44.3
3	在宅サービス事業所	58	53	5	20	31
		100.0	91.4	8.6	34.5	53.4
4	その他	26	25	4	6	13
		100.0	96.2	15.4	23.1	50.0

(前表からのつづき)

		0	5	6	7	8
		TOTAL	論文	展示会	インターネットやメールマガジン	その他
1段目	度数					
2段目	横%					
0	TOTAL	1094	257	361	250	29
		100.0	23.5	33.0	22.9	2.7
1	医療機関	870	226	288	191	19
		100.0	26.0	33.1	22.0	2.2
2	福祉施設	140	16	47	38	7
		100.0	11.4	33.6	27.1	5.0
3	在宅サービス事業所	58	9	21	14	1
		100.0	15.5	36.2	24.1	1.7
4	その他	26	6	5	7	2
		100.0	23.1	19.2	26.9	7.7

【Q2 職場の理学療法士の人数とのクロス】

表頭: Q1 職場の主たる業態

表側: Q2 職場の理学療法士の人数

		0	1	2	3	4
		TOTAL	医療機関	福祉施設	在宅サービス事業所	その他
1段目 度数	2段目 横%					
0	TOTAL	3936 100.0	2746 69.8	712 18.1	365 9.3	113 2.9
1	10人未満	2654 100.0	1512 57.0	688 25.9	346 13.0	108 4.1
2	10人以上20人未満	710 100.0	669 94.2	20 2.8	16 2.3	5 0.7
3	20人以上30人未満	266 100.0	263 98.9	0 0.0	3 1.1	0 0.0
4	30人以上	305 100.0	302 99.0	3 1.0	0 0.0	0 0.0
5	不明	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0

表頭: Q3 理学療法士が関わっている主な疾患(回答は3つまで)

表側: Q2 職場の理学療法士の人数

		0	1	2	3	4	5	6
		TOTAL	脳血管障害	脊髄損傷	骨関節疾患	外傷	神経難病	脳性麻痺
1段目 度数	2段目 横%							
0	TOTAL	3936 100.0	2967 75.4	318 8.1	3296 83.7	501 12.7	578 14.7	209 5.3
1	10人未満	2654 100.0	1889 71.2	175 6.6	2135 80.4	324 12.2	410 15.4	174 6.6
2	10人以上20人未満	710 100.0	557 78.5	55 7.7	632 89.0	110 15.5	91 12.8	24 3.4
3	20人以上30人未満	266 100.0	232 87.2	20 7.5	239 89.8	36 13.5	36 13.5	5 1.9
4	30人以上	305 100.0	288 94.4	68 22.3	290 95.1	31 10.2	41 13.4	6 2.0
5	不明	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

(前表からのつづき)

		0	7	8	9	10	11
		TOTAL	内部疾患	小児疾患	虚弱高齢	その他	不明
1段目 度数	2段目 横%						
0	TOTAL	3936 100.0	1158 29.4	151 3.8	1382 35.1	167 4.2	4 0.1
1	10人未満	2654 100.0	627 23.6	114 4.3	1120 42.2	127 4.8	4 0.2
2	10人以上20人未満	710 100.0	306 43.1	25 3.5	158 22.3	25 3.5	0 0.0
3	20人以上30人未満	266 100.0	119 44.7	4 1.5	61 22.9	6 2.3	0 0.0
4	30人以上	305 100.0	105 34.4	8 2.6	43 14.1	9 3.0	0 0.0
5	不明	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

表頭: Q4 施設備品として準備されている福祉用具(複数回答)

表例: Q2 職場の理学療法士の人数

		0	1	2	3	4	5	6	7
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	入浴関連(バスボード、シャワーチェア等)	排泄関連(ポータブルトイレ、補高便座等)	移動関連(車いす、杖、歩行器、手すり、擦り付け板等)	移乗(トランスファーボード、リフト等)	外出時環境(段差解消機、階段昇降機、スロープ等)	食事(スプーン、皿、ポータブルスプリングバランサー等)	整容(長柄ブラシ等)
0	TOTAL	3936	2898	2759	3818	2306	656	2819	1316
		100.0	73.6	70.1	97.0	58.6	16.7	71.6	33.4
1	10人未満	2654	1795	1702	2552	1255	375	1690	492
		100.0	67.6	64.1	96.2	47.3	14.1	63.7	18.5
2	10人以上20人未満	710	572	547	697	542	116	590	381
		100.0	80.6	77.0	98.2	76.3	16.3	83.1	53.7
3	20人以上30人未満	266	235	226	264	225	70	246	195
		100.0	88.3	85.0	99.2	84.6	26.3	92.5	73.3
4	30人以上	305	296	284	304	284	95	292	248
		100.0	97.0	93.1	99.7	93.1	31.1	95.7	81.3
5	不明	1	0	0	1	0	0	1	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0

(前表からのつづき)

		0	8	9	10	11	12
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	更衣(ボタンエイド、ソックスエイド等)	コミュニケーション(文字盤、意思伝達装置等)	姿勢調整(クッション、座位保持装置等)	その他	該当なし
0	TOTAL	3936	1556	1489	2917	87	70
		100.0	39.5	37.8	74.1	2.2	1.8
1	10人未満	2654	613	651	1813	52	64
		100.0	23.1	24.5	68.3	2.0	2.4
2	10人以上20人未満	710	463	405	585	20	6
		100.0	65.2	57.0	82.4	2.8	0.8
3	20人以上30人未満	266	210	193	238	7	0
		100.0	78.9	72.6	89.5	2.6	0.0
4	30人以上	305	270	240	281	8	0
		100.0	88.5	78.7	92.1	2.6	0.0
5	不明	1	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

表頭: Q5 施設備品として準備されている下肢装具(複数回答)

表例: Q2 職場の理学療法士の人数

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1段目 度数 2段目 横%		TOTAL	長下肢装具	金属支柱付き短下肢装具	プラスチック製短下肢装具(継手なし)	プラスチック製短下肢装具(継手あり)	オルトトップAFO	リーストラップ	膝装具	その他	該当なし
0	TOTAL	3936	1313	1409	2258	1090	1778	420	2263	229	913
		100.0	33.4	35.8	57.4	27.7	45.2	10.7	57.5	5.8	23.2
1	10人未満	2654	442	583	1163	420	800	162	1188	112	877
		100.0	16.7	22.0	43.8	15.8	30.1	6.1	44.8	4.2	33.0
2	10人以上20人未満	710	398	363	572	285	481	105	570	48	31
		100.0	56.1	51.1	80.6	40.1	67.7	14.8	80.3	6.8	4.4
3	20人以上30人未満	266	203	202	241	159	225	63	227	27	4
		100.0	76.3	75.9	90.6	59.8	84.6	23.7	85.3	10.2	1.5
4	30人以上	305	270	261	282	226	272	90	278	42	0
		100.0	88.5	85.6	92.5	74.1	89.2	29.5	91.1	13.8	0.0
5	不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

表頭: Q6 理学療法士が関わる支援対象者全体のうち各支援を必要とするおおよその割合(回答は半角数字で入力): 福祉用具
 表側: Q2 職場の理学療法士の人数

		0	1
		TOTAL	平均値
1段目	度数		
2段目	横%		
0	TOTAL	3936 100.0	5.2
1	10人未満	2654 100.0	5.3
2	10人以上20人未満	710 100.0	4.7
3	20人以上30人未満	266 100.0	5.1
4	30人以上	305 100.0	5.5
5	不明	1 100.0	10.0

表頭: Q6 理学療法士が関わる支援対象者全体のうち各支援を必要とするおおよその割合(回答は半角数字で入力): 義肢
 表側: Q2 職場の理学療法士の人数

		0	1
		TOTAL	平均値
1段目	度数		
2段目	横%		
0	TOTAL	3936 100.0	0.4
1	10人未満	2654 100.0	0.3
2	10人以上20人未満	710 100.0	0.4
3	20人以上30人未満	266 100.0	0.6
4	30人以上	305 100.0	0.7
5	不明	1 100.0	0.0

表頭: Q6 理学療法士が関わる支援対象者全体のうち各支援を必要とするおおよその割合(回答は半角数字で入力): 装具
 表側: Q2 職場の理学療法士の人数

		0	1
		TOTAL	平均値
1段目	度数		
2段目	横%		
0	TOTAL	3936 100.0	2.1
1	10人未満	2654 100.0	1.9
2	10人以上20人未満	710 100.0	2.2
3	20人以上30人未満	266 100.0	2.6
4	30人以上	305 100.0	3.0
5	不明	1 100.0	2.0

表頭: Q10 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[A.福祉用具] 理想と現状の差が生じる理由【Q9=ある】(複数回答)

表側: Q2 職場の理学療法士の人数

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	2278 100.0	1086 47.7	1063 46.7	804 35.3	1186 52.1	677 29.7	712 31.3	613 26.9	165 7.2	18 0.8
1	10人未満	1561 100.0	755 48.4	602 38.6	467 29.9	785 50.3	464 29.7	556 35.6	424 27.2	117 7.5	16 1.0
2	10人以上20人未満	398 100.0	191 48.0	230 57.8	168 42.2	223 56.0	128 32.2	107 26.9	106 26.6	22 5.5	2 0.5
3	20人以上30人未満	146 100.0	74 50.7	104 71.2	73 50.0	90 61.6	42 28.8	31 21.2	43 29.5	15 10.3	0 0.0
4	30人以上	173 100.0	66 38.2	127 73.4	96 55.5	88 50.9	43 24.9	18 10.4	40 23.1	11 6.4	0 0.0

表頭: Q14 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[B.義肢] 理想と現状の差が生じる理由【Q13=ある】(複数回答)

表側: Q2 職場の理学療法士の人数

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1454 100.0	409 28.1	753 51.8	676 46.5	512 35.2	363 25.0	403 27.7	196 13.5	140 9.6	275 18.9
1	10人未満	906 100.0	268 29.6	375 41.4	336 37.1	291 32.1	192 21.2	289 31.9	138 15.2	81 8.9	217 24.0
2	10人以上20人未満	292 100.0	82 28.1	185 63.4	164 56.2	104 35.6	100 34.2	78 26.7	29 9.9	32 11.0	35 12.0
3	20人以上30人未満	111 100.0	29 26.1	80 72.1	73 65.8	56 50.5	33 29.7	21 18.9	14 12.6	13 11.7	8 7.2
4	30人以上	145 100.0	30 20.7	113 77.9	103 71.0	61 42.1	38 26.2	15 10.3	15 10.3	14 9.7	15 10.3

表頭: Q18 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 1.評価[C.装具] 理想と現状の差が生じる理由【Q17=ある】(複数回答)

表側: Q2 職場の理学療法士の人数

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1985 100.0	714 36.0	966 48.7	885 44.6	854 43.0	514 25.9	526 26.5	428 21.6	267 13.5	44 2.2
1	10人未満	1319 100.0	494 37.5	527 40.0	477 36.2	542 41.1	345 26.2	415 31.5	316 24.0	184 13.9	37 2.8
2	10人以上20人未満	373 100.0	125 33.5	214 57.4	204 54.7	169 45.3	116 31.1	80 21.4	54 14.5	47 12.6	6 1.6
3	20人以上30人未満	130 100.0	51 39.2	99 76.2	89 68.5	66 50.8	27 20.8	18 13.8	27 20.8	16 12.3	1 0.8
4	30人以上	163 100.0	44 27.0	126 77.3	115 70.6	77 47.2	26 16.0	13 8.0	31 19.0	20 12.3	0 0.0

表頭: Q22 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[A.福祉用具] 理想と現状の差が生じる理由【Q21=ある】(複数回答)

表側: Q2 職場の理学療法士の人数

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1826 100.0	821 45.0	860 47.1	773 42.3	831 45.5	607 33.2	529 29.0	409 22.4	128 7.0	36 2.0
1	10人未満	1207 100.0	552 45.7	446 37.0	411 34.1	518 42.9	378 31.3	412 34.1	285 23.6	85 7.0	34 2.8
2	10人以上20人未満	331 100.0	158 47.7	199 60.1	176 53.2	163 49.2	129 39.0	73 22.1	63 19.0	23 6.9	2 0.6
3	20人以上30人未満	125 100.0	55 44.0	90 72.0	79 63.2	71 56.8	51 40.8	21 16.8	31 24.8	8 6.4	0 0.0
4	30人以上	163 100.0	56 34.4	125 76.7	107 65.6	79 48.5	49 30.1	23 14.1	30 18.4	12 7.4	0 0.0

表頭: Q26 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[B.義肢] 理想と現状の差が生じる理由【Q25=ある】(複数回答)

表側: Q2 職場の理学療法士の人数

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1319 100.0	405 30.7	648 49.1	609 46.2	429 32.5	385 29.2	354 26.8	156 11.8	84 6.4	281 21.3
1	10人未満	815 100.0	250 30.7	306 37.5	294 36.1	228 28.0	214 26.3	257 31.5	105 12.9	49 6.0	217 26.6
2	10人以上20人未満	264 100.0	88 33.3	162 61.4	152 57.6	105 39.8	102 38.6	65 24.6	27 10.2	19 7.2	34 12.9
3	20人以上30人未満	98 100.0	33 33.7	73 74.5	67 68.4	47 48.0	37 37.8	20 20.4	14 14.3	5 5.1	12 12.2
4	30人以上	142 100.0	34 23.9	107 75.4	96 67.6	49 34.5	32 22.5	12 8.5	10 7.0	11 7.7	18 12.7

表頭: Q30 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 2.作製・フィッティング[C.装具] 理想と現状の差が生じる理由【Q29=ある】(複数回答)

表側: Q2 職場の理学療法士の人数

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1759 100.0	694 39.5	905 51.4	841 47.8	677 38.5	556 31.6	463 26.3	334 19.0	197 11.2	46 2.6
1	10人未満	1150 100.0	471 41.0	477 41.5	447 38.9	409 35.6	362 31.5	357 31.0	246 21.4	143 12.4	41 3.6
2	10人以上20人未満	342 100.0	130 38.0	212 62.0	201 58.8	138 40.4	131 38.3	81 23.7	49 14.3	33 9.6	4 1.2
3	20人以上30人未満	119 100.0	47 39.5	93 78.2	82 68.9	60 50.4	33 27.7	17 14.3	22 18.5	8 6.7	1 0.8
4	30人以上	148 100.0	46 31.1	123 83.1	111 75.0	70 47.3	30 20.3	8 5.4	17 11.5	13 8.8	0 0.0

表頭: Q34 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[A.福祉用具] 理想と現状の差が生じる理由【Q33=ある】(複数回答)

表側: Q2 職場の理学療法士の人数

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1702 100.0	785 46.1	635 37.3	531 31.2	865 50.8	463 27.2	275 16.2	264 15.5	138 8.1	31 1.8
1	10人未満	1128 100.0	560 49.6	311 27.6	259 23.0	555 49.2	258 22.9	221 19.6	195 17.3	95 8.4	25 2.2
2	10人以上20人未満	304 100.0	130 42.8	148 48.7	124 40.8	163 53.6	117 38.5	41 13.5	35 11.5	22 7.2	5 1.6
3	20人以上30人未満	123 100.0	54 43.9	69 56.1	58 47.2	65 52.8	49 39.8	6 4.9	13 10.6	10 8.1	1 0.8
4	30人以上	147 100.0	41 27.9	107 72.8	90 61.2	82 55.8	39 26.5	7 4.8	21 14.3	11 7.5	0 0.0

表頭: Q38 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[B.義肢] 理想と現状の差が生じる理由【Q37=ある】(複数回答)

表側: Q2 職場の理学療法士の人数

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1146 100.0	334 29.1	447 39.0	410 35.8	341 29.8	165 14.4	222 19.4	104 9.1	66 5.8	329 28.7
1	10人未満	717 100.0	208 29.0	189 26.4	172 24.0	180 25.1	88 12.3	168 23.4	70 9.8	32 4.5	261 36.4
2	10人以上20人未満	226 100.0	73 32.3	120 53.1	115 50.9	77 34.1	46 20.4	36 15.9	19 8.4	17 7.5	38 16.8
3	20人以上30人未満	83 100.0	27 32.5	52 62.7	47 56.6	37 44.6	16 19.3	11 13.3	8 9.6	6 7.2	12 14.5
4	30人以上	120 100.0	26 21.7	86 71.7	76 63.3	47 39.2	15 12.5	7 5.8	7 5.8	11 9.2	18 15.0

表頭: Q42 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 3.ADL練習[C. 装具] 理想と現状の差が生じる理由【Q41=ある】(複数回答)

表側: Q2 職場の理学療法士の人数

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他 具体 的に:	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1330 100.0	587 44.1	634 47.7	585 44.0	565 42.5	254 19.1	192 14.4	193 14.5	90 6.8	57 4.3
1	10人未満	866 100.0	415 47.9	312 36.0	287 33.1	352 40.6	147 17.0	152 17.6	143 16.5	64 7.4	53 6.1
2	10人以上20人未満	246 100.0	105 42.7	145 58.9	145 58.9	112 45.5	65 26.4	32 13.0	27 11.0	11 4.5	4 1.6
3	20人以上30人未満	93 100.0	38 40.9	72 77.4	62 66.7	48 51.6	19 20.4	6 6.5	10 10.8	6 6.5	0 0.0
4	30人以上	125 100.0	29 23.2	105 84.0	91 72.8	53 42.4	23 18.4	2 1.6	13 10.4	9 7.2	0 0.0

表頭: Q46 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[A.福祉用具] 理想と現状の差が生じる理由【Q45=ある】(複数回答)

表側: Q2 職場の理学療法士の人数

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1614 100.0	877 54.3	623 38.6	535 33.1	504 31.2	422 26.1	387 24.0	315 19.5	153 9.5	33 2.0
1	10人未満	1023 100.0	560 54.7	327 32.0	281 27.5	321 31.4	270 26.4	282 27.6	210 20.5	87 8.5	28 2.7
2	10人以上20人未満	304 100.0	173 56.9	134 44.1	123 40.5	96 31.6	81 26.6	67 22.0	48 15.8	29 9.5	4 1.3
3	20人以上30人未満	127 100.0	72 56.7	62 48.8	49 38.6	40 31.5	37 29.1	19 15.0	25 19.7	15 11.8	0 0.0
4	30人以上	160 100.0	72 45.0	100 62.5	82 51.3	47 29.4	34 21.3	19 11.9	32 20.0	22 13.8	1 0.6

表頭: Q50 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[B.義肢] 理想と現状の差が生じる理由【Q49=ある】(複数回答)

表側: Q2 職場の理学療法士の人数

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1168 100.0	354 30.3	448 38.4	424 36.3	285 24.4	220 18.8	232 19.9	122 10.4	77 6.6	342 29.3
1	10人未満	707 100.0	190 26.9	181 25.6	175 24.8	138 19.5	109 15.4	156 22.1	74 10.5	41 5.8	268 37.9
2	10人以上20人未満	231 100.0	83 35.9	126 54.5	122 52.8	73 31.6	59 25.5	48 20.8	25 10.8	12 5.2	45 19.5
3	20人以上30人未満	101 100.0	46 45.5	58 57.4	51 50.5	37 36.6	26 25.7	19 18.8	12 11.9	10 9.9	10 9.9
4	30人以上	129 100.0	35 27.1	83 64.3	76 58.9	37 28.7	26 20.2	9 7.0	11 8.5	14 10.9	19 14.7

表頭: Q54 それぞれの支援時期における理学療法士の関わり 4.導入や作製直後のフォローアップ[C. 装具] 理想と現状の差が生じる理由【Q53=ある】(複数回答)



表側: Q2 職場の理学療法士の人数

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	時間がない	対応するの に必要な知 識が不足し ている	対応するの に必要な技 術が不足し ている	対応するの に必要な備 品が不足し ている	理学療法士 以外の職種 が対応してい る	理学療法士 への依頼が ない	保険適応さ れないなど の経営的理 由	その他	該当する患 者がいない
0	TOTAL	1443 100.0	627 43.5	700 48.5	645 44.7	473 32.8	302 20.9	295 20.4	257 17.8	165 11.4	68 4.7
1	10人未満	919 100.0	421 45.8	353 38.4	324 35.3	289 31.4	191 20.8	216 23.5	178 19.4	108 11.8	63 6.9
2	10人以上20人未満	265 100.0	113 42.6	167 63.0	156 58.9	94 35.5	72 27.2	52 19.6	39 14.7	25 9.4	4 1.5
3	20人以上30人未満	109 100.0	51 46.8	73 67.0	67 61.5	44 40.4	17 15.6	14 12.8	21 19.3	14 12.8	0 0.0
4	30人以上	150 100.0	42 28.0	107 71.3	98 65.3	46 30.7	22 14.7	13 8.7	19 12.7	18 12.0	1 0.7



第4章 事例報告

事例 (福祉用具)



生活期	歩行器導入にて家族と過ごす時間をつくることのできた事例
生活期 訪問リハ事例	年齢:75歳 性別:女性 疾患名:統合失調症 介護度:要介護3
	<p>【介入までの経緯】自室ベッド周囲のみでの生活範囲であったが、訪問リハ介入し、歩行器(ピックアップ歩行器前輪型)導入し、リビングへ本人が行きたいときにいく事ができ、家族との団らんや家庭内役割を獲得した事例。</p> <p>【本人の希望】みんなとご飯を食べたい。</p> <p>【家族の希望】できるなら、自分で歩いてきて、ご飯と一緒に食べられるようになればいい。</p>

	介入時	介入後 1ヶ月	介入後 3ヶ月
ADL・IADLの 状態	<ul style="list-style-type: none"> ●両膝OA・疼痛＋・筋力低下・バランス不良 ●排泄PTイレ 清拭、排泄後の更衣介助 ●入浴は訪問入浴 全介助 ●介護ベッド導入(2モーター)サイドレールのみ 	<ul style="list-style-type: none"> ●移乗時の支持物として介助バー導入 ●両膝OA・疼痛＋・立位保持安定 ●排泄PTイレ 清拭、排泄後の更衣自立 ●入浴は訪問入浴 移乗は自立 ●リビングソファへのアプローチ要介助 	<ul style="list-style-type: none"> ●移動時の支持物として歩行器導入 ●両膝OA・疼痛＋・立位保持安定 ●自室からリビングまで歩行自立 ●リビングソファへのアプローチ自立 ●家族と食事ができる ●家族の洗濯物をたたむ役割ができる
目標	<ul style="list-style-type: none"> ●疼痛緩和、基本動作の安定 ●動線、動作方法の見直し(福祉用具導入) ●本人の精神面支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●疼痛緩和、体力向上 ●動線、動作方法の見直し(福祉用具導入) ●本人の精神面支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●外出への意欲関心を高める ●動線、動作方法の検討 ●本人の精神面支援
介入	<ul style="list-style-type: none"> ●機能訓練 ●移乗、移動方法の見直し(介助バー導入) ●歩行器選定 ●排泄動作の練習・介助指導 	<ul style="list-style-type: none"> ●ソファへのアプローチ検討、練習。 ●歩行器歩行練習 ●車いす調整 ●ホームプログラム指導 	<ul style="list-style-type: none"> ●外出方法の検討(段差の段割り、手すり設置、車いす導入) ●段差昇降練習 ●家族へ車いす介助方法の指導
イメージ写真			
結果	<p>身体機能改善、適切な福祉用具の導入、使いこなしができ、活動範囲の拡大ができた。あきらめていた家族との団らんが日常生活として定着した。また、家族の洗濯物をたたむという家庭内の役割もできた。自室にこもり過ごすだけであったが、本人が自由に自室とリビングを往来することが出来るようになった。その為、被害妄想や極端な不安感も改善した。</p>		
理学療法士が 関わる効果	<p>精神疾患による長期入院にて、廃用性の身体機能低下(両膝OA)しているケースに訪問リハ介入。身体機能評価に基づき、身体機能に応じた環境調整や機能訓練を実施したことで、あきらめていた家族との団らんや家族に迷惑をかけているという想いだけでなく、家族の中の役割を果たすことが出来た。また、次なる目標(夫と外出する)を立てることができた。</p>		



生活期	タイトル『リフトにて自宅での入浴が気持ちよく安心してできた事例』		
生活期 訪問リハ事例	疾患名： 小児麻痺後遺症	年齢： 40 歳	性別： 女性
	【入浴方法検討までの経緯】訪問リハ継続利用中。ヘルパー支援(2名)にて入浴していたが、ヘルパーの腰痛者増加、限られた支援者での対応しかできなくなり、自宅での入浴支援継続が危ぶまれた。支援者からは通所サービス利用の提案もあった。 【本人の希望】施設(デイ)ではなく、自宅で安全に入浴を継続したい。		

	開始時(入浴検討初月)	1～3ヶ月(申請～再申請)	最終(住改後)
ADL・IADLの 状態	<ul style="list-style-type: none"> ●寝返り:わずかに可能 ●起居:背上げ利用 ●起立:自宅内は手すり把持にて可能 ●移乗:環境によって要介助 ●移動:電動車いす ●入浴:ヘルパー二人介助にて抱えて入浴。足をぶつけることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●寝返り:わずかに可能 ●起居:背上げ利用 ●起立:自宅内は手すり把持にて可能 ●移乗:環境によって要介助 ●移動:電動車いす ●入浴:ヘルパー二人介助にて抱えて入浴。足をぶつけることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●寝返り:わずかに可能 ●起居:背上げ利用 ●起立:自宅内は手すり把持にて可能 ●移乗:環境によって要介助 ●移動:電動車いす ●入浴:ヘルパーヘリフト使用方法指導。マニュアル作成
目標	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅での入浴が継続できる 入浴時の介護負担軽減 		
介入	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘルパー事業所、地域包括支援センター、福祉用具事業所との連絡調整(リフト導入にあたり制度利用の確認。必要な環境調整検討:入浴動作評価:実際の場面同行。リフト本体、つりぐの選定) ●関節可動域訓練 筋力訓練 呼吸リハ ●寝返り、起き上がり、トランスファーボード移乗練習 	<ul style="list-style-type: none"> ●リフト導入にあたり制度利用の確認。申請書類の確認、福祉課への相談。 ●たっくデイにて実際の浴室用リフトをデモ:ヘルパー、本人。必要性の理解を深める。使用感を体感し、イメージをつくる) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘルパーヘリフト使用方法指導。 ●リフト使用での入浴支援マニュアル作成
イメージ写真			
結果	リフト導入後、足をぶつけることなく、安心して、容易に入浴が可能となる。ヘルパー1人にて入浴支援が可能となる。支援者を限定せず、入浴支援を受けることが出来るようになった。		
理学療法士が 関わる効果	本人の身体能力と動作分析、また予後予測をすることで、必要な環境調整を検討できた。他事業所と連携をとり、よりよい環境調整を実施することが出来た。		


生活期	タイトル『リフトにて痛みが少なく気持ちよく安心して入浴できた事例』	
生活期 訪問リハ事例	疾患名： 悪性関節リウマチ	年齢： 77 歳 性別： 男性
	<p>【入浴方法検討までの経緯】訪問リハ継続利用中。 訪問看護師支援にて入浴していたが、全身の関節痛増悪。起居動作も困難な時が増加。入浴による温熱効果にて疼痛緩和するため、自宅での入浴継続希望あり。</p> <p>【本人の希望】自宅で安楽に気持ちよく、入浴を継続したい。</p>	

	開始時(入浴検討初月)	1ヶ月(環境調整検討)	最終 (導入後)
ADL・IADLの 状態	<ul style="list-style-type: none"> ●寝返り:可能 ●起居:背上げ利用 ●起立:困難 ●移乗:トランスファーボード要介助 ●移動:車いす要介助 ●入浴:看護師1人、妻の手伝いにて抱えて入浴。関節痛強く、入浴での負担増大。 	<ul style="list-style-type: none"> ●寝返り:可能 ●起居:背上げ利用 ●起立:困難 ●移乗:トランスファーボード要介助 ●移動:車いす要介助 段差の衝撃で疼痛あり。 ●入浴:看護師1人、妻の手伝いにて抱えて入浴。関節痛強く、入浴での負担増大。 	<ul style="list-style-type: none"> ●寝返り:可能 ●起居:背上げ利用 ●起立:困難 ●移乗:トランスファーボード要介助 ●移動:車いす要介助 ●入浴:リフト使用。看護師1人介助。関節痛ほとんどなく、入浴可能。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅での入浴が継続できる 入浴時の疼痛緩和。入浴時の介護負担軽減 		
介入	<ul style="list-style-type: none"> ●リフト導入にあたり制度利用の確認など、ケアマネージャーへの相談。 ●入浴動作評価:実際の場面同行。リフト本体、つりぐの選定。必要な環境調整検討 ●関節可動域訓練 筋力訓練 呼吸リハ ●寝返り、起き上がり、トランスファーボード移乗練習 	<ul style="list-style-type: none"> ●本人に対して必要性の理解を深める。使用感を体感し、イメージをつくる) ●入浴手順(動線、物品準備、更衣動作等)を看護師と検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●看護師へリフト使用方法指導。 ●リフト使用での入浴支援マニュアル作成
イメージ写真			
結果	<p>リフト導入後、疼痛少なく、安心して、気持ちよく入浴が可能となる。 看護師1人にて入浴支援が可能となる。 支援者を限定せず、入浴支援を受けることが出来るようになった。デイサービスでの入浴も可能となった。</p>		
理学療法士が 関わる効果	<p>本人の疾患を考慮し、身体能力と動作分析することで、必要な環境調整を検討できた。 多職種と連携をとり、よりよい環境調整、入浴方法を検討し、実施することが出来た。 新たなサービス利用時も、身体機能面での注意点などを共有したことで、本人が自宅以外でも安心して入浴できるようになった。</p>		




生活期	終末期を安心して家族とともに過ごすことができた事例
生活期 訪問リハ事例	<p>年齢:75歳 性別:男性 疾患名:胆のうがん 介護度:要介護3</p> <p>【介入までの経緯】自宅内移動できていたが、腰椎骨転移により下肢不全麻痺となり、在宅での見取り希望。主治医より寝たきり状態になるため訪問リハ介入し、苦痛なく過ごせるようにとの指示で介入。 【本人の希望】自宅にいたい。家族に伝えたいことがある 【家族の希望】本人の意向に添いたい</p>

	介入時	導入直後(1週間後)	導入後(3週間後)
ADL・IADLの 状態	<ul style="list-style-type: none"> ●両下肢不全麻痺・感覚脱失・疼痛+ ●尿閉によるバルン挿入 ●寝返り一部介助にて可能 ●介護ベッド導入(2モーター)背上げのみで下方へズレあり 	<ul style="list-style-type: none"> ●疼痛はモルヒネで消失 ●食事量低下・水分摂取は可能 ●身体に発赤なし ●呼吸機能維持(Spo2:97%) ●家族と思い出話を語り精神面安定 	<ul style="list-style-type: none"> ●意識レベル低下、水分摂取できず ●発話なし、チェーンストクス呼吸 ●身体に発赤なし ●家族も最期を受け入れ、精神面安定
目標	<ul style="list-style-type: none"> ●疼痛緩和 ●介助方法の見直し(福祉用具導入) ●本人家族の精神面支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●安楽に過ごす(姿勢・呼吸など) ●福祉用具変更後のフォロー ●本人家族の精神面の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●安楽に過ごす ●福祉用具のフォローアップ ●家族の精神面の支援
介入	<ul style="list-style-type: none"> ●ベッド上ケア方法変更・介入者への指導 ●姿勢調整(ポジショニングピロー)と指導 ●介護ベッド・マットレス選定 ●聞き取り(思いを聞き、家族へ伝え共有) ●マッサージ・ストレッチ実施と家族への指導 	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉用具導入後の状況確認 ケア実施状況確認、使いこなし練習 ●聞き取り(思い出の写真を飾り語る) ●家族でのリハ状況確認(家族とのコミュニケーション目的) 	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉用具のフォローアップ
イメージ写真			
結果	<p>心身の状況に合わない介護ベッド使用しており、福祉用具の再選定実施。下方へのズレや寝返りなど補助のために福祉用具導入し介助指導を行った。また、臥位中心の生活のためポジショニングを行い疼痛除去や褥瘡予防を図った。福祉用具変更後、介入者への指導や使いこなしの練習を行ったため、家族や介入者にて対応可能であり、疼痛緩和での生活が可能。そのため、苦痛が少なく家族との最期の思いで話などが可能であった。</p>		
理学療法士が 関わる効果	<p>心身機能と活動の変化に応じて介護ベッドやマットレスを選択。また、疼痛緩和や褥瘡予防のためにスライディングシートやマルチグローブなどを導入し、笑顔で過ごすことができた。苦痛を除くことができ、家族との最期の話ができ、本氏は父親としての役割を担い、家族とのかけがえのない時間を過ごすことへの支援ができた</p>		

生活期	家族に気兼ねをしない生活を獲得した事例
生活期 訪問リハ事例	年齢:71歳 性別:女性 疾患名:脳幹部出血後左片麻痺 介護度:要介護3
	【介入までの経緯】発症後アリハ病院入院中に退院前カンファレンス参加。退院調整を医療機関と一緒に 【本人の希望】トイレが一人でできるようになりたい・生活に慣れる 【家族の希望】何でも自分でできるようになってほしい

	退院直後	導入直後	導入後
ADL・IADLの 状態	<ul style="list-style-type: none"> ●左側上下肢感覚脱失・失調症状あり ●立位不安定 ●立位移乗介助、車いす駆動自立 ●排泄はPTイレ介助レベル(自宅トイレ狭い) 	<ul style="list-style-type: none"> ●座位移乗見守り ●座位での姿勢崩れなし ●トイレ動作自宅トイレにて一部介助 ●デイ週3回利用、夫といつでも外出可能 	<ul style="list-style-type: none"> ●座位移乗自立 ●トイレ動作自立 ●留守番可能、床掃除、猫の餌やり、家計簿つけ、書写などの役割と余暇活動可能
目標	<ul style="list-style-type: none"> ●トイレ造築、排泄方法変更し自立する ●外出が誰でも簡単に行える ●自分らしく過ごすことができる(役割・余暇活動獲得) 	<ul style="list-style-type: none"> ●排泄動作の自立 ●座位移乗自立し、好きな時に移乗し活動できる ●役割・余暇活動獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ●現状の生活継続
介入	<ul style="list-style-type: none"> ●外出方法の検討 ●移乗方法見直し、座位移乗練習 ●車いす調整 ●排泄動作の練習・介助指導 	<ul style="list-style-type: none"> ●外出方法の確認 ●車いす使いこなし、練習 ●移乗動作の練習 ●参加活動の支援 	
イメージ写真			
結果	退院時カンファレンスでは立位移乗で介助が外せない、外出はスロープ、トイレはPTイレ使用となっていたが、自由に外出できず、トイレが自立できないと留守番もできない生活となることが予測された。そのため移乗動作自立、排泄動作の変更と獲得、外出支援を図った。その結果、留守番ができ、床掃除などの役割を担うことも可能となった		
理学療法士が 関わる効果	退院後の生活を予測し、永続的に生活できるよう評価を実施、プランを検討することができた。		

生活期	車いす-ベッド間の移乗が自立し、生活範囲が拡大した事例
生活期 訪問リハ事例	年齢:69歳 性別:男性 疾患名:胸髄損傷 介護度:要介護3
	【介入までの経緯】受傷後Aリハ病院入院中に、退院調整を医療機関と一緒にいき、退院支援実施。退院後は、市営団地へ引っ越し独居生活となるため、褥瘡予防を主とした在宅生活構築目的で介入となる。 【本人の希望】自活した生活を送りたい／自宅で一人で入浴したい 【家族の希望】必要なときは、買い物や外出など一人暮らしを支えていきたい

	退院直後	導入直後(1週間)	導入後(2ヵ月)
ADL・IADLの 状態	<ul style="list-style-type: none"> ●移動・移乗時に褥瘡リスクあり(離殿不十分) ●ベッドからの転落リスクあり ●上肢筋力・筋持久力低下 ●入院中に褥瘡(治癒傾向) ●エアマット使用 	<ul style="list-style-type: none"> ●スライディングシート・トランスファーボード使用し移乗自立(固定パターン) ●洗濯など自立 ●床上で離殿不十分 ●力で強引に移動する ●上肢筋力・筋持久力低下 ●エアマット使用 	<ul style="list-style-type: none"> ●スライディングボードのみで移乗自立 ●電動車いすを使用し外出 ●座位バランス向上し動作が安定 ●上肢筋力・筋持久力向上 ●エアマット使用
目標	<ul style="list-style-type: none"> ●褥瘡の再発予防 ●福祉用具を使用し、転落なく安全に移動・移乗 ●上肢筋力・筋持久力向上 ●スムーズな重心移動の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ●褥瘡再発予防 ●様々な移乗方法の獲得(前方・側方・後方) ●上肢筋力・筋持久力向上 ●座位バランス能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ●上肢筋力・筋持久力の向上 ●座位バランス能力の向上
介入	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉用具の使いこなし練習 ●上肢筋力・筋持久力ex(プッシュアップ) ●移乗に必要な重心移動訓練 ●下肢ストレッチ(自主運動指導など) 	<ul style="list-style-type: none"> ●上肢筋力・筋持久力訓練 ●座位バランス訓練 ●床上での移動訓練(プッシュアップ) ●福祉用具の使いこなし練習 	<ul style="list-style-type: none"> ●上肢筋力・筋持久力訓練 ●座位バランス訓練 ●床上での移動訓練(プッシュアップ)
イメージ写真			
結果	<p>退院時は上肢筋力・筋持久力低下、重心移動も不十分なため、福祉用具を使用しても力で強引に移動・移乗する事が多かった。また離殿が不十分のため褥瘡リスクが高く、転落する事も予測された。褥瘡予防及び転落予防としてトランスファーボード、スライディングシートを使用。用具の使用法の指導と動作練習を反復し自立へ。上肢筋力・筋持久力、座位バランスが向上するにつれて、身体の使い方を習得され、トランスファーボードを使用してスムーズに座位移乗が可能となる。様々な場面での移乗が可能となり、洗濯や仏壇の手入れなどの生活行為が増え、さらに電動車いすに乗車し近所へ買い物に行くなど生活範囲が広がった。</p>		
理学療法士が 関わる効果	<p>退院後の在宅生活が予測できないため、「出来ているから良いだろう」「何とかなる」との認識で、自己判断で行動することが予測される。不十分な環境や移動・移乗動作では褥瘡再発リスクが非常に高く、再発した場合は活動制限に繋がる。本氏に必要な上肢筋力・筋持久力、座位バランスの向上と、トランスファーボード・スライディングシートなど必要な福祉用具を使用していくことで、褥瘡再発なく車いす-ベッド間の移乗が安全に実施できるようになり、電動車いすでの外出など生活範囲の拡大につながることができた。</p>		

生活期	昇降座椅子導入にて離床時間延長と安楽な動線獲得ができた事例
生活期 訪問リハ事例	年齢:65歳 性別:男性 疾患名:肝硬変、糖尿病性神経症、腰部脊柱管狭窄症術後 介護度:要介護2
	<p>【介入までの経緯】腹水・下肢浮腫著明、下肢の麻痺・感覚障害、全身的廃用性筋力低下があり、日常生活に支障きたしている状態。また、生活不規則で閉じこもりがちである。生活再建と環境調整目的にてリハ介入となる。</p> <p>【本人の希望】自宅での暮らしを継続したい。</p> <p>【家族の希望】家族交流少なく、聴取困難</p>

	介入時	導入時	導入後
身体状況・ADLの状態	<ul style="list-style-type: none"> ●腰痛誘発するため長時間の座位困難 ●座椅子⇔ベッドの移動はテーブルに伝いながら中腰で移動するため、移動に伴う疲労と転倒リスク高い 	<ul style="list-style-type: none"> ●床からの立ち上がり補助として昇降座椅子(回転式タイプ)を導入 ●座高を自由に調整でき座位時間延長 	<ul style="list-style-type: none"> ●腰痛軽減 ●昇降座椅子に座って連続1~2時間離床時間確保ができる
目標	<ul style="list-style-type: none"> ●疼痛緩和 ●動線、動作の見直し(福祉用具導入) ●生活リズムの見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ●昇降座椅子使用し立ち上がり動作が安楽にできる ●座位時間(=離床時間)の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ●離床時間延長につなげる ●動線の見直し
介入	<ul style="list-style-type: none"> ●機能訓練 ●昇降座椅子の選定 ●1日のスケジュール確認 	<ul style="list-style-type: none"> ●昇降座椅子導入後の状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> ●動線の見直し(部屋レイアウト変更) ●ベッド⇔昇降座椅子移動方法の変更(ベスポジションバー導入し伝い歩き可能)
イメージ写真			
結果	腰痛と下肢支持性低下があり床からの立ち上がり動作に転倒リスクがあり努力を要していた。昇降座椅子導入後は、安楽座位・起立動作の獲得が可能となり、離床時間の延長につながった。また、生活を洋式に変更したことで安定した姿勢での伝い歩き移動ができるようになった。		
理学療法士が関わる効果	身体機能・能力評価に応じた環境調整を実施したことで、離床時間の延長と安定した移動獲得(転倒リスク軽減)につながった。腰痛・疲労軽減によって、生活動作への影響も改善され安定した生活を継続できている。		





回復期 (在宅復帰)	主婦としての役割を車いすを活用して実行できた事例
回復期 入院事例	年齢:33歳 性別:女性 疾患名:ギランバレー症候群
	【本人の希望】病前と同じ役割を自宅内でも屋外でも家族のために果たしたい 【家族の希望】車いすを使いながら主婦としての役割を果たしてほしい

	入院時	退院時	退院後
心身機能・ ADL・IADLの状 態	<ul style="list-style-type: none"> ● 対麻痺 ● 上肢の麻痺は軽度だが筋力・筋持久力の低下は著しい。 ● 移乗は介助が必要。 ● 車いす操作は自立していたが、座位姿勢は不良で耐久性低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 長時間の座位で腰部痛出現 ● 入浴含めたADL自立 ● 床・高所の拭き掃除と雨の日の買い物を除きIADL自立 	<ul style="list-style-type: none"> ● 主婦の役割は問題なくできるので復職ができるように車いすでの活動を増やしたいと思うようになった ● 雨の日の買い物以外は自立
目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすを活用してADL自立。 ● 車いすと自動車を使って外出できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 雨の日の買い物の工夫 ● 車いすでの外出 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自宅内での役割は果たせている ● 雨の日の外出、長時間の外出の実現
介入	<ul style="list-style-type: none"> ● 筋力・筋持久力向上トレーニング ● 座位姿勢改善トレーニング ● 車いす操作等使いこなしトレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外出時などの長時間座位が可能な車いすの調整、座位姿勢の管理 ● 座り方、車いすの使いこなし練習 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外来でフォロー ● 活動時間増加に対応するための車いす姿勢の管理、車いすクッションの再選定
イメージ写真			
結果	<p>入院5か月でADLは車いす使用して自立に至る。IADLは退院時にほぼ自立し、退院後外出頻度も増え活動範囲も増えている。現在は復職に向けた意欲が出てきており、活動状況に合わせた車いすクッションの選定などを行いながら座位耐久性向上につながっている。</p>		
理学療法士が 関わる効果	<p>心身機能と活動レベルの変化に応じた車いすの選択と、その車いすの使いこなしの練習に関わることでADL自立を達成できた。また退院後の外出頻度の増加や時間の延長等の変化に対して、車いすの調整やクッションの選定等にタイミングよく関わり生活の広がりを支援できた。</p>		

回復期 (在宅復帰)	身体機能・環境・本人の思いに配慮し歩行車を提案でき、活動範囲が広がった事例
回復期入院 事例	年齢:86歳 性別:女性 疾患名:腰部脊柱管狭窄症 介護度:非該当
	【本人の希望】痛みなく生活したい、書道教室に通いたい

	入院時	退院時	退院後
ADL・IADLの 状態	<ul style="list-style-type: none"> ● 術後の経過は良好だったが神経根症状と思われる左股関節や足部の筋力低下、しびれがある。 ● 歩行車で院内移動、ADL自立 	<ul style="list-style-type: none"> ● 下肢体幹の筋力は全般に向上するが、左股関節、足部の筋力低下、しびれは残存 ● 院内杖歩行自立 ● 自宅内は杖なし・一部伝い歩きで自立 	<ul style="list-style-type: none"> ● 身体機能は維持 ● 自宅内歩行自立 ● 屋外歩行車歩行自立、タクシーへの積み込みのみ運転手に介助してもらう
目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 屋内は伝い歩き、屋外歩行車で自立 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩行車で外出ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自宅生活の継続 ● 外出範囲の拡大
介入	<ul style="list-style-type: none"> ● 下肢・体幹の筋力強化 ● 歩行練習 	<ul style="list-style-type: none"> ● セルフエクササイズの指導 ● 歩行車の選定およびタクシーを想定した外出練習(積み込み依頼等含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 訪問リハで実生活(自宅周辺)範囲の歩行車歩行使いこなし練習
イメージ写真			
結果	<p>本症例は左股関節・足部の筋力低下としびれを強く気にしており、自身の能力を過小評価する傾向があった。自宅周辺は坂道も多いことから、入院当初は歩行車使用に対して否定的であった。入院中に歩行車を試用する中で、歩きやすさを実感し、また車への積み込みが行いやすいことを体験(積み込み容易な機種を選定)することを積み重ねていくことで、退院後にタクシーを利用して通院や書道教室へ通えるようになった。</p>		
理学療法士 が関わる効果	<p>心身機能及び活動(特に能力)のアセスメント結果に基づき、潜在的な活動能力を見極めたうえで、本人がやりたいことを実現できる道具を提案できた。また入院中に退院後の福祉用具活用シミュレーションを行えたことで、退院後のイメージができスムーズに退院し、かつ外出の自立につなげることができた。</p>		

回復期 (在宅復帰)	全身疾患と骨関節疾患を複合した状態で高齢者夫婦2人暮らしの自宅生活へ復帰できた事例
回復期入院 事例	年齢:70歳 性別:女性 疾患名:右膝人工関節置換術後に関節抜去・パーキンソン症候群 介護度:3
	【介入までの経緯】人工関節抜去による右膝関節の不安定性を改善して部分的な体重支持ができるようにし、同時に右膝に過剰な負荷がかからないよう、左下肢や両上肢をうまく使えるような動作の獲得を支援する。また車いすなど福祉用具の有効な活用方法を習得する。 【本人の希望】夫婦2人暮らしで自宅生活に戻りたい、調理などの家事もできるようになりたい。 【家族の希望】車いすを活用して身の回りのことが自立して、調理など家庭内の役割もできるようになってほしい。

	入院時	退院時	退院後
ADL・IADLの 状態	<ul style="list-style-type: none"> ● 右膝関節は不安定で、少しの体重支持でも痛みを伴い困難な状態。 ● 持久力も低下し、活動性は極めて低く日中ベッド臥床。 ● 車いす移動および移乗は全介助。 ● 整容など座位での上肢活動は準備をすればできる状態。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いす座位時間連続1時間可能な状態。 ● 自身でベッド上自主練習が可能な程度に下肢筋力は向上し、活動性も向上する。 ● 車いす移動・移乗自立する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 退院時の状態継続 ● 屋内は車いす自走継続
目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いす移動・移乗の自立。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人での移乗が安全に出来る 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日中体を起こして過ごす。 ● 調理など家事動作を夫の援助のもと行う。
介入	<ul style="list-style-type: none"> ● 右膝の安定性向上トレーニング ● 右膝への荷重量がコントロールできる上肢支持物の調整と使いこなすための動作トレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> ● ベストポジションバー等を用いた移乗自立に向けた環境調整。 ● 本人が操作しやすい車いすの選定、動作指導。 ● 病室を自宅環境に近い状態にして支持物の使いこなし練習を繰り返し行う。 	
イメージ写真			 
結果	病室を自宅環境にみたくて環境整備(自宅で使用する車いす、ベストポジションバーを院内設置)をして移乗・移動動作のシミュレーションを繰り返した結果、フィッティングと使いこなしトレーニングを行うことができた。		
理学療法士が 関わる効果	右下肢の支持性が弱く、全身の筋力・筋持久力低下、パーキンソン症候群の影響から身体のコントロールが難しい症例に対して、どの姿勢に体を使えば支持性が得られて、こういった車いすであれば上肢機能・座位機能に応じた操作方法が獲得できるのか働きかけることができた。		

事例 (義肢)

自宅復帰	50年前(20代)に骨肉腫を原疾患とし大腿切断に至り治療用義足を処方するも義足適合困難(リハビリテーション歴なし)からその後50年間、義足未装着(両松葉杖歩行)にて日常生活を過ごしてきた症例
------	---

障害者支援施設入所事例	年齢:70代(後期高齢) 性別:女性 疾患名:左大腿切断(骨肉腫)	入院時は介護保険未取得
	【介入までの経過】 50年前(20代)に骨肉腫を原疾患とし大腿切断に至り治療用義足を処方するも義足適合困難(リハビリテーション歴なし)からその後50年間、義足未装着(両松葉杖歩行)にて日常生活を過ごしてきた症例。50年間、様々な整形外科・皮膚科・形成外科等に通院履歴があるが義足処方の提案はなかった症例でもある。平成28年になり関東の病院へ訪れ主治医に変形性膝関節症(stage 3・膝関節内反変形・足部アーチ低下)疼痛(荷重時・動作時疼痛)が顕著となり日常生活に支障をきたすようになり大腿義足を勧められる。当センターにて平成28年1月義足作製、リハ目的にて入院 【本人・家族の生活の目標】 義足での日常生活動作・屋外応用歩行・公共交通機関(電車・バス)の利用	

	開始時(入院時)	中間(1ヶ月後)	退院前(2か月半後)
ADL・IADLの状態	○リハ室内 両松葉杖(義足なし)歩行自立 ○10m歩行速度:測定不可 ○2分・6分12分間:測定不可	○施設内義足歩行自立(T字杖) ○10m歩行速度:(T字杖or片松葉)25秒 ○12分間 320m	10m歩行速度(T字杖):12秒 12分間430m ○屋外応用歩行(階段傾斜不整地エスカレータ) 電車(T字杖or片松葉杖) 義足装着にて独歩退院
生活行為の目標	○義足荷重の増加(非切断肢の疼痛軽減) ○平行棒内 義足歩行の自立	○自宅周囲の歩行自立(買い物) ○公共交通機関の利用自立	【考察】 ①切断からの経過年数(短断端・筋萎縮) ②後期高齢者 ③変形性膝関節症 ④松葉杖歩行での生活歴が長い 以上の条件から大腿義足装着の恩恵がどこにあるかを本人やご家族にも随時説明を行った→家屋内で両手をフリーで家事動作が可能等 ①②③④の条件を考え義足環境の歩み寄り・非切断肢側の膝装具・インソール処方をリハ開始から徹底して行ったことが義足応用歩行・義足での日常生活での自立に繋がったと考える。
介入内容	義足構成要素に対して荷重しやすい環境作りを徹底して行った(短断端・筋萎縮著明) ○義足構成要素<<キャッチピン式 膝継手固定膝(3R41強化プラスチック軽量・スライド可)・支持性・懸垂性向上のためシレジアバンドをソケットへ装着・坐位で義足装着できる環境)○切断側拘縮(屈曲・外転・外旋拘縮)・筋出力を考慮した義足作製(アライメント変更可能なスライドパーツ使用)○非切断肢変形性膝関節症へ軟性支柱付き膝装具を処方・足底部にインソール処方	○義足荷重練習 平行棒外歩行(両杖・片杖・リハ室内)⇒階段・傾斜⇒屋外歩行(T字杖)⇒電車(片松葉orT時杖) ○日内変動本人によるソケット内フィッティング調整 ○切断側拘縮(屈曲・外転・外旋拘縮) ○筋出力を考慮したアライメント修正 ○屋外応用歩行 ○試験 外泊	

結果:義足構成要素に対して荷重しやすい環境作りを徹底して行った結果早期に義足荷重可能となった。最終的には生活復帰,公共交通機関(T杖)の利用が自立

課題:介護保険制度の使用歴がないため、ケアマネと今後の義足日常生活についての連携も行った。

シレジアバンド(懸垂性・支持性向上)

※切断側拘縮(屈曲・外転・外旋拘縮),筋出力を考慮したアライメント修正も適宜行う

インソールと膝装具処方
※R41固定(スライド付き)

義足への重心移動

初期(4W)

最終(10W)

屋外応用歩行(階段・傾斜・不整地)
公共交通機関(電車・T杖)の利用が自立

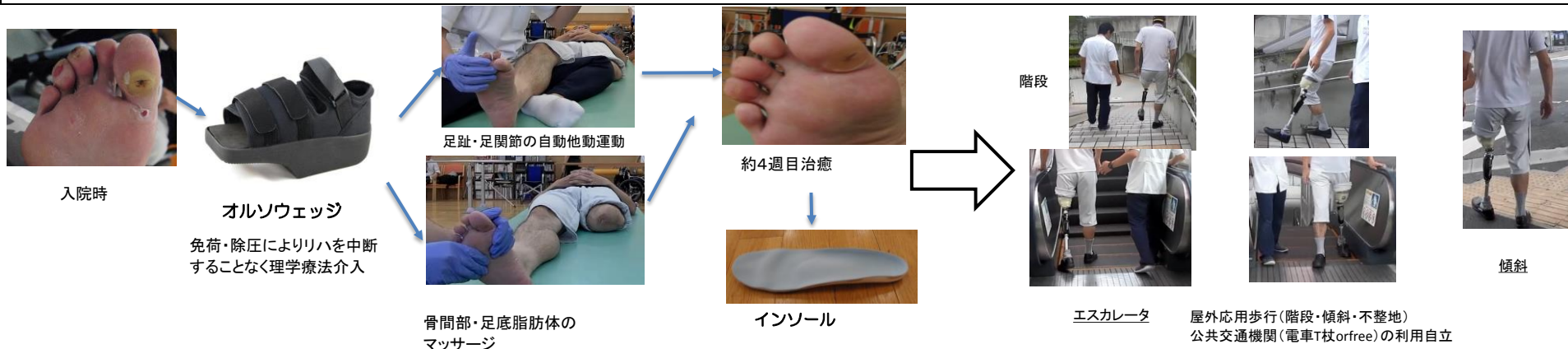
仕事復帰(電車通勤必須)	糖尿病の告知から10年近く放置した結果,糖尿病壊疽によって左大腿切断を施行した症例
--------------	---

障害者 支援施設 入所 事例	年齢:40代 性別:男性 疾患名:糖尿病性壊疽による大腿切断
	<p>【介入までの経過】</p> <p>糖尿病の告知から10年近く放置した結果,糖尿病壊疽によって左大腿切断を施行した症例である。他院・他義肢製作所で作製された義足の不適合,理学療法介入の不十分さから自ら当センターへ受診してきた複雑な背景を持った症例であった。当センター入院時,非切断肢:足趾先端と母趾中足骨頭に潰瘍・表皮剥離・白癬感染が形成されているのを発見し,①非切断肢フットケア治療(足趾:前足部完全免荷シューズ)②義足荷重平行棒内荷重・歩行を促しながら理学療法を止めることなく介入を行った。</p> <p>【本人の生活の目標】 仕事復帰(電車通勤)義足での日常生活動作・屋外応用歩行・公共交通機関(電車・バス)の利用</p>

	開始時(入所時)	中間(1ヶ月後)	退院前(2か月半後)
ADL・IADLの状態	<ul style="list-style-type: none"> ○平行棒内歩行 ○10m歩行速度:測定不可 ○2分・6分12分間:測定不可 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設内義足歩行自立(T字杖) ○10m歩行速度:16秒 12分間 420m ○TUG14秒 	<ul style="list-style-type: none"> 10m歩行速度 11秒 12分間620m TUG12秒 ○屋外応用歩行(階段傾斜不整地エスカレータ)電車(T字杖or片松葉杖)義足装着にて独歩退院
生活行為の目標	<ul style="list-style-type: none"> 非切断肢フットケア治療(足趾:前足部完全免荷シューズ) ○義足荷重の増加・平行棒内歩行自立 	<ul style="list-style-type: none"> ○屋外不整地歩行 持久力の向上 ○公共交通機関の利用自立 	<p>【考察】</p> <p>非切断肢足趾先端と母趾中足骨頭に潰瘍・表皮剥離・白癬感染があったが,前足部完全免荷シューズすれば義足荷重・平行棒内歩行練習を行えると判断し,リハを中断することなく理学療法介入を進めた(結果4週目で潰瘍部位は治癒)。切断側屈曲拘縮も最終時には軽減し歩行パフォーマンスも向上した。チェックソケット時に,スライドパーツを使用し膝継手軸の変更を平地・傾斜・不整地毎に調整を行った。最終的には,屋外応用歩行(階段傾斜不整地)電車通勤可能(電車通勤時T字杖使用)となり職場復帰に至った。</p>
介入内容	<ul style="list-style-type: none"> ○非切断肢フットケア治療(足趾:前足部完全免荷シューズ・オルソウェッジ) ○切断側拘縮(屈曲・外転・外旋拘縮)・筋出力を考慮した義足作製(アライメント変更可能なスライドパーツ使用) ○ベンチ・スタティック・ダイナミックアライメント調整○切断側ROM-EX 筋力強化(切断側徒手・抵抗) 	<ul style="list-style-type: none"> ○義足装着荷重練習○平行棒内⇒平行棒周囲⇒平行棒外歩行(両杖・片杖・リハ室内)⇒階段・傾斜⇒屋外歩行(T字杖)⇒電車 ○日内変動に対する本人による断端袋調整 インソール処方(胼胝形成部位の圧軽減) 	

結果:非切断肢足趾先端に潰瘍・表皮剥離・白癬感染あったが,前足部完全免荷シューズにより義足荷重・平行棒内歩行練習可能と判断しリハを中断せず理学療法介入を進めた

課題:自己管理(周径の日内変動断端袋の調整,保湿剤などで足趾潰瘍形成予防,血糖コントロールなど)・定期的病院への受診



*

理学療法士が義足に関わることの効果	糖尿病性壊疽による下腿切断高齢者に対して義足装着の習熟を図った事例
-------------------	-----------------------------------

障害者支援施設入所事例	年齢:75歳 性別:女性 糖尿病性壊疽による左下腿切断 【介入までの経過】左足底の胼胝を自分で除去後潰瘍となり皮膚科紹介受診し入院治療。その後皮膚科にて外来フォローするが発熱、歩行困難にて内科外来受診、足底潰瘍の発赤、腫脹、排膿認め、潰瘍部の感染、敗血症にて整形外科転科⇒下肢切断術施行 【リハの全体像】血糖管理をはじめとした内科的管理がなされ、断端評価においてもリハの阻害因子は少なかったが、①把持力低下②高齢による新規学習への不慣れにより、独力での良好な断端収納が困難⇒特に断端変化によって起きる義足荷重時の疼痛や恐怖感が改善しないという問題が生じた。そこで、シリコンライナー装着のクオリティ(ピンの方向やロールオーバーの方法)のディテールに着目して練習を進めた。 【本人の生活の目標】義足歩行自立、自宅復帰	〈義足装着前〉要介護3⇒〈退院時〉要介護1
-------------	---	-----------------------

	開始時	中間	最終
身体機能・動作の自立度	<ul style="list-style-type: none"> ○施設内車イス使用にて自立 ○装着要介助 ○平行棒内歩行 ○左右握力10kg弱 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設内義足歩行自立 ○装着修正自立 ○400m/12分 	<ul style="list-style-type: none"> ○屋外歩行自立, 公共交通機関の利用可能 ○装着自立 ○左右握力20kg ○650m/12分 (二足歩行)
介入内容	<ul style="list-style-type: none"> ○介助装着およびアライメント設定など、義足への安楽な荷重を可能にする環境での荷重・歩行を経験することに主眼を置く。 ※目的 ①全身体力の向上②成功体験による義足の利便性の理解を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○介助も含めたライナー装着の習熟 ○断端および全身状態に関する自己管理の啓蒙 ○非装着時動作の自立(夜中のトイレ・入浴動作) ○屋内の裸足歩行の習熟 	【考察】本症例の問題点は良好な装着状態を独力で行えないことであった。ソケット適合の要素はソケット形状やアライメントだけでなく、いかに変化する断端に合わせて自ら調整できるかが重要となる。PT介入では期間内のみならず日内変動に適応できる装着の工夫を指導することで、常に安心かつ痛みのない装着感を得ることが可能になり、中盤から終盤にかけて想定通りの成果が得られた。

結果: 義足装着の詳細にアプローチしたことにより, 安定感のある義足動作の自立に至った



リハ初期

リハ後期

義足歩行獲得にて在宅復帰	義足使用による生活が自立し、家族の介助者としての役割も含めて術前同様の生活を取り戻すことが出来た事例。
--------------	---

リハ病院入院事例	年齢:50代 性別:男性 疾患名:糖尿病による左下腿切断
	<p>【介入までの経過】</p> <p>40代で糖尿病を指摘され、加療継続するも、両手足の痺れと感覚鈍麻出現。左足部の壊疽を発症し、他院入院、左下腿切断術施行される。術後全身状態が落ち着かず、長期臥床。術後8ヶ月で義足作製、リハ目的に転入院となる。</p> <p>【本人の生活の目標】歩行自立。在宅復帰。</p>

	入院時	中期	退院時(入院から3ヶ月)
ADL・IADLの状態	<ul style="list-style-type: none"> ○院内は車椅子移動 ○移乗動作は見守りを要す 	<ul style="list-style-type: none"> ○病棟内歩行開始(義足装着開始後1ヶ月) ○病院内歩行開始(義足装着開始後2ヶ月) ○院内ADL自立 	<ul style="list-style-type: none"> ○屋外歩行自立 ○在宅復帰
生活行為の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○車椅子使用での院内ADL早期自立 ○義足作製開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○義足歩行の拡大、応用歩行獲得 	<p>【考察】原疾病の問題からも断端トラブルの発生に配慮し、義足装着訓練を低負荷低頻度からゆっくり進めたことにより、結果的には順調に義足歩行を獲得できた。義足非装着での運動、及び義足歩行が拡大できたことにより、全身状態の改善にもつながった。公共交通機関利用を含む屋内外歩行自立にて介護保険サービス利用調整して退院となる。</p>
介入内容	<ul style="list-style-type: none"> ○可動域訓練、起居動作訓練など健側機能向上に対する介入 ○断端管理 ○義足作製、装着訓練の開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○健側機能に対する介入継続 ○家屋環境調査 ○公共交通機関利用訓練 ○断端、及び義足自己管理指導 	

結果: 義足歩行及び家事動作等を獲得できたことにより、本人がキーパーソンとなり、要介護状態の義母との在宅生活を再開することが出来た。

課題: 退院後の自己管理を適正に行っていくための支援方法と内容。



事例 (装具)

理学療法士が装具に関わることの効果	麻痺側下肢の振り出し困難な症例に対して短下肢装具とトレッドミルを使用して振り出しが改善した症例
-------------------	---

急性期リハビリ事例	年齢:50代 性別:男性 疾患名:右前頭葉脳皮質下出血 左片麻痺	振り出し困難→改善
	<p>【介入までの経過】 前ADLは会社員。上記診断にて当院脳神経外科病棟に入院・加療。発症翌日より、リハビリテーション開始、理学療法では、立位・歩行練習を中心に実施。発症から30病日にて随意性は乏しく、SIASで股関節1/5、膝関節0/5、足関節0/5であった。支持は比較的良好であったが、歩行時の振り出しが困難であった。トレッドミルの適応だったが、足関節が下垂し実施が困難。そこで、短下肢装具を併用する事でトレッドミル歩行を可能とし、振り出し改善を目指した。</p> <p>【本人の生活の目標】 歩行自立。</p>	

	利用開始時	使用后	終了
ADL・IADLの状態	・食事自立 ・トイレは、車椅子使用にて自立	・車椅子自立 ・介入後、歩行時の振り出しが介助なく可能。	・屋外歩行自立 ・最終的に復職が可能となった
生活行為の目標	・歩行にてトイレ動作自立	・同左	【考察】 装具無しでは、トレッドミル使用時に立脚期での足部不安定性と、遊脚期での下垂足が顕著であり、練習が困難であった。そこで、短下肢装具を併用する事で上記問題点を解決し、トレッドミルでの歩行練習の実施が可能となった。また、それにより歩行能力が大幅に改善し、復職につながったと考える。
介入内容	・体重免除トレッドミル歩行練習に、短下肢装具(GS design)を併用した歩行練習を実施。	・同左	理学療法士が短下肢装具を有効利用した事で、効果的な運動療法の実施が可能となり、復職に繋がられた一例であったと考える。



結果: 体重免除トレッドミル歩行練習と装具を組み合わせることで、振り出しの改善がみられた。

課題: 装具の種類に関しては、詳細に検討できていない。

理学療法士が装具に関わることの効果	自己判断にて装具を使用しなくなっていたが、使用目的を明確にし、実際の環境にて練習を行うことで公共交通機関利用自立に至った事例
-------------------	--

障害者支援施設入所事例	年齢:50代 性別:男性 疾患名:脳梗塞 左片麻痺	要介護1→要支援1
	<p>【介入までの経過】 発症から9か月経過していたが前々院、前院と単身生活復帰が困難であった事例。前々院にて装具を作製していたが、自己判断により使用しなくなっていた。装具無しでの歩行でも自宅内歩行は獲得可能であったが、単身生活を考慮した際に自宅周囲への買い物や公共交通機関の利用を踏まえると歩行速度、耐久性ともに不十分であった。当初、装具の使用には否定的であったが、本人が望む生活を得るためには歩行の速度と耐久性が必要であることを説明し、装具の再導入により歩行能力の改善を図った。</p> <p>【本人・家族(妹)の生活の目標】 単身生活自立。新規就労(本人のみ)。</p>	

	開始時(入所時)	中間(5ヶ月後)	在宅【単身】復帰(9ヶ月後)
ADL・IADLの状態	<ul style="list-style-type: none"> 生活フロア内歩行自立 10m歩行速度:19秒 連続歩行距離:160m 	<ul style="list-style-type: none"> 施設内歩行(一部屋外)自立 10m歩行速度:9秒 連続歩行距離:1.5km以上 	<ul style="list-style-type: none"> バスの利用自立、電車の利用は路線・時間帯限定で自立。 就労継続支援B型 通所利用
生活行為の目標	<ul style="list-style-type: none"> 施設内歩行の自立 自宅への外泊練習実施 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅周囲の歩行自立(買い物) 公共交通機関の利用自立 	<p>【考察】 装具を使用するだけでなく、運動療法を併用することで歩行速度と耐久性の改善が得られた。しかし、高次脳機能障害のため、練習場面で獲得された動作能力を実際の環境にて発揮することが困難であった。そこで、段階的に敷地内の屋外、敷地外、自宅周囲、公共交通機関と練習場面を経験し、反復練習することにより実際にできる歩行能力として定着した。また、単身生活を獲得したことで、新規就労への足掛かりとして、就労継続支援施設B型の利用へと継げることが可能となった。</p>
介入内容	<ul style="list-style-type: none"> 装具再導入 運動療法 屋外歩行練習 家屋調査 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地練習(電車、バス) 外泊練習 	



結果:装具と運動療法を併用し、実際の環境下にて練習することにより単身生活復帰と公共交通機関の利用が自立となった。

課題:生活場面により必要とされる能力が異なるため、何のために装具が必要であるかを指導する者が必要。

理学療法士が装具に関わることの効果	装具を装着し基本動作訓練・歩行訓練を行うことで活動範囲が向上し旅行が可能となった事例
-------------------	--

通所リハビリ事例	年齢:60代 性別:男性 疾患名:右被殻出血	要介護4→3
	<p>【介入までの経過】</p> <p>脳出血発症後、6か月の入院を経て在宅復帰となる。Br.stageⅢ、プラスチック短下肢装具を回復期病院にて作製。自宅復帰後は通所リハを週3回利用。病前は仕事を行っていたが発症を機に退職。発症後は、注意障害、強い依存心があり臥床傾向であった。</p> <p>【本人・家族の生活の目標】</p> <p>本人:一人で歩けるようになりたい 妻:リハビリを頑張してほしい</p>	


	利用開始時	中間(1年)	最終(2年半)
ADL・IADLの状態	日常生活にほぼ介助を要し、歩行は、T字杖とプラスチック短下肢装具を使用して中等度介助レベル。下肢の引っ掛かりが多く、耐久性も30m。疲労の訴えが強く、通所リハ利用中も臥床していることが多い状態。座位時間も1時間程度。	徐々に耐久性の向上認め、歩行は監視レベルにて90m、階段昇降も軽度介助となる。	歩行耐久性が150mへ延長し、階段昇降は監視～軽度介助レベル、床上動作も軽介助レベルとなる。座位耐久性も3時間へ向上。目標の九州旅行が実現する。また、近所への通院・買い物も歩行にて可能となる。
生活行為の目標	耐久性向上、歩行監視レベル	床上動作能力向上、歩行耐久性向上、九州(熊本)への旅行	【考察】 装具を装着し、反復した基本動作・歩行訓練を行うことで歩行能力・耐久性の向上を認めた。また、能力の向上に伴い日常生活に自信を持つことができることによって、具体的な目標が持て、介入2年半後に旅行が行えるようになった。また患者の依存心・注意障害等も減り、落ち着いた生活が行えるようになった。
介入内容	装具装着下での基本動作訓練、立位・歩行訓練、階段昇降訓練	床上動作訓練追加	

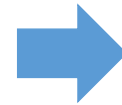
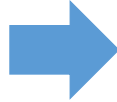


結果:歩行能力向上、耐久性向上に伴い九州旅行が行えるようになった。
課題:在宅期においても装具の知識を持った理学療法士が歩行・基本動作に積極的に関わる必要がある。

理学療法士が装具に関わることの効果	屋外での活動レベルの高い症例に対し、装具調整等を行うことで活動範囲の拡大を目指した事例
-------------------	---

訪問リハビリ事例	年齢:40代 性別:女性 疾患名:脳出血 左片麻痺	要介護3⇒要介護1
	【介入までの経緯】回復期病棟退院後、屋外歩行機会の拡大を希望するケースに対し、装具の調整等にて歩行の実用性向上を目指した。 【本人の生活目標】坂道をしっかり歩いて知人の家に行きたい(知人宅:急斜路含み往復50分)。	

	在宅復帰(介入開始)	中間(1カ月)	在宅復帰2カ月
IADLの状態	近くのバス停まで母親と外出(ADLは入浴以外自立)	母親と電車利用し太鼓を習いに行くなど活動範囲は拡大。知人宅へは急斜路あり困難	○ガイドヘルパー利用し電車で外出 ○知人宅へ母親と歩いて外出可能
生活行為の目標	屋外歩行における使用中装具(金属支柱付き短下肢装具)の重さ等による歩行困難や雨の日の対応	屋外歩行は改善 雨の日に濡れるなどの問題に対する対応	屋外の安全な長距離歩行の獲得
介入内容	<ul style="list-style-type: none"> 本人様の下肢機能と金属支柱付き短下肢装具を確認。⇒足継手(クレンザック)を調整し、背屈角度を調整し、屋外歩行練習を実施。 装具を調整しながら屋外歩行練習を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人様の希望される、軽量の装具では、内反尖足が矯正できないことを患者とともに確認する。簡易装具では踵接地が生じず前方への推進が得られにくい(歩行の速性・耐久性↓)。 足の濡れは、本人の使い慣れた靴(足部のみ)に変更を勧め対応。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい装具にて、屋外歩行練習を実施し、本人も違和感なく屋外歩行が長時間できるようになった。 今後起こりうる身体機能の変化や装具の劣化などについて説明し、その際の装具に関する相談窓口についても情報提供する。



結果:装具が不適合かつ本人の装具の軽量化希望があった症例であった。現状の下肢機能と装具の適合を確認し、装具の調整と同時に屋外歩行練習を実施することによって屋外歩行時間の延長に繋がった。また本人の希望である雨の日にも濡れないような工夫や、今後装具に関する諸問題の解決に関する情報提供も行った。

課題:生活期の装具に関わる専門職は少なく、身体機能や装具そのもののアセスメントができる専門職が少ない。また生活期の装具に関するアフターフォローも課題。

第5章 考察

1) 福祉用具について

福祉用具導入の際の理学療法士の関与は作業療法士とともに高く、評価や練習においては大きな役割を果たしている。しかし、時間や備品の不足から関わる事が出来ないこともあり、特に医療機関では、他の機関に比べて時間や備品の問題と同程度に、知識や技術の不足が問題視されている。また、福祉施設や在宅サービスは必要性が高いものの職員数が少なく時間の確保が難しいという結果であった。知識や技術を持って、今以上に関わる事が出来るならばADL 自立向上や介護者の負担軽減が期待できることも示唆された。

多職種との関わりでは、福祉施設や在宅サービスでは、ケアマネジャーや福祉用具専門相談員の関わりが強く、相談や依頼のくる理学療法士と、こない理学療法士が二分しているように見受けられた。医療機関では、一部義肢装具士の関わりが見られている。特に福祉施設や在宅サービスでは理学療法士がより信頼されるべく、知識や教育、情報収集能力の向上が急務と思われる。

最新情報の入手に関して装具では病院が高く、福祉施設、在宅サービスが低い、福祉用具は福祉施設、在宅サービスが高い。これは義肢装具士や福祉用具専門相談員といった最新情報を持った人に影響をうけていることが示唆されており、理学療法士が自ら情報源になっておらず、チームの中でリードしていないことがわかる。

教育では全体を通して、不十分が6割程度もあり知識や技術の向上は急務といえる。特に卒前教育では不十分の傾向が強かった。

2) 義肢について

福祉用具、装具と比較して義肢に関わっていない割合が高く、その理由として第一に対象がないことがあげられるが、評価、フィッティング、フォローアップに関しては圧倒的に義肢装具士の関わりが大きく、その背景には知識、技術や新しい情報の不足があげられる。卒前、卒後教育に関して福祉用具、装具と同様に不足していると感じているが、義肢ではさらに不足と感じている傾向が強い。

特に最新情報の入手できている医療機関は10%弱、福祉施設では5%以下とほとんど情報がないことが示されている。しかし理学療法士への期待では福祉用具、装具と同様に知識技術の不足があげられており、特に医療機関における必要性が高い結果となった。また卒前、卒後の教育においても義肢では80%弱の人が情報が不足しているとしており、特に現場の要求に対する情報の供給のギャップが浮き彫りとなった。

3) 装具について

装具を必要とする対象者は2割程度であり、施設の種類に関係なく、装具の評価、フィッティング、練習、フォローアップのほとんどの場面で関与している結果であった。装具に関わる他の職種としては、場面に関係なく義肢装具士、作業療法士が多く、福祉施設や在宅サービス事業所では医療機関に比べてケアマネジャーの関わりが多かった。一方で関

与できない理由は、「知識・技術が不足」が 5 割程度、「時間がない」、「備品がない」が 4 割程度と多く、医療機関、福祉施設、在宅サービス事業所の順で頻度が高い。なお、備品に関しては、医療機関では各種の装具を保有しているが、福祉施設、在宅サービス事業所では、「ない」が最も多かった。

装具に対する教育状況は、卒前(養成校等)、卒後 (PT 協会、県士会、職場内) とともに、ほとんどの PT が、知識・技術のどちらも十分ではないと回答している。最新情報の入手は、約半数が出来ていないと回答し、特に在宅サービス事業所では 7 割に及んでいる。

このような状況の中で、PT がさらに装具に関与することで、「ADL 自立度の向上」「生活の質の向上」「心身機能の向上」「介助者の負担の軽減」「地域への社会活動への参加」のすべての項目で、効果が期待できると回答している。以上のことから、卒前・卒後の教育の充実、装具に関する情報発信を行うことで、理学療法士が今以上に装具に関わり、効果を発揮することが必要と思われる。

4) 課題

本調査結果を踏まえ、福祉用具・義肢・装具支援に関する理学療法士の関わりについて、課題を下記の通り整理した。

①福祉用具・義肢・装具に関する共通の課題

- ・言葉の定義の明確化
- ・「フォローアップ」という言葉の定義の明確化
- ・卒前教育の充実
- ・新人教育の充実
- ・情報へのアクセスの改善

②福祉用具に関する課題

- ・福祉用具の地域差 (物品へのアクセスのしやすさ)
- ・備品の充実

③義肢に関する課題

- ・障害者スポーツや低活動高齢者へ情報提供と義肢療法の確立
- ・切断患者への義足処方・理学療法へつながっていない理由の解明

④装具に関する課題

- ・装具処方の現状
- ・病期に合わせた装具療法の研修
- ・備品の充実

第6章 資料

調查票

アンケートにアクセスしていただき、ありがとうございます。

回答するにあたって、下記条件を必ず、ご確認ください。

1. 本調査は、日本支障工學理学療法学会が、株式会社インテリサーチに委託して実施する、実態調査です。福祉用具・義肢・装具に関する理学療法士の活動実態を調査いたします。
2. 回答者は原則、日本理学療法士協会より回答用のIDとパスワードが送付された、医療・介護・福祉施設・在宅サービス事業所に従事する本会会員、管理者です。
回答が難しい場合は、回答できる方が回答いただいても構いません。
3. 本Webアンケートシステムは、回答の途中再開が可能です。また、回答後の修正も可能です。回答後の修正を希望される方は、回答後再度URLにアクセスいただき、回答をお読みいただけます。回答いただいたデータは上書きで保存されますので、ご注意ください。
4. 設問の事前の確認は下記2つの方法が可能です。
1) 日本理学療法士協会ホームページ 新着情報から「理学療法士の福祉用具・義肢・装具支援に関する実態調査」ご協力のお誘いをクリックして下さい。調査依頼文と一緒に、鉛字一覧を確認することができます。<http://www.jaapt.or.jp/info/jtfa/>
2) 調査URLにアクセス後、こちらの[調査票](#) (PDFファイル)をご確認下さい。設問をご覧いただけます。
5. 本Webアンケートシステムは下記環境を推奨しております。
<PC Windows>
Internet Explorer9以上、Firefox最新バージョン、Google Chrome 最新バージョン

<Macintosh>
Safari5.0以上

<スマートフォン>
iPhone、iPod touch: iOS7以上・Safari、Android: 4.0以上・標準ブラウザ
6. ご回答いただいた内容は、次のように取り扱うことをお約束いたします。
(1) 調査研究目的以外には使用いたしません。
(2) ご回答いただいた内容は統計的に処理し、ご回答者が特定できないようにいたします。
(3) 自由記載の内容も、個々の回答者が特定されないよう配慮し、データいたします。
(4) 調査への拒否があってもご回答者に不利益が生じることは一切ございません。
(5) お答え頂いた内容によって、ご回答者様およびご回答者様が所属するご職場の評価が行われることは、一切ございません。
(6) 回答をもって、調査への同意が得られたものとします。

アンケートにご協力いただける場合は、ユーザーIDとパスワードを入力してご回答ください。

開始

Q1 ご回答いただく職場の主たる業態をお答えください。

(回答は1つ)

医療機関

福祉施設

在宅サービス事業所

その他 具体的に：

Q2 Q1でご回答いただいた職場の理学療法士の人数をお答えください。

(回答は1つ)

10人未満

10人以上20人未満

20人以上30人未満

30人以上

不明

Q3 あなたの職場で理学療法士が関わっている主な疾患をお答えください。

(回答は3つまで)

脳血管障害

脊髄損傷

骨関節疾患

外傷

神経難病

脳性麻痺

内部疾患

小児疾患

虚弱高齢

その他 具体的に：

不明

Q4 施設備品として準備されている福祉用具についてお答えください。

(回答はいくつでも)

<input type="checkbox"/> 入浴関連 (バスボード、シャワーチェア等)
<input type="checkbox"/> 排泄関連 (ポータブルトイレ、補高便座等)
<input type="checkbox"/> 移動関連 (車いす、杖、歩行器、手すり、擦り付け板等)
<input type="checkbox"/> 移乗 (トランスファーボード、リフト等)
<input type="checkbox"/> 外出時環境 (段差解消機、階段昇降機、スロープ等)
<input type="checkbox"/> 食事 (スプーン、皿、ポータブルスプリングバランス等)
<input type="checkbox"/> 整容 (長柄ブラシ等)
<input type="checkbox"/> 更衣 (ボタンエイド、ソックスエイド等)
<input type="checkbox"/> コミュニケーション (文字盤、意思伝達装置等)
<input type="checkbox"/> 姿勢調整 (クッション、座位保持装置等)
<input type="checkbox"/> その他 具体的に： <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 該当なし

Q5 施設備品として準備されている下肢装具についてお答えください。

(回答はいくつでも)

<input type="checkbox"/> 長下肢装具
<input type="checkbox"/> 金属支柱付き短下肢装具
<input type="checkbox"/> プラスチック製短下肢装具 (継手なし)
<input type="checkbox"/> プラスチック製短下肢装具 (継手あり)
<input type="checkbox"/> オルトトップAFO
<input type="checkbox"/> リーストラップ
<input type="checkbox"/> 膝装具
<input type="checkbox"/> その他 具体的に： <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 該当なし

Q6 理学療法士が関わる支援対象者全体のうち各支援を必要とするおおよその割合をお答えください。

(回答は半角数字で入力)

※0～10の半角の数字をご入力ください。各支援の対象者がいない場合は「0」と入力してください。

福祉用具 約 割
義肢 約 割
装具 約 割

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q7 理想

(回答は1つ)

1. 評価【A.福祉用具】

関わるべき

関わらなくてよい

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q8 現状

(回答は1つ)

1. 評価【A.福祉用具】

関わっている

関わっていない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q9 理想と現状に差がありますか。

(回答は1つ)

1. 評価【A.福祉用具】

ある

ない

わからない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q10 Q9で“ある”とお答えの方にお伺いします。差が生じる理由についてお答えください。

(回答は1~3つでも)

1. 評価【A.福祉用具】

- 時間がない
- 対応するのに必要な知識が不足している
- 対応するのに必要な技術が不足している
- 対応するのに必要な備品が不足している
- 理学療法士以外の職種が対応している
- 理学療法士への依頼がない
- 保険適応されないなどの経営的理由
- その他 具体的に：
- 該当する患者がいない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q11 理想

(回答は1つ)

1. 評価【B.義肢】

関わるべき

関わらなくてよい

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q12 現状

(回答は1つ)

1. 評価【B.義肢】

関わっている

関わっていない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q13 理想と現状に差がありますか。

(回答は1つ)

1. 評価【B.義肢】

- ある
- ない
- わからない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q14 Q13で“ある”とお答えの方にお伺いします。差が生じる理由についてお答えください。

(回答はいくつでも)

1. 評価【B.義肢】

- 時間がない
- 対応するのに必要な知識が不足している
- 対応するのに必要な技術が不足している
- 対応するのに必要な備品が不足している
- 理学療法士以外の職種が対応している
- 理学療法士への依頼がない
- 保険適応されないなどの経営的理由
- その他 具体的に：
- 該当する患者がいない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q15 理想

(回答は1つ)

1. 評価【C.装具】

関わるべき

関わらなくてよい

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q16 現状

(回答は1つ)

1. 評価【C.装具】

関わっている

関わっていない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q17 理想と現状に差がありますか。

(回答は1つ)

1. 評価【C.装具】

ある

ない

わからない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q18 Q17で“ある”とお答えの方にお伺いします。差が生じる理由についてお答えください。

(回答はいくつでも)

1. 評価【C.装具】

時間がない

対応するのに必要な知識が不足している

対応するのに必要な技術が不足している

対応するのに必要な備品が不足している

理学療法士以外の職種が対応している

理学療法士への依頼がない

保険適応されないなどの経営的理由

その他 具体的に：

該当する患者がいらない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q19 理想

(回答は1つ)

2. 作製・フィッティング 【A.福祉用具】

関わるべき

関わらなくてよい

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q20 現状

(回答は1つ)

2. 作製・フィッティング 【A.福祉用具】

関わっている

関わっていない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q21 理想と現状に差がありますか。

(回答は1つ)

2. 作製・フィッティング 【A.福祉用具】

ある

ない

わからない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q22 Q21で“ある”とお答えの方にお伺いします。差が生じる理由についてお答えください。

(回答は1つでも)

2. 作製・フィッティング 【A.福祉用具】

- 時間がない
- 対応するのに必要な知識が不足している
- 対応するのに必要な技術が不足している
- 対応するのに必要な備品が不足している
- 理学療法士以外の職種が対応している
- 理学療法士への依頼がない
- 保険適応されないなどの経営的理由
- その他 具体的に：
- 該当する患者がいない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q23 理想

(回答は1つ)

2. 作製・フィッティング 【B.義肢】

関わるべき

関わらなくてよい

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q24 現状

(回答は1つ)

2. 作製・フィッティング 【B.義肢】

関わっている

関わっていない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q25 理想と現状に差がありますか。

(回答は1つ)

2. 作製・フィッティング 【B.義肢】

- ある
- ない
- わからない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q26 Q25で“ある”とお答えの方にお伺いします。差が生じる理由についてお答えください。

(回答は1つでも)

2. 作製・フィッティング 【B.義肢】

- 時間がない
- 対応するのに必要な知識が不足している
- 対応するのに必要な技術が不足している
- 対応するのに必要な備品が不足している
- 理学療法士以外の職種が対応している
- 理学療法士への依頼がない
- 保険適応されないなどの経営的理由
- その他 具体的に：
- 該当する患者がない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q27 理想

(回答は1つ)

2. 作製・フィッティング 【C.装具】

- 関わるべき
- 関わらなくてよい

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q28 現状

(回答は1つ)

2. 作製・フィッティング 【C.装具】

関わっている

関わっていない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q29 理想と現状に差がありますか。

(回答は1つ)

2. 作製・フィッティング 【C.装具】

ある

ない

わからない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q30 Q29で“ある”とお答えの方にお伺いします。差が生じる理由についてお答えください。

(回答はいくつでも)

2. 作製・フィッティング 【C.装具】

時間がない

対応するのに必要な知識が不足している

対応するのに必要な技術が不足している

対応するのに必要な備品が不足している

理学療法士以外の職種が対応している

理学療法士への依頼がない

保険適応されないなどの経営的理由

その他 具体的に：

該当する患者がない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q31 理想

(回答は1つ)

3. ADL練習【A.福祉用具】

関わるべき

関わらなくてよい

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q32 現状

(回答は1つ)

3. ADL練習【A.福祉用具】

関わっている

関わっていない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q33 理想と現状に差がありますか。

(回答は1つ)

3. ADL練習【A.福祉用具】

ある

ない

わからない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q34 Q33で“ある”とお答えの方にお伺いします。差が生じる理由についてお答えください。

(回答は1~5つまで)

3. ADL練習【A.福祉用具】

- 時間がない
- 対応するのに必要な知識が不足している
- 対応するのに必要な技術が不足している
- 対応するのに必要な備品が不足している
- 理学療法士以外の職種が対応している
- 理学療法士への依頼がない
- 保険適応されないなどの経営的理由
- その他 具体的に：
- 該当する患者がない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q35 理想

(回答は1つ)

3. ADL練習【B.義肢】

関わるべき

関わらなくてよい

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q36 現状

(回答は1つ)

3. ADL練習【B.義肢】

関わっている

関わっていない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q37 理想と現状に差がありますか。

(回答は1つ)

3. ADL練習【B.義肢】

- ある
- ない
- わからない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q38 Q37で“ある”とお答えの方にお伺いします。差が生じる理由についてお答えください。

(回答はいくつでも)

3. ADL練習【B.義肢】

- 時間がない
- 対応するのに必要な知識が不足している
- 対応するのに必要な技術が不足している
- 対応するのに必要な備品が不足している
- 理学療法士以外の職種が対応している
- 理学療法士への依頼がない
- 保険適応されないなどの経営的理由
- その他 具体的に：
- 該当する患者がいない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q39 理想

(回答は1つ)

3. ADL練習【C.装具】

- 関わるべき
- 関わらなくてよい

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q40 現状

(回答は1つ)

3. ADL練習【C.装具】

関わっている

関わっていない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q41 理想と現状に差がありますか。

(回答は1つ)

3. ADL練習【C.装具】

ある

ない

わからない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q42 Q41で“ある”とお答えの方にお伺いします。差が生じる理由についてお答えください。

(回答は1くつでも)

3. ADL練習【C.装具】

時間がない

対応するのに必要な知識が不足している

対応するのに必要な技術が不足している

対応するのに必要な備品が不足している

理学療法士以外の職種が対応している

理学療法士への依頼がない

保険適応されないなどの経営的理由

その他 具体的に：

該当する患者がない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q43 理想

(回答は1つ)

4. 導入や作製直後のフォローアップ【A.福祉用具】

関わるべき

関わりなくてよい

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q44 現状

(回答は1つ)

4. 導入や作製直後のフォローアップ【A.福祉用具】

関わっている

関わっていない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねしますか。

Q45 理想と現状に差がありますか。

(回答は1つ)

4. 導入や作製直後のフォローアップ【A.福祉用具】

ある

ない

わからない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q46 Q45で“ある”とお答えの方にお伺いします。差が生じる理由についてお答えください。

(回答はいくつでも)

4. 導入や作製直後のフォローアップ【A.福祉用具】

- 時間がない
- 対応するのに必要な知識が不足している
- 対応するのに必要な技術が不足している
- 対応するのに必要な備品が不足している
- 理学療法士以外の職種が対応している
- 理学療法士への依頼がない
- 保険適応されないなどの経営的理由
- その他 具体的に：
- 該当する患者がいない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q47 理想

(回答は1つ)

4. 導入や作製直後のフォローアップ【B.義肢】

関わるべき

関わらなくてよい

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q48 現状

(回答は1つ)

4. 導入や作製直後のフォローアップ【B.義肢】

関わっている

関わっていない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q49 理想と現状に差がありますか。

(回答は1つ)

4. 導入や作製直後のフォローアップ 【B.義肢】

- ある
- ない
- わからない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q50 Q49で“ある”とお答えの方にお伺いします。差が生じる理由についてお答えください。

(回答は1~いくつでも)

4. 導入や作製直後のフォローアップ 【B.義肢】

- 時間がない
- 対応するのに必要な知識が不足している
- 対応するのに必要な技術が不足している
- 対応するのに必要な備品が不足している
- 理学療法士以外の職種が対応している
- 理学療法士への依頼がない
- 保険適応されないなどの経営的理由
- その他 具体的に：
- 該当する患者がいない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q51 理想

(回答は1つ)

4. 導入や作製直後のフォローアップ 【C.器具】

- 関わるべき
- 関わらなくてよい

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q52 現状

(回答は1つ)

4. 導入や作製直後のフォローアップ【C.装具】

関わっている

関わっていない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q53 理想と現状に差がありますか。

(回答は1つ)

4. 導入や作製直後のフォローアップ【C.装具】

ある

ない

わからない

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期における理学療法士の関わりについて理想と現状についてお尋ねします。

Q54 Q53で“ある”とお答えの方にお伺いします。差が生じる理由についてお答えください。

(回答は1〜くつでも)

4. 導入や作製直後のフォローアップ【C.装具】

時間がない

対応するのに必要な知識が不足している

対応するのに必要な技術が不足している

対応するのに必要な備品が不足している

理学療法士以外の職種が対応している

理学療法士への依頼がない

保険適応されないなどの経営的理由

その他 具体的に：

該当する患者がない

Q55 日常業務で福祉用具を活用している場面についてお答えください。

(回答はいくつでも)

- 入浴
- 排泄
- 移動
- 移乗
- 外出
- 食事
- 整容
- 更衣
- 姿勢調整
- コミュニケーション
- なし

義肢・装具で修理や再作製等についてお尋ねします。

Q56 修理や再作製等を実施していますか。

(回答は1つ)

A.義肢

- している
- していない

Q57 Q56で“している”とお答えの方にお伺いします。実施している内容をお答えください。

(回答はいくつでも)

A.義肢

- 資料を渡している
- 算定期間内に対応している
- 算定期間後に外来で対応している
- その他 具体的に：

義肢・装具で修理や再作製等についてお尋ねします。

Q58 修理や再作製等を実施していますか。

(回答は1つ)

B.装具

している

していない

Q59 Q58で“している”とお答えの方にお伺いします。実施している内容をお答えください。

(回答は、いくつでも)

B.装具

資料を渡している

算定期間内に対応している

算定期間後に外来で対応している

その他 具体的に：

Q60

「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期で理学療法士以外のどのような職種が関わっているのかお答えください。

(回答は1つでも)

1/3

A. 福祉用具

1.評価

<input type="checkbox"/> 作業療法士	<input type="checkbox"/> 指導員（生活指導員）
<input type="checkbox"/> 言語聴覚士	<input type="checkbox"/> 教員
<input type="checkbox"/> 臨床心理士	<input type="checkbox"/> リハビリテーションエンジニア
<input type="checkbox"/> リハ科医師	<input type="checkbox"/> 福祉用具専門相談員
<input type="checkbox"/> リハ科以外の医師	<input type="checkbox"/> ケアマネージャー
<input type="checkbox"/> 義肢装具士	<input type="checkbox"/> その他 具体的に： <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 看護師	<input type="checkbox"/> 不明
<input type="checkbox"/> 保健師	<input type="checkbox"/> 関わっていない
<input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー	

2/3

B. 義肢

3/3

C. 装具

Q61 「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期で理学療法士以外のどのような職種が関わっているのかお答えください。

(回答は1くつでも)

1/3

A. 福祉用具

2.作製・フィッティング

<input type="checkbox"/> 作業療法士	<input type="checkbox"/> 指導員（生活指導員）
<input type="checkbox"/> 言語聴覚士	<input type="checkbox"/> 教員
<input type="checkbox"/> 臨床心理士	<input type="checkbox"/> リハビリテーションエンジニア
<input type="checkbox"/> リハ科医師	<input type="checkbox"/> 福祉用具専門相談員
<input type="checkbox"/> リハ科以外の医師	<input type="checkbox"/> ケアマネージャー
<input type="checkbox"/> 義肢装具士	<input type="checkbox"/> その他 具体的に： <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 看護師	<input type="checkbox"/> 不明
<input type="checkbox"/> 保健師	<input type="checkbox"/> 関わっていない
<input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー	

2/3

B. 義肢

3/3

C. 装具

Q62 「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期で理学療法士以外のどのような職種が関わっているのかお答えください。

(回答は1回でも)

1/3

A. 福祉用具

3.ADL練習

<input type="checkbox"/> 作業療法士	<input type="checkbox"/> 指導員（生活指導員）
<input type="checkbox"/> 言語聴覚士	<input type="checkbox"/> 教員
<input type="checkbox"/> 臨床心理士	<input type="checkbox"/> リハビリテーションエンジニア
<input type="checkbox"/> リハ科医師	<input type="checkbox"/> 福祉用具専門相談員
<input type="checkbox"/> リハ科以外の医師	<input type="checkbox"/> ケアマネージャー
<input type="checkbox"/> 義肢装具士	<input type="checkbox"/> その他 具体的に： <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 看護師	<input type="checkbox"/> 不明
<input type="checkbox"/> 保健師	<input type="checkbox"/> 関わっていない
<input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー	

2/3

B. 義肢

3/3

C. 装具

Q63 「1.評価」、「2.作製・フィッティング」、「3.ADL練習」、「4.導入や作製直後のフォローアップ」のそれぞれの支援時期で理学療法士以外のどのような職種が関わっているのかお答えください。

(回答はいくつでも)

1/3

A. 福祉用具

4.導入や作製直後のフォローアップ

<input type="checkbox"/> 作業療法士	<input type="checkbox"/> 指導員（生活指導員）
<input type="checkbox"/> 言語聴覚士	<input type="checkbox"/> 教員
<input type="checkbox"/> 臨床心理士	<input type="checkbox"/> リハビリテーションエンジニア
<input type="checkbox"/> リハ科医師	<input type="checkbox"/> 福祉用具専門相談員
<input type="checkbox"/> リハ科以外の医師	<input type="checkbox"/> ケアマネージャー
<input type="checkbox"/> 義肢装具士	<input type="checkbox"/> その他 具体的に： <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 看護師	<input type="checkbox"/> 不明
<input type="checkbox"/> 保健師	<input type="checkbox"/> 関わっていない
<input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー	

2/3

B. 義肢

3/3

C. 装具

理学療法士が福祉用具・義肢・装具の支揃に、今まで以上により深くかかわることの意義についてお尋ねします。

Q64 今まで以上に理学療法士がより深く関わることで期待できる効果はありますか。

(回答は1つ)

A.福祉用具

- ある
- ない
- 今まで関わっていない

Q65 Q64で“ある”とお答えの方にお尋ねします。期待できる効果をお答えください。

(回答はいくつでも)

A.福祉用具

- 心身機能の向上
- ADL自立度の向上
- 介助者の負担の軽減
- 地域や社会活動への参加
- 生活の質の向上
- その他 具体的に：

理学療法士が福祉用具・義肢・装具の支揃に、今まで以上により深くかかわることの意義についてお尋ねします。

Q66 今まで以上に理学療法士がより深く関わることで期待できる効果はありますか。

(回答は1つ)

B.義肢

- ある
- ない
- 今まで関わっていない

Q67 Q66で“ある”とお答えの方にお尋ねします。期待できる効果をお答えください。

(回答は1~5つでも)

B.義肢

心身機能の向上

ADL自立度の向上

介助者の負担の軽減

地域や社会活動への参加

生活の質の向上

その他 具体的に：

理学療法士が福祉用具・義肢・装具の支援に、今まで以上により深くかかわることの意義についてお尋ねします。

Q68 今まで以上に理学療法士がより深く関わることで期待できる効果はありますか。

(回答は1つ)

C.装具

ある

ない

今まで関わっていない

Q69 Q68で“ある”とお答えの方にお尋ねします。期待できる効果をお答えください。

(回答は1~5つでも)

C.装具

心身機能の向上

ADL自立度の向上

介助者の負担の軽減

地域や社会活動への参加

生活の質の向上

その他 具体的に：

卒前教育についてお伺いいたします。

Q70 卒前教育や研修機会についてお答えください。(新卒者や実習生の現状から)

(回答は1つ)

1/2

知識について

2/2

技術について

A.福祉用具

十分

やや十分

ふつう

やや不十分

不十分

卒前教育についてお伺いいたします。

Q71 卒前教育や研修機会についてお答えください。(新卒者や実習生の現状から)

(回答は1つ)

1/2

知識について

2/2

技術について

B.義肢

十分

やや十分

ふつう

やや不十分

不十分

卒前教育についてお伺いいたします。

Q72 卒前教育や研修機会についてお答えください。(新卒者や実習生の現状から)

(回答は1つ)

1/2

知識について

2/2

技術について

C. 装具

十分

やや十分

ふつう

やや不十分

不十分

卒後教育についてお伺いいたします。

Q73 卒後(協会、都道府県士会等)での教育や研修機会についてお答えください。

(回答は1つ)

1/2

知識について

2/2

技術について

A. 福祉用具

十分

やや十分

ふつう

やや不十分

不十分

卒後教育についてお伺いいたします。

Q74 卒後(協会、都道府県士会等)での教育や研修機会についてお答えください。

(回答は1つ)

1 / 2

知識について

2 / 2

技術について

B.義肢

十分

やや十分

ふつう

やや不十分

不十分

卒後教育についてお伺いいたします。

Q75 卒後(協会、都道府県士会等)での教育や研修機会についてお答えください。

(回答は1つ)

1 / 2

知識について

2 / 2

技術について

C.装具

十分

やや十分

ふつう

やや不十分

不十分

職場での教育についてお伺いいたします。

Q76 職場内での教育や研修機会についてお答えください。

(回答は1つ)

1/2

知識について

2/2

技術について

A.福祉用具

十分

やや十分

ふつう

やや不十分

不十分

職場での教育についてお伺いいたします。

Q77 職場内での教育や研修機会についてお答えください。

(回答は1つ)

1/2

知識について

2/2

技術について

B.義肢

十分

やや十分

ふつう

やや不十分

不十分

職場での教育についてお伺いいたします。

Q78 職場内での教育や研修機会についてお答えください。

(回答は1つ)

1 / 2

知識について

2 / 2

技術について

C. 装具

十分

やや十分

ふつう

やや不十分

不十分

最新情報の入手状況についてお尋ねします。

Q79 入手状況

(回答は1つ)

A. 福祉用具

出来ている

出来ていない

わからない

Q79で「出来ている」とお答えの方におたずねします。

Q80 情報の入手先についてお答えください。

(回答は1つでも)

A. 福祉用具

メーカーや業者

ソーシャルワーカーやケアマネージャー

雑誌や広告

学会や講習会

論文

展示会

インターネットやメールマガジン

その他 具体的に：

最新情報の入手状況についてお尋ねします。

Q81 入手状況

(回答は1つ)

B.義肢

出来ている

出来ていない

わからない

Q81で「出来ている」とお答えの方におたずねします。

Q82 情報の入手先についてお答えください。

(回答は1つでも)

B.義肢

メーカーや業者

ソーシャルワーカーやケアマネージャー

雑誌や広告

学会や講習会

論文

展示会

インターネットやメールマガジン

その他 具体的に：

最新情報の入手状況についてお尋ねします。

Q83 入手状況

(回答は1つ)

C.装具

出来ている

出来ていない

わからない

Q83で「出来ている」とお答えの方におたずねします。

Q84 情報の入手先についてお答えください。

(回答はいくつでも)

C. 装具

メーカーや業者

ソーシャルワーカーやケアマネージャー

雑誌や広告

学会や講習会

論文

展示会

インターネットやメールマガジン

その他 具体的に：

回答データが送信されました。

ご協力ありがとうございました。

理学療法士の福祉用具・義肢・装具支援に関する実態調査

報告書

発行 日本支援工学理学療法学会

URL: <http://jspt.japanpt.or.jp/jptsat/>

平成 29(2017)年 3 月発行